

# 事業報告書

平成30（2018）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

# 平成30年度 アドベンチスト福祉会 事業報告

理事長 白石 尚

平成29年度から実施された社会福祉法人制度改革により、社会福祉法人の本来の役割と使命がより厳しく問われるようになりました。当法人15周年にあたり講演をいただいた横須賀基督教社会館館長の阿部志朗先生は、地域福祉とは何かについて、『月刊福祉』2018年10月号の中で、「ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。倒れば、ひとりがその友を起す。倒れても起こしてくれる友のない人は不幸だ」という聖書の言葉を引用して、次のように述べておられます。

「この二人から人間関係が始まりますが、これを倍数していくことでコミュニティーが形成されていくのです。…ヨーロッパでは、昔から尊敬されてきた職業が3つあります。医者、弁護士、牧師です。弱さに関わる、弱さを守る職業だという共通点があります。福祉というのは、まさにこのカテゴリーに当たります。弱さを守り、弱さとともにあゆんでいくということです。福祉とは、生きる喜びを明日への希望を伝えることなのです。言い換えるならば、福祉の仕事に携わっている人自身が、喜びと希望に生きていなければならないということです」

人のもつ弱さをどうやって守るかですが、英国でホスピスを始めたシシリー・ソンドースは「ここでできることはただひとつ、寄り添うこと」と言いました。福祉というのは、人に寄り添うことです。寄り添うことで弱さを守り、強さへ変え、ともにあゆんでいくということです。社会福祉法人としての役割と存在意義をさらに厳しく問われる中、諸施設を通して今後更にご利用者や地域のニーズに応えるサービスを展開していかなければなりません。

インドネシアからの7名のEPA候補生が日本語の学習に励んでいます。ぜひとも彼ら全員が国家試験に合格し、介護福祉士として本法人はもとより、やがて彼らの祖国の福祉事業に貢献してくれることを願わずにおられません。

# 事業報告書

平成30（2018）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福社会

シャローム横浜

---

# 目 次

平成30年度アドベンチスト福祉会

シャローム横浜 事業報告

施設長	1
相談・企画課	2
ケアサービス	
◇特別介護棟（3階）	5
◇一般虚弱棟（4階）	8
医務室	11
施設サービスデータ	12
栄養課（食事サービス）	16
在宅サービス	
◇通所介護（一般）	19
◇認知症対応型通所介護（ひまわり）	21
◇訪問介護	23
事務局	25

# 平成30年度 シャローム横浜事業報告

施設長 村本 英邦

シャローム横浜は、平成30年度に「寄り添うケアの実践」をサービスの基本姿勢とし、新しい目標にチャレンジするために向こう3年に渡って「未来に向けた一致（新たなチャレンジに向けた合意）」をサービスの基本方針として取り組んでいる。その中で特に意識したのはケアを受ける方々に質の高いサービスを提供するために必要なチームワークの大切さである。ケアの本質を真に理解することは結果的にご利用者に向かう個々の職員の満足度を高めることにも繋がると信じる。各部門には特有の課題があるが、日々の業務において福祉の本質論を見つめて、それを業務に落とし込んでいく作業は回りくどいことのようにも思える。しかしこの作業なくして福祉はご利用者に寄り添うことはできない。この点については朝礼や研修、チャプレンが主催する様々な企画を通して職員に伝達していく機会を設けたと確信している。その他、具体的な内容は各部門の報告に譲るが、以下は多くある中で特に報告すべき点として挙げておきたい。

- ・ 特養の在籍期間が短くなる中で、合計稼働率は目標数値に到達しなかったが、退去状況に合わせた待機状況の把握と整理を事前に行い、入所に向けた準備を行った。
- ・ 感染症の発症は確認されなかった。標準予防策の徹底を副施設長が招集する安全衛生委員会で確認し対応した。当該委員会の機能が十分に果たされたと理解する。また事務局を中心としたハウスキーピングは館内の衛生管理や美化に徹底して取り組み、感染症等の発症予防に大きく貢献したと評価する。
- ・ ケア部門（現場）からの提案で排泄用具の業者を変更し、半期で前年度比120万円を削減できたことは特筆すべき成果である。
- ・ 看護師のオンコールは年間120件を超える数に課題を残した。
- ・ 在宅サービスにおいては、一般通所、ひまわりの両通所介護の重度ご利用者の在宅支援を意識し、在宅生活の継続を希望するご家族の状況も視野に入れた総合支援を心がけた。特に施設に併設する在宅部門として、ショートステイ担当との連携は意味が大きかった。
- ・ これまで地域の細部に浸透してその必要を満たしてきた訪問介護事業は、他事業所の営業状況から将来性に課題を有し、スタッフの情熱や高い意識に反して事業の廃止を決断した。長年にわたりご利用者の必要に応じてきたこの事業廃止について改めて経営と運営の課題を修復できなかったことを反省する。
- ・ 栄養課の取り組みでは特に「地域」を意識し、栄養指導、食品衛生講習会の開催地域を1地域増やすことができた。開催回数としては予定の5回に満たなかったが、地域を増やすことでより多くの地域に当施設の存在意義をアピールすることができた。
- ・ 今年で3回目の受け入れとなるEPA候補生1名は、初の男性候補生として現場にもよく馴染み今後の活躍に期待が持てる人物であった。すでに受け入れた6名を含む7名の候補生がその目的を果たすために勉学に適した環境整備を充実させたい。
- ・ EPA候補生の日本語学習については、ボランティア講師と施設の担当者が積極的に関わることで信頼関係を構築し、日本語能力検定等の合格に繋げることができた。これは実に素晴らしい成果であり、ボランティアの関りに心から謝意を表明したい。

以上

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
相談・企画課	杉山 肇
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特養入所23名（前年比5名減）、退所が27名（前年比1名増）であった。今年度の入所者も在籍期間が短い傾向にあり、そのため空床期間が多く稼働率に影響を及ぼした。</li> <li>2 地域社会への参加については、不定期で行った近隣生活相談員との交流や、地域の老人会集會に参加するなど、ニーズの把握に努めた。また、緊急を要する短期入所生活介護に適時対応するなど、直面するニーズにも速やかに対応した。</li> <li>3 第三者評価の来年度実施に向けて、事前準備を行った。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 稼働率は、事務作業の遅れ等による影響で空床期間が長くなり、目標は未達成となった。</li> <li>2 若葉台ジュニアボランティアは定期的に受入を行い、若葉台一丁目老人会集會へ定期的に参加し、地域の方々が関心ある内容の講話を行った。また、横浜ほうゆう病院デイケア家族会が施設見学に来所され、特養・デイサービス・ケアハウスを見て頂いた。若葉台自治会主催の孫子老の会は、今年度も天候不良のため中止となった。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特養94.84%、短期101.46%、合計稼働率が95.73%で、目標達成する事ができなかった。</li> <li>2 特養待機者リストを3日以内に作成し、常時待機者3名を確保できた。</li> <li>3 外部研修として地域、キャリアパス、生活相談員、ボランティア、感染症等の研修に参加し、個々のスキルアップを図った。年5回参加の目標は達成した。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域ケア会議やカンファレンス、認知症に関するDVD鑑賞会に参加し、地域ケアプラザとの繋がりを持てるよう努めた。</li> <li>2 業務の見える化により仕事にメリハリをつけ、個々の業務量や業務内容を把握することで、過度の時間外業務の軽減に努めた。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 さまざまな複合的生活課題を抱えながら、生活をされている方々への対応として、ご利用から強く在宅復帰の希望があったため、関連機関と協力し在宅復帰支援を行った。また、やむを得ず退所としたケースにおいても、関連機関の協力のもと他施設に異動する支援を行った。</li> <li>2 緊急や急を要するショートステイ受入判断を速やかに行い、空床ベッドを活用した。</li> </ol>

VI	<p><b>業務の新たな試み</b> (昨年度より開始した事業・業務・対応など)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 チャレンジ2020 “やりたい事”、“チャレンジしたい事”を、主任を主体に取りまとめて、平成31年度事業計画に『シャローム横浜が魅力的な職場であるとアピールすると同時に次世代の育成を行う』ことを明記した。</li> <li>2 事務作業の効率化を目的に福祉機器展などに参加し、情報収集を行った。</li> <li>3 嚙下困難者のケアについて、適時カンファレンスに参加して情報共有や対応等の意見交換を行い、ケアサービス課主催の嚙下困難者研修に参加するなど、知識の向上に努めた。</li> <li>4 多様化する情報発信については、個別にマニュアル等を作成することはできなかったが、無料イラストを使用する際は、発信元に使用確認するなど留意した。</li> <li>5 医務室、ケアサービス課の協力のもと、看取り対応の体制見直し（診断、エンゼルケア、夜間対応等）を行った。</li> </ol> <p>【ケアサービス課共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6 ナースコールの変更を行い、PHS⇒アンドロイド（スマホ）に変更となった。今後、介護ソフトとの連携に向けて準備していく。</li> <li>7 特別介護棟多床室5部屋に、補助金を活用してパーテーションを設置した。ご利用者のプライバシー保護と感染症の蔓延防止対策として期待している。</li> <li>8 10月より、排泄用具（オムツ、パット、リハビリパンツ等）の業者を“光洋”に変更し、半期で前年度比120万円の削減を行うことができた。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目標であった稼働率97%が、事務作業等の遅れにより空床日数が増加した結果、達成できなかった。また、ケアサービス課課長と兼務により、想定していた業務量より多かったことや、様々な課題解決に時間を要した結果と考える。今後、職員の育成を最優先に実施すると同時に、文書管理方法の見直しやGセッションによる業務管理など強化することで、事務作業の効率化を進め、稼働率の目標達成に向けて取り組んでいく。</li> </ol>

【表1】ショートステイ新規利用相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16	25	28	28	29	21	22	16	16	21	18	18	258

【表2】特養入所相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	14	8	11	12	8	12	8	3	12	18	9	123

【表3】特養待機者面接（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	2	1	2	5	3	2	1	4	2	1	6	30

【表4】入退所の状況

(1)平成30年度中に入所又は退所した者の数(人)

H30.4.1在所有者数	入所者数	退所者数	H31.3.31在所有者数
103	23	28	98

(2)平成30年度中に入所した者の入所時における要介護度別内訳(人)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
0	0	2	13	8	23

(3)平成30年度中に入所した者の生活状況及び入所者数(人)

生活状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	1	7
シャロームショートステイ	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
認知症高齢者グループホーム	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
介護老人保健施設	0	0	2	0	0	1	0	2	1	0	0	0	6
病院	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	6
有料老人ホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他法人ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護療養型医療施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所者数	1	2	3	0	3	3	1	3	1	2	3	1	23

(4)平成30年度中に退所した者の理由及び退所者数(人)

退所理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院で死亡者数	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
施設看取り者数	0	3	1	2	3	4	0	1	1	2	0	3	20
長期入院退所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
転院退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
自宅へ退所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退所者数	1	4	1	2	4	4	0	2	2	3	1	4	28

【表5】在籍者の状況について(平成31年3月31日現在)

(1)年齢構成(歳)

平均年齢	86.61	男性	87.87	女性	86.39
------	-------	----	-------	----	-------

年齢	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	合計
男性	0	0	0	2	3	5	4	1	15
女性	2	1	3	10	18	25	16	8	83
計	2	1	3	12	21	30	20	9	98

(2)在籍者の要介護度別内訳(人)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	1	3	2	5	4	15
女性	2	6	13	30	32	83

(3)入院者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院者数	3	6	4	6	7	5	2	5	2	5	1	2	48	4.0
延べ入院者数	7	8	6	9	10	8	5	7	5	5	3	3	76	6.3
延べ入院日数	132	67	51	91	65	106	60	76	28	45	49	25	795	66.3

【表6】緊急ショートステイ受入件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	1	0	6

【表7】ボランティア活動報告、シャロームギャラリー展示記録

ボランティア活動報告			シャロームギャラリー展示記録	
活動内容	累計		月	内容
1 シーツ交換	121		4月	若葉台自然写真同好会
2 音楽・踊り慰問	52		5月	いわかわ あき絵画展
3 クラブ活動講師	12		6月	あかね写真クラブ
4 洗濯手伝い	0		7月	休み
5 乾髪・介護手伝い	144		8月	八幡幸子絵画展
6 縫い物ボランティア	48		9月	21デジカメ同好会
7 行事手伝い	8		10月	若葉自然写真同好会
8 お花ボランティア	12		11月	シャローム横浜・桜山作品展
9 お話ボランティア	0		12月	松岡博之作品展
合計	397		1月	21デジカメ同好会
			2月	つばき書道教室展
			3月	女子美術大学工芸専攻作品展

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアサービス課 特別介護棟	杉山 肇・山中 重男
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>職員がそれぞれやるべき事を考えて実行するために、海外研修や嚥下困難に関する研修、食事に関する研修に参加してスキルアップを図った。内部研修については、接遇や感染症対策の伝達研修を行い、職員間でのスキルアップに努めた。 また、チャレンジ2020として「何をしたいか」をフロア主体で考える機会を持つことができた。</li> <li>介護負担の軽減を目的に福祉用具を検討し、平成31年度の事業計画につなげた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>接遇に関する研修を行うことで、規律や身だしなみ、言葉使い、挨拶の重要性を再認識し、真摯に業務に向き合った。</li> <li>排泄・食事介助の方法を見直すことで、ご利用者と寄り添う時間をつくることができた。</li> <li>重度化するご利用者に対する支援の為、トランスボードやリフトを活用してご利用者の安全・安楽の確保と職員の介護負担軽減を行った。</li> <li>外部研修に参加した職員が数回に分けて伝達研修を行い、職員全体に周知した。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相談企画課、医務室等と連携して入所対応を進めたが、空床期間が長く稼働率95.72%に留まった。</li> <li>ご利用者の新たな側面の共有やケアの方法を見直しと統一を図る為、報告会（利用者カンファレンス）を実施。ケアの方法と支援の見直しを11月と2月以外に行い、年間10回開催した。</li> <li>外出や外食、ドライブ、DVD鑑賞、カラオケ大会等を企画し、毎月1回以上の行事を実施することができた。</li> <li>音楽療法士による個別音楽療法に、職員が週1回参加することができた。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>感染予防対策を適切に行うため、フロアの直接介護に携わる職員全員を対象に、嘔吐物処理に関する研修を1回実施することができたが、反復訓練はできなかった。</li> <li>ご利用者一人ひとりに合わせた排泄支援の見直しを行い、排泄用具の適正化と排泄介助の時間変更などを行った。</li> <li>ご利用者が気持ちよく生活できるよう、ケース担当職員を中心に居室レイアウトの検討を行った。</li> <li>回想法に参加した職員の記録を回覧し、フロアへのフィードバックを行った。また、回想法の書類見直しや、今後の開催方法などについても検討した。 2月に行われた回想法基礎講座に1名が参加した。</li> </ol>

<p>V</p>	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>機能訓練指導員や理学療法士等の専門職から助言をもらいながら、個別の食事姿勢について検討した。椅子の選定や姿勢の工夫等を行うことで、快適かつ安心して食事を召し上がって頂ける様努めた。</li> <li>音楽療法士が、音楽を通じてご利用者の活動性を高めることで、食事の自力摂取を促す活動を実施。それらの音楽療法活動（体操、リズム遊び等）に職員が参加し、申し送りの際にその様子について報告して情報共有を図った。</li> <li>季節の壁面飾り作成、おやつ作り、カラオケ、映画鑑賞など、ご利用者に合わせたレクリエーションを提供することができた。</li> <li>安心・安全な移乗を継続する為、リフト・トランスボードを有効活用し、持ちあげない介護を実践した。</li> <li>EPA職員への継続的な援助として、日本語でのコミュニケーションを取る事を意識しながら業務を覚えて頂いた。その結果、夜勤や係業務、ケース担当の業務等を行えるようになった。</li> </ol>
<p>VI</p>	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>チャレンジ2020“やりたい事”“チャレンジしたい事”を検討し、平成31年度事業計画に5Sについて取組みを立案した。</li> <li>認知症実践者研修、嚥下困難、口腔ケア、看取り、食事に関する研修など外部研修に参加してもらいスキルアップを図った。外部研修に参加した職員から伝達研修も行ったが、定期的に行う機会までには至らなかった。内部で行われる研修に関しては、業務の都合により参加ができなかった。</li> <li>ご利用者に季節感を感じて頂くため、外出企画を8回実施し、28名の方が参加された。（複数回参加者あり）</li> <li>嚥下困難者のケアについて、外部研修及び他職種と連携し、嚥下困難者の方々への食事提供や口腔ケアの見直しを行った。</li> <li>特別介護棟4床室5部屋に、補助金を活用してパーテーションを設置。ご利用者のプライバシー保護と感染症の蔓延防止対策として期待している。</li> </ol>
<p>VII</p>	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>特別介護棟では認知症の方を多く受け入れている。今年度は、一般虚弱棟からの職員異動も多くあったことから、職員全体に認知症への理解を深める機会が必要と感じている。具体的な解決策としては、外部研修のみならず、他施設に訪問して取組みを見学したり、職員自らご利用者の立場になり、介護体験（食事介助、車椅子移動介助、トランスなど）することで、ご利用者の気持ちを知る機会となると考える。接遇にも効果があると考えており、平成31年度は実践していきたい。</li> <li>内部で行われる研修については、職員が参加しづらい時間帯ではあるが、できる限り参加するように促し、参加できなかった職員への伝達研修のシステムを構築していく。</li> </ol>

表1 (平均要介護度)

平均要介護度	3階
H30年度	4.05
H29年度	4.12

表2 (ケアプラン家族参加率)

ケアプラン	合計	平均
3階ケアプラン数	63	5.25
3階家族出席数	28	2.33

表3 (臨時カンファレンス)

臨時カンファレンス	合計	平均
3階	209	17.4
(内利用者カンファ)	8	0.67

表4 (看取りに関する計画書)

看取りケア計画	合計	平均
3階利用者	149	12.42

## 【 特別介護棟 3階 】

表5 (日常生活状況表) 3月31日現在 在籍者：49名 入院者数：1名 )

区分	状態		実数
歩行	自立歩行		3
	杖等歩行補助機使用	(介助歩行)	11
	車イス	(自操可)	6
	歩行不可		29
食事	自分で可能		23
	一部介助		9
	全面介助		17
入浴	一般浴		5
	中間浴		26
	特浴		18
排泄(昼)	トイレ	自分で可能	4
		介助	29
	Pトイレ	自分で可能	0
		介助	0
	オムツ		16
排泄(夜)	便所	自分で可能	4
		介助	16
	Pトイレ	自分で可能	0
		介助	4
	オムツ		29

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアサービス課 一般虚弱棟	杉山 肇・山田 康裕
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>職員がそれぞれやるべき事を考えて実行するために、海外研修や嚥下困難に関する研修、食事に関する研修に参加してスキルアップを図った。内部研修については、接遇や感染症対応の伝達研修を行い、職員間でのスキルアップに努めた。 また、チャレンジ2020として「何をしたいか」をフロア主体で考える機会を持つことができた。</li> <li>介護負担の軽減を目的に福祉用具を検討し、平成31年度の事業計画につなげた。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>接遇の研修を行うことで、規律や身だしなみ、言葉使い、挨拶の重要性を再認識し、真摯に業務に向き合った。また、職員自ら考え実行するために、チャレンジ2020を提案し実行に移している。</li> <li>報告会や書面等で職員間の情報共有を実施した。ご利用者の個性や日々の変化を汲み取り、ご利用者の個性・特徴を把握し、寄り添い共感する介護を行った。</li> <li>機能訓練士と中心に、ご利用者にあった福祉用具を使用して頂くことで快適に過ごすことができる環境を整えると同時に、職員の介護負担軽減を行った。</li> <li>海外研修、嚥下困難、口腔ケア等の外部研修、接遇や感染症に関する内部研修に参加させ、報告会や職場伝達研修を活用することで、職員教育に努めた。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相談企画課、医務室等と連携し入所対応を進めたが、空床期間が長く稼働率95.72%に留まった。</li> <li>ご利用者の新たな側面の共有やケアの方法の見直し・統一を図る為、報告会を年間計8回実施したが、毎月の開催はできなかった。要因として、報告会の時間を使つての研修実施や、ご利用者の余暇時間等（チャレンジ2020）として使つた為である。</li> <li>毎月1回の行事企画について、年間行事企画とは別に、チャレンジ2020として外出や外気浴を実施し、毎月1回以上の行事企画やご利用者の楽しめる時間を提供することができた。</li> <li>音楽療法士による個別音楽療法に、毎回（毎週木曜PM）職員が参加できた。また、申し送りに音楽療法士・参加した職員が出席し、参加時の様子を報告することで、情報を共有することができた。</li> </ol>

IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ご利用者の生活に合ったタイムスケジュールを実現するため、個々に合った排泄介助時間に変更し、職員の動きを適時見直すことで食事時間を確保した。</li> <li>2 口腔ケアについては、歯科衛生士が実施するケアに職員が毎月関わり、その内容や留意点等を書面で職員間に周知した。また、ご利用者には毎食後口腔ケアを実施した。指摘があったご利用者については、歯科衛生士資格を有する職員が個別にケアを提供した。</li> <li>3 ADLの低下に伴い、本入所・ショートステイともに一般浴の需要はなく、中間浴・特浴を使用して入浴に対するニーズに対応した。また、受診や体調不良、ショートステイの退所日にあわせて柔軟に入浴日を変更することで、ご利用者が満足して頂けるよう支援した。</li> <li>4 回想法に参加した職員の記録を回覧し、フロアへのフィードバックを実施した。その回覧記録に、他の職員が気づいた内容や意見を書き込むことで、回想法に参加していない職員の意見も反映したフィードバックとなった。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介助方法や業務について、決められたことをしっかり守るため、排泄介助時の方法や食事介助時の方法など、係を中心に基本事項を掲示することにより徹底した。</li> <li>2 感染症に対する研修は医務室主体や職員主体での研修を実施し、全ての職員が研修に参加した。心肺蘇生・AEDの研修に関しては、全ての職員の参加はできなかった。</li> <li>3 回想法や介護相談員からの助言に関しては書面にて確認し、音楽療法は毎回ミーティングで音楽療法士・参加職員から当日の様子を直接報告受けることで、介助方法の変更などに生かした。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 チャレンジ2020       <ol style="list-style-type: none"> <li>①&lt;ご利用者に外の空気を吸っていただく&gt; ご利用者のADLに合わせたドライブでの外出や外気浴、お茶会等を実施し、30名以上のご利用者が参加。参加できなかった方は、来年度に実施予定。</li> <li>②&lt;職員のスキルアップ&gt; フロア内で開催したミニ研修としてポジショニング・感染対応（嘔吐処理）・食事介助体験・排泄方法の研修を実施した。ポジショニング・排泄方法については、フロアの全職員が参加できた。感染対応・食事介助体験は新人職員を中心に実施し、基本知識と対応方法について学びを深めた。</li> </ol> </li> <li>2 E P A職員の継続的な援助とスキルアップを図るため、通常業務以外にもケース担当・係業務や役割を増やした結果、夜勤に対応できるようになった。また、ケアマネや他の職員からの助言がE P A職員の振り返りとなり、底上げに繋げることができた</li> <li>3 嚥下困難者のケアについて、他部署と共同でご利用者が安全に楽しんで食事ができるように支援した。また、外部研修及び他職種と連携し、嚥下困難者への食事提供や口腔ケアの見直しを行った。</li> </ol>

**Ⅶ 残された課題・評価・反省・その他の特記事項**

- 1 ご利用者の重度化やADLの低下に伴い、食事介助・排泄介助・移乗介助に要する時間が増えてきている。また、自立度の高いご利用者・認知症状の強いご利用者などが一般虚弱棟に混在することで、さまざまなニーズがあるため、業務の見直しなど適時進めていく。
- 2 ご利用者にいいきとした生活を送って頂くため、より多く余暇時間を設けるよう努めたが、週の限られた時間で職員研修やカンファレンスを実施したため、十分に余暇時間を確保できず計画通りに進めていくことができなかった。

表1 (平均要介護度)

平均要介護度	4階
H30年度	3.67
H29年度	3.71

表2 (ケアプラン家族参加率)

ケアプラン	合計	平均
4階ケアプラン数	61	5.08
4階家族出席数	17	1.42

表3 (臨時カンファレンス)

臨時カンファレンス	合計	平均
4階	114	9.5
(内利用者カンファ)	11	0.92

表4 (看取りに関する計画書)

看取りケア計画	合計	平均
4階利用者	102	8.5

**【 特別介護棟 4階 】**

表6 (日常生活状況表) 3月31日現在 在籍者：49名 入院者数：0名

区分	状態		実数
歩行	自立歩行		5
	杖等歩行補助機使用	(介助歩行)	3
	車イス	(自操可)	9
	歩行不可		32
食事	自分で可能		27
	一部介助		7
	全面介助		15
入浴	一般浴		0
	中間浴		24
	特浴		25
排泄(昼)	トイレ	自分で可能	5
		介助	18
	Pトイレ	自分で可能	0
		介助	0
	オムツ		26
排泄(夜)	トイレ	自分で可能	4
		介助	7
	Pトイレ	自分で可能	1
		介助	0
	オムツ		37

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
医務室	品末 直美
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>施設看取り19名（3F9名、4F10名）、病院死亡4名、転院2名。 内科往診医の診察人数は前年度と大差ないが、内科外来受診数は前年より19件増加し83件だった。 入院人数は45名。入院時病名では、誤嚥性肺炎（17名）、転倒による骨折（5名）、脳梗塞（4名）脱水（4名）の順に多かった。（表2）</li> <li>感染症の発症：ご利用者のインフルエンザ、ノロウイルスによる感染症発生はなかった。</li> <li>オンコール件数：120件（前年度140件）（表9）</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>嘱託医へ早期に報告して受診につなげたが、救急搬送数は減少しなかった。心不全の既往があるご利用者4名が複数回救急搬送されていたことから、救急搬送数が病歴にも左右されることがわかった。</li> <li>検討した感染症の持ち込み防止策を実行したことで、インフルエンザ蔓延を防止した。</li> <li>業務の効率化 <ol style="list-style-type: none"> <li>①薬セットに於いて、重複して確認していた部分を中止した。</li> <li>②皮膚科処方外用薬一覧を作成・更新したことで、処置担当の看護師がスムーズに処置することができるようになった。</li> </ol> </li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>看取り後の振り返りカンファレンスを多職種で2回行ったが、目標（4回）には達しなかった。</li> <li>ご利用者へのタクティールケアは、1月～3月の実施数が減少し、81回と目標数（192回）を達成できなかった。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ご家族へご利用者の体調変化を報告する際に、ご家族の思いや理解度について確認し、他職種と共有した。</li> <li>朝の医務申し送り時にミニカンファレンスを実施し、統一したケアにつなげた。</li> <li>感染症予防の研修を介護職員対象に3回実施した。また、職員教育委員会主催の職員全体対象の研修、ケアプラザ職員に対する研修を実施した。（表8）</li> <li>看取り対応を多職種（相談企画課・ケアサービス課）で見直し（診断、エンゼルケア、夜間対応等）を行った。</li> <li>受診付き添いを交代する際、可能な限り医務室の職員が車で交代にいく形とし、事務局職員の負担軽減に努めた。また、経管栄養の使用物品を見直しし、内服薬注入用のシリンジを簡便で安価な懸濁ボトルに変更した。</li> <li>災害時に、当日勤務者の所在がすぐわかるよう、白板に名札を貼ることにした。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法人看護師連携会を3ヶ月に1回実施し、伝達研修、各部署の問題点の共有、解決策の検討を行った。</li> <li>2 機能訓練士が介護職員、PTと協力し、ご利用者の姿勢見直しや、除圧方法、リハビリについての検討し実施した。また音楽療法士と協働して機能訓練を実施した。</li> <li>3 夜間看取り時の対応を相談企画課・ケアサービス課と見直しを行い、10月から新体制に変更した。看護師の夜間出動件数：9件（前年度11件）（表9）</li> <li>4 急変時の対応（夜間）方法について見直し、一覧表に再度まとめることで、オンコールの減少につながった。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 嚥下困難者のケアについて 部署内で伝達研修を実施し、知識の共有を行った。誤嚥性肺炎後のご利用者に対する嚥下テストを嘱託医に依頼し、実施した。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医師への報告、指示受けの方法については変更できなかったため、今後薬業務の見直しと合わせて再検討していく。また、記録や物品請求の方法を見直し、業務の簡素化を進めていく。</li> <li>2 看取り期のご利用者が苦痛軽減のため病院受診した際、入院できないというケースが増えている。近隣の病院や、嘱託医との連携を再検討する必要がある。</li> <li>3 看取り期のご利用者の体調とケアについて、不安を感じている介護職員がいることが、カンファレンスで明らかになった。随時ご利用者の体調と方向性について多職種で共有していく必要がある。今後嘱託医も含めて対策を検討していく。</li> <li>4 誤嚥性肺炎を予防するために、各部署の連携が必要である。口腔ケアの強化、嚥下に関わるリハビリの提供、食事形態の再検討、環境の整備等を多職種で検討していく。</li> </ol>

表1【医師の診察】

〈往診〉

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	来所回数	4	3	4	5	4	4	5	3	4	4	4	4	48
	診察人数	52	68	50	46	43	62	71	43	68	40	68	52	663
精神科	来所回数	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	23
	診察人数	20	18	8	20	20	20	19	22	24	22	22	21	236
歯科	来所回数	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	43
	診察人数	20	15	32	30	23	38	41	36	34	34	30	35	368
皮膚科	来所回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	診察人数	11	9	6	10	13	11	11	11	12	12	15	13	134

〈嘱託医へFAX（報告・相談）人数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中希望が丘診療所	9	6	22	9	20	24	13	34	21	15	19	53	245
神奈川病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
浅井皮膚科クリニック	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3

表2. 【外来受診・健康診断】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	3	7	8	11	9	8	10	5	6	5	5	6	83
眼科	0	2	5	1	3	2	6	3	3	2	1	6	34
皮膚科	2	7	7	2	2	4	4	4	2	3	2	3	42
整形外科	6	7	5	3	7	5	2	4	5	2	2	4	52
泌尿器科	5	2	3	2	4	4	3	6	5	1	3	4	42
外科	2	0	0	0	2	0	4	0	0	0	1	0	9
救急外来	1	4	3	2	2	2	1	2	1	4	0	0	22
脳外科	2	1	2	0	0	2	0	1	0	2	0	0	10
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
形成外科	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6
精神科	0	3	2	1	0	1	1	0	1	0	0	0	9
歯科	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
耳鼻科	1	0	1	1	1	2	2	0	1	1	0	1	11
内視鏡	1	1	2	0	1	0	1	1	2	0	0	0	9
検査	0	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	5
口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	24	38	39	26	34	32	34	28	27	20	14	24	340

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送本入	1	3	3	1	1	3	0	1	1	4	0	1	19
救急搬送ss	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康診断	0	0	47	49	0	0	0	0	0	0	0	0	96

入院時病名	誤嚥性肺炎	骨折	脳梗塞	脱水	腸閉塞	心不全	腎不全	貧血	尿路感染	腸炎、腸管出血	肝機能低下	胆管炎
人数	17	5	4	4	2	2	2	2	2	2	2	1
入院時病名	膀胱結石手術	術後創部感染	薬調整	胃ろう造設術								
人数	1	1	1	1	(1人複数病名あり)							

表3. 【医療処置】月末時点（入院者含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
胃ろう	5	5	5	5	5	5	5	6	6	5	5	4
ストマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅酸素	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
膀胱留置カテーテル	2	2	2	2	3	2	4	4	3	3	3	3
常時吸引	2	2	2	4	3	2	2	2	2	3	4	2
褥瘡(Ⅱ度以上)	5	6	4	5	6	5	5	0	2	2	3	3
吸入	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計	19	20	18	21	22	19	21	17	18	18	20	18

(SS含まず)

表4. 【歯科衛生士による口腔ケア】

口腔ケア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	2	4	4	4	3	2	4	4	3	3	3	4	40
実施人数	45	80	76	79	61	39	86	81	61	67	65	78	818

表5. 【リハビリ】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	5	4	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	47
指導人数	54	32	26	29	28	19	23	26	26	25	25	25	338

表6. 【予防接種】

肺炎球菌予防接種

3F	6
4F	1
合計	7

利用者インフルエンザ予防接種

3F	51
4F	48
合計	99

表7. 【外部研修参加】

	日時	研修名	参加者	場所	主催
1	H30年5月13日	車椅子座位デジタル評価	松岡	中央労働基準協会	関西看護ケア研究会
2	H30年6月6日	医療・福祉における環境サービスセミナー&欧米の感染対策見聞録	品末	ラジオ日本クリエイト3F会議室	日本医療・福祉環境サービス協会、日本感染管理支援協会共催
3	H30年7月18日	チームで取り組む	山中	はまぎんホール「ヴィアマーレ」	メディカルサポートセミナー事務局、モルテン共催
4	H30年8月5日	認知症の人の摂食障害、認知機能へのアプローチを中心に	林	中央労働基準協会	関西看護ケア研究会
5	H30年7月27日	お食い締めセミナー	山本	タイム24ビル	全国高齢者施設看護師会
6	H30年9月22日	認知症の人のリハビリテーション	松岡 山中	横浜ほうゆう病院	横浜ほうゆう病院
7	H30年9月28日	H30年度旭区感染症予防講習会	品末	旭区役所新館2F会議室	旭区福祉保健課健康づくり係
8	H31年1月16日	第14回神奈川フットケア研究会	中村 品末	ホテルキャメロットジャパン5FジュビリーⅡ、Ⅲ	神奈川県皮膚科医会在宅医療委員会、ポーラファルマ
9	H31年3月5日	ユニットケア研修フォーラム「口から食べる幸せ」を問い直す	山本	パシフィコ横浜	一般社団法人日本ユニットケア推進センター

	日時	講師	研修内容	対象	場所	参加人数
1	H30年6月9日、22日、 7月28日	松岡	ポジショニングから 見る褥瘡予防	4F ケアワーカー	4F ワーカー室	20
2	H30年11月27日、 12月28日	松岡	ポジショニングから 見る褥瘡予防	3F ケアワーカー	3F ワーカー室	22
3	H30年10月17日 15:15~16:00	品末	夜勤者研修 (急変時対応他)	ケアワーカー	医務室、 西デイ	2
4	H30年10月17日 18:30~19:20	品末 中村	感染症の予防(もちこ まないひろげない)	シャローム横浜・ 桜山・グループ ホーム職員	会議室・ ギャラリー	28
5	H30年11月13日 17:30~18:00	中村	感染症の予防	ケアプラザ 職員	ケアプラザ	24
6	H30年12月5日 19:30~19:45	品末	感染症対策 (MRSA, B型肝炎)	ケアワーカー	会議室	14
7	H31年2月6日 11:50~12:30	品末	法人スタンダード研 修(感染症の予防)	法人職員	会議室	7
8	H31年2月7日 17:00~18:00	品末	夜勤者研修 (急変時対応他)	ケアワーカー	医務室、 西デイ	1

表9 【夜間オンコール】 18:30~翌朝7:30

月別のオンコール件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	8	17	10	21	11	1	10	7	10	8	11	120

症状別の件数・救急搬送数

SP02 低下	呼吸	血圧	けい れん	麻痺	嘔吐	下痢	高熱	意識 レベル 低下	呼吸 停止 (看 取り)	転倒	頭痛	出血	その他	救急 搬送
20	12	10	2	0	9	0	73	2	7	1	1	0	1※	1

(1人に複数症状ある場合あり)

※看取りケア手順の問い合わせ

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
栄養課	小寺 秀偉
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <p>1 毎日の楽しみの一つとなっている食事を美味しく安全に提供した。また、毎年行っているアンケート調査を通してご利用者の声を献立に反映することで、満足度を高めると共に、個人の特徴に応じた食形態の変更や代替食材等を提供した。</p>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <p>1 担当の介護職員から一部のご利用者について、嗜好について意見を適時伺った。また、摂取量が低下していたご利用者16名に対しては特別食を提供し、食事摂取量の向上に努めた。</p> <p>2 食事サービスは、4月より横浜市高齢者食事サービスを再開したことに伴い、配達区域内全ての地域ケアプラザに直接出向いて試食とパンフレットをお届けし、宣伝活動を行った。また、助成対象者については担当ケアマネジャーに直接連絡し、横浜市高齢者食事サービスへの移行を促した。</p> <p>3 各フロアにてご利用者全員の喫食状況や嗜好について、介護職員から意見を伺う予定だったが、勤務状況により一部のご利用者にはしか伺うことができなかった。また、食事の場面には一部の職員しか訪問することができなかった。</p>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <p>1 地域向けお弁当（会食会も含む）・・・1日平均87.7食</p> <p>2 小学校向けお弁当・・・1日平均30.7食</p> <p>（お互いの都合が合わず、全校給食及び試食会を開催できなかった。）</p>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <p>1 スチームコンベクションを多用する事により、調理時間は短縮したが、配膳ミスを軽減するまでには至らなかった。来年度は、配膳確認の人数を増やしてミスを減らす取り組みを行う。</p> <p>2 コストの高い生鮮食品を安価な冷凍食品に切り替え、コスト削減に努めた。</p> <p>3 食事全体の味付けを薄くし過ぎると、食欲が低下して食が進まなくなってしまうため、素材を生かしつつ、酢や香辛料・香味野菜等を利用して飽きがこないよう工夫した。</p>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <p>1 常備している栄養補助食品では、嚥下の難易度に対して適応できないケースが増えている為、サンプルを取り寄せて他職種で試食会を行い、新たに1種類取り入れることができた。</p> <p>2 菜食の勉強会を三育フーズと共同で行うことができなかったが、来年度の4月に小学校の保護者会にて試食会を実施する計画を立案することができた。このことを踏まえ、これからは三育フーズとの情報交換を積極的に行っていく。</p> <p>3 食事サービスの介護事業所等へのアピールは、3ヶ所のみとなってしまった。</p>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>1 近隣地域での栄養指導、食品衛生講習会はいままで行っていた場所で2回・新しい場所で1回実施したが、回数は3回となってしまう、5回実施できなかった。</p> <p>2 嚥下困難者のケアに対しては、研修に多職種と共に参加すると共に、栄養補助食品の検討を行った。</p>

VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 1 今年度は、他部署と協働して嚙下困難者の食事を見直すことはできなかったが、調理方法の工夫や介護食品の利用等、できるところから給食委員会を通して検討していく。 2 横浜市高齢者食事サービスで助成を受けて利用している登録者は（入院者も含む）27名と、以前の約半数近い方が登録している状況。今後も精力的に広報活動を行い利用増加につなげたい。
-----	---

表1【栄養ケア・マネジメント】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
高リスク	8	9	8	9	5	6
中リスク	75	71	75	71	67	68
低リスク	20	22	20	23	27	26
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高リスク	7	6	3	3	5	4
中リスク	63	68	70	69	64	62
低リスク	28	28	27	29	32	34

表2【講習会・研修会への参加】

月	内容	参加者
3月	食品衛生責任者講習会	1

◎ 横浜市旭福祉保健センターより平成30年度も秀級施設の表彰を受けた。

表3【行事食実施記録】

● イベント食

敬老祝い膳 (9月18日)	赤飯 清汁（かまぼこ、ほうれん草）ぶりの照り焼き、天ぷら 野菜炊き合わせ（里芋、人参、牛蒡、鶏肉、もみじ麩、絹さや）南瓜白和え 寿饅頭
------------------	---

クリスマス ディナー (12月25日)	パン(クロワッサン) マッシュルームのポター ジュ、ペンネのアラービータ ビーフシチュー（牛肉、人参、じゃが芋、いんげん）サーモンチーズサラダ レアチョコケーキ、グランロールショコラ ワイン（ノンアルコール）
---------------------------	---

正月祝い膳 (1月1日)	雑煮（鶏肉、ほうれん草、花形人参） 海老の姿煮、伊達巻、 栗きんとん、紅白なます 黒豆、紅白かまぼこ、数の子、鰯の照り焼き チキンロール、合鴨ロース焼き 煮物（里芋、京人参、筍、椎茸、絹さや、）
-----------------	--

- 喫茶（月によってはミキサー食の方にも召し上がって頂けるように配慮したデザートを提供）

4月	ストロベリーケーキ	10月	チョコレートケーキ
5月	キャラメルケーキ	11月	サワーチェリーケーキ
6月	サワーチェリーケーキ	12月	モンブランケーキ
7月	いちごのショートケーキ	1月	チョコレートケーキ
8月	サワーチェリーケーキ・白桃ケーキ	2月	ティラミスケーキ
9月	ブルーベリーケーキ	3月	桃のケーキ

◎飲物・・・コーヒー・紅茶のどちらか好きなものを選択

- 屋台 年6回実施（デイサービス・特養・ケアハウス提供）

5月	ミックスピザ（玉葱、ベーコン、ピーマン、トマト、チーズ）
	シーフードピザ（玉葱、ピーマン、シーフードミックス、チーズ）
6月	バーベキュー（牛肉、ピーマン、舞茸、玉葱、人参）
	フルーツ杏仁 特養 すき焼き、清汁（舞茸、茗荷） 茶碗蒸（銀杏、かまぼこ、三つ葉） 青梗菜のお浸し
7月	釜戸料理（茹でトウモロコシ、枝豆）
8月	あんみつ
9月	ミックスピザ（玉葱、シーフードミックス、ベーコン、ピーマン、チーズ）
10月	醤油ラーメン（チャーシュー、ナルト、煮卵、シナチク、長ねぎ）
	肉シュウマイ、杏仁豆腐タピオカ添え 麺禁、牛肉のオイスター炒め、（牛小間、青梗菜）
11月	安納芋の焼き芋
3月	醤油ラーメン、焼き餃子、杏仁豆腐
	麺禁 野菜炒め

表4【食事サービス】

- 食事サービス実績表

	月別実績 食数	一日平均 食数	前年度比率
4月	2,367	112.7	126.4%
5月	2,597	112.9	111.6%
6月	2,526	120.3	108.5%
7月	2,545	115.7	122%
8月	2,349	102.1	129%
9月	2,731	136.6	117.5%
10月	2,904	126.3	115.2%
11月	2,823	128.3	119.8%
12月	2,360	118.0	112.4%
1月	2,364	118.2	100.9%
2月	2,329	116.5	110.5%
3月	2,425	115.5	108.9%
計	3,0320	118.4	115.7%

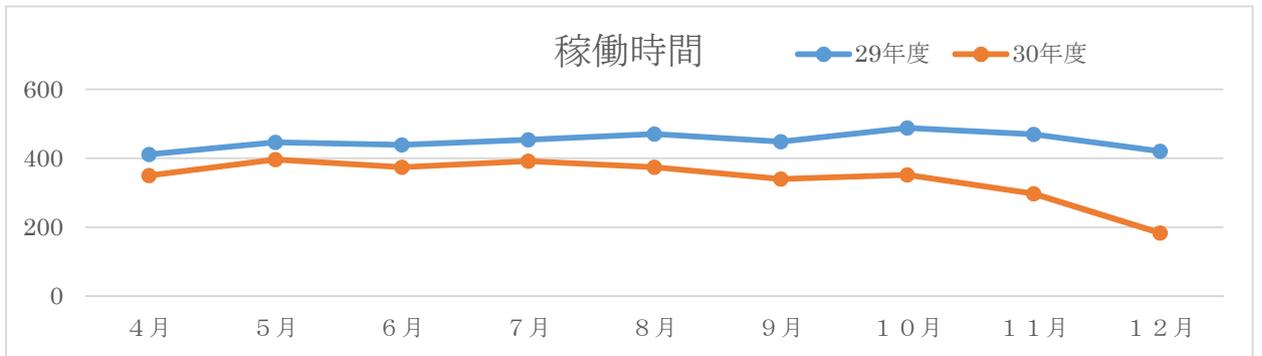
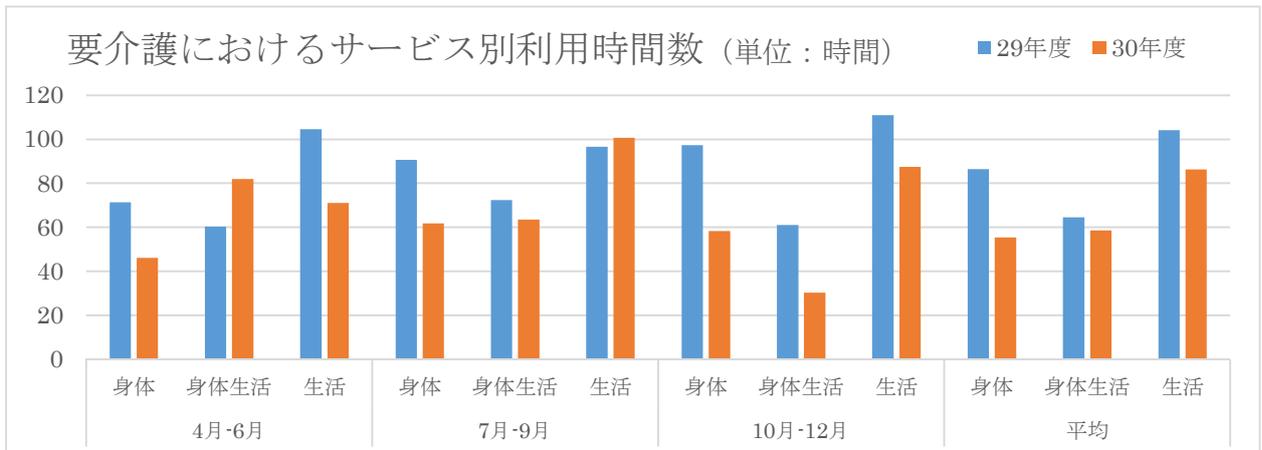
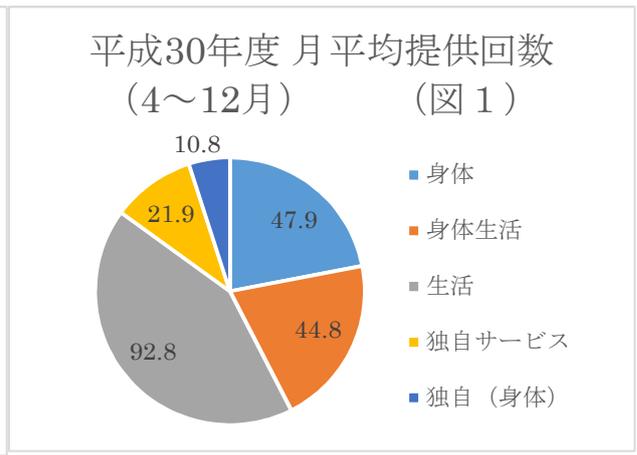
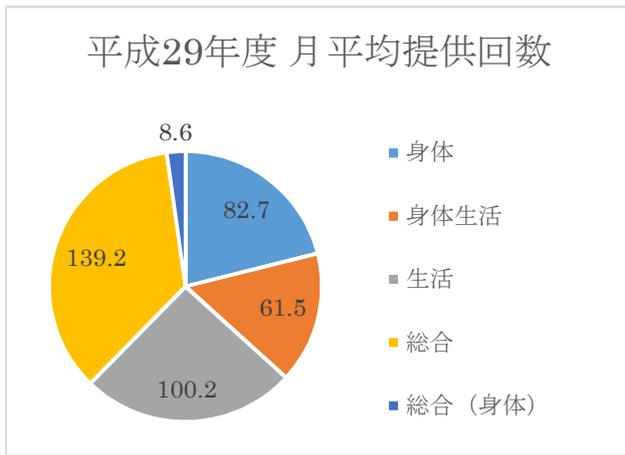
平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
デイサービスセンターシャローム横浜	椎橋 葉子
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 登録者数80名前後/月。平均要介護度は年間を通して大きな変動は無く2.44（要介護2が約40%）。H30年度新規契約は39名、終了者37名（うち施設入所等15名、死亡7名）。</li> <li>2 ご利用者延べ数では、介護度の高い方の利用回数が多い傾向あり。介護3以上の方が約40%前後を占める。（中重度加算要件は介護3以上が30%以上）</li> <li>3 登録利用者中、法人内居宅支援事業所 3%、外部居宅支援事業者97%。</li> <li>4 年間行事実施数12回、クラブ活動 8種類。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看取りケアについての役割や支援の可能性を追求・実践： 終末期のご利用者に対して、個々の対応を丁寧にご家族やケアマネ、訪問看護等と連携をとりながら支援した。看取りの状況ではない方でも急変して亡くなる場合もあるため、急変時の対応について個々に再確認を行った。</li> <li>2 認知症ケアへの理解、及びご利用者の生活向上と介護者の負担軽減につながる支援： 認知症ご利用者に対し個々に向き合い接する事ができた。また周辺症状に対し認知症対応型通所介護ひまわりとの連携を含めて様々な資源を活用して対応し、ご本人へのケアやご家族の負担軽減につながった。また、認知症の理解につながる回想法の勉強を開始した。</li> <li>3 地域社会への発信と施設全体の協働を常に意識して業務に取り組んだ。</li> <li>4 介護保険の理念にもとづき、自立した生活の維持を意識してレクリエーションや介護を行った。</li> <li>5 在宅サービスセンターとして、認知症対応型通所介護・訪問介護・ショートステイと連携、協働することで介護の質を高めた。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目標値26/日→実績23.5/日 達成率90%。</li> <li>2 外部内部の研修に参加：延べ32名、研修に参加できない者には伝達研修を行った。年8回のミニ研修は各回10名程度参加。介護福祉士資格を1名が取得した。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 年間行事及びレクリエーションの見直しを継続し、生活機能向上の効果をご利用者の言動から確認した。行事報告書作成時に、身体機能向上や認知機能の維持を目標に、達成状況を職員で共有するように取り組んだ。午前中にレクリエーションの活性化を行い、ご利用者の意欲を引き出せた。</li> <li>2 業務の効率化の為に職員の動線を見直し、ミーティングで検討した結果、手荷物カートの導入や作業のチェック機能の強化などを行った。</li> <li>3 中間浴槽の買い替えに向けて、入浴の目的や効果などを再確認しシャワードバスを導入。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知症対応型通所介護ひまわりとの連携・協働により業務の効率化や情報の共有を図り、支援の質を高めた。</li> <li>2 短期入所との連携を強め、きめ細やかな支援につなげた。デイサービスを利用される方は、慣れたところでのショートステイ利用を望まれる方も多く、情報を共有することで安心感を持っていただけた。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、在宅サービス3部門で連携・協働して事業の円滑な運営を目指したが、年度末に訪問介護サービスの閉鎖に伴い、事業紹介などの開催は見送った。来年度に短期入所とも連携してケアマネジャー向けに事業紹介等を行うことを検討する。</li> <li>2、今年度は、一部の職員がご利用者の個別通所計画を把握し、立案できるようになった。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護の質を高めるため、職員全員がご利用者の個別通所計画を把握し、残存機能の維持、向上に繋げる個別援助を行うことが大切。しかし、H30年度はご利用者の個別通所計画を把握した上で生活自立度を評価できるように育てる研修を行う事ができなかったため、H31年度には研修を行うことで、全ての職員が通所介護計画を把握できるようにしていきたい。</li> <li>2、介護施設の密集している地域で選ばれる事業所となる。そのため施設の特色を出すと共に、地域住民やケアマネジャーに効果的にアピールする必要がある。来年度は仕切りなおして短期入所とも連携してケアマネジャー向けに事業紹介等を行うことを検討する。</li> </ol>

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
認知症対応型通所介護	田中典子
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用登録者の介護度は月平均3.44～4.2、年間平均介護度は前年度より0.25上昇して3.72となった。新規契約者8名、終了者11名であったが、今年度も新規利用者の半数以上が6ヶ月以内に利用を終了し、終了者の平均利用年数は前年度よりさらに短く0.75年であった。</li> <li>2 月間稼働率は71.4%～90.8%。年間平均稼働率は85%と目標達成できず、昨年の実績にも届かなかった。</li> <li>3 病状の進行により医療依存度の高くなった方に対して、医療職と連携して支援を行った。</li> <li>4 法人理念に基づき、介護者や地域の支援も視野において業務を行った。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅生活継続と自立支援への取り組み： 在宅生活を切望するご家族の希望に沿い、状態の変化に対応しながら自立できるよう支援を継続した。</li> <li>2 シヤローム横浜における他部門との連携： 一般デイサービス・ショートステイと細かく情報共有し、連携して支援を行った。</li> <li>3 認知症ケアの理解への取り組みと介護負担軽減： 回想法への参加を継続することにより、認知症ケアへの理解を深めると共に、ご利用者への関わりを通してご家族からも評価を頂いた。</li> <li>4 看取りケア及び疾病知識の普及： ご利用者の重度化に伴う病状変化等のため、必要時医療職に協力を得ながらミニ研修を行い、職員の知識を深める取り組みを行った。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1日平均数10.2名（目標達成率92.7%）・目標稼働率は92%だったため、目標達成率は92.3%にとどまった。</li> <li>2 家族懇談会1回、ミニ懇談会を3日間ずつ2回開催、日帰りバスハイクを1回行った。</li> <li>3 職員一人ひとりに目標を設定した上で、外部研修に参加することができた。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 働き方改革の一環として、夕食を職員の調理をやめて、栄養課が調理したものを提供することで、業務負担の軽減を図った。また、職員の動きを見直すことで、休憩を取りやすい体制にすることができた。</li> <li>2 中間浴槽の買い替えに向けて、入浴の目的や効果などを再確認しシャワードバスを導入。</li> <li>3 緊急時の対応について、看護師に協力を得ることで学びを深め、送迎時などに活用した。</li> <li>4 職員間の情報共有の為にメモを回覧し、見た職員にサインしてもらうなど実施した。</li> </ol>

V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 早朝迎えとして行っていた保険外サービスを、訪問部門の閉鎖により終了となった。新たなサービスの検討が必要。</li> <li>2 一般デイサービスと協力し、送迎やフロア対応、利用者対応などの業務連携をはかった。</li> <li>3 回想法に参加した職員の記録を回覧し、ミーティングの機会を活用して周知することで、ケアの質の向上に努めた。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運営推進会議において、地域より災害時の対応について意見があった為、情報交換を行った。また、一般デイサービスと共に災害時の対応について検討した。</li> <li>2 他部署からも協力を得て介助や移乗の方法を学んだ。毎月のミーティングで業務改善について意見を出し合い反映させた。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族の負担軽減をはかる為、保険外サービスなどの提供方法等についての検討が必要。</li> <li>2 終了者が連続すると稼働率が安定できない状況は昨年度と同じであった。顧客確保の為に新たな取り組みを検討する。</li> <li>3 高齢化しても職員が働きやすく、長く勤められる職場環境を構築する必要あり。</li> <li>4 ご利用者の体調変化への素早い対応と情報共有、介護職員の業務の均一化を進めることが課題。</li> </ol>

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
訪問介護	海瀬 由香利
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法人理念に基づき、在宅生活を維持するために、個人の生活を尊重して在宅サービス計画に添った訪問介護計画を作成した。また、判断や行動する基準は、ご利用者であることを常に念頭に於いて、尊厳をもって業務を遂行した。</li> <li>2 人材不足で土日の活動を自粛した為、昨年度より生活支援の割合が多かった（図1）</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護保険法の度重なる改正に伴う単位引き下げとヘルパー雇用の厳しさ、サービスニーズ（早朝・夜間・土日）対応の困難等の様々な要因による収支状況の悪化により、将来性が見込め無いため、平成31年3月31日に事業所廃止手続きを行った。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 稼働時間：月平均450時間（自費サービス含）に対し平均353時間（図2） 達成率：72.25%（4月～9月）</li> <li>2 ご利用者数：月60名の目標に対し、月平均自費サービス含めて50～54名（4月～9月）</li> <li>3 加算の維持：体制要件を満たさなくなりH31年1月に特定事業所加算Ⅱを取り下げた。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 登録ヘルパーの10月以降の賃金を家事援助1時間の金額¥1,265に統一した。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 サービスの質向上を図る為、在宅サービス会議やヘルパー連絡報告会を定期的で開催した。</li> <li>2 生活機能向上連携加算の取得ができなかった。</li> <li>3 少人数でのeラーニング活用は実施できなかった。</li> </ol>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 1 事業所廃止検討時、特養家族会や地域交流を深めることでヘルパー職の介護サービスをアピールしたが、生活援助中心型の担い手を確保する体制はできず、そのまま事業所廃止が決定した。</li> <li>2 一部の登録ヘルパーはシャローム他部署に移動し、その他は他事業所に移行した。</li> </ol>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 10月よりご利用者の移行が始まり、混乱なく実施できた。</li> </ol>



稼働時間(図2)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
29年度	411.3	446.3	439.1	453.7	470.3	447.9	487.5	469.4	419.8	368.8	376.3	412.2
30年度	349.3	396.5	374.1	391.9	373.7	339.5	352	297.3	183.5	24		
前年比	85%	89%	85%	86%	79%	76%	72%	63%	44%	0.6%	0%	0%

月別活動日数の比較(単位: 日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
29年度	30	31	29	31	30	30	29	30	28
30年度	21	23	22	22	26	20	23	22	20

平成 30 年度事業報告 部門 名	報告者：氏名
事務局	高橋 洋子
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <p>1 シャローム横浜事業計画基本方針の下、ご利用者から信頼される組織であることを目標に、事務作業を正確・迅速・美しく仕上げることを目指した。各委員会・行事にも積極的に関わり、ご利用者に寄り添うケアの実践に努めた。</p>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <p>1 人材不足や職場の疲労感を減らすことは、社会全体の労働人口不足により、求人をしてもなかなか雇用に至らなかった。</p> <p>2 他部署と協働して事務局の役割を再認識し、来客受付・電話対応・入出館管理を行い、ご利用者に安心・安全を提供した。</p> <p>3 事務作業の自動化とペーパーレス化は、修理申請書等を G セッションにて登録・処理が進められるようにしたが、実施には至らなかった。</p>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <p>1 経費削減額と助成金・補助金等で総額 5 0 0 万円を目標として取り組んだ結果、多床室プライバシー保護の為の補助金 1,4 0 0 万円、障害者雇用調整金 1 1 3 万円、特定求職者雇用開発助成金 8 0 万円、その他 6 4 万円、計 1,6 5 7 万円、達成率 3 3 0 % となった。</p>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <p>1 月 1 回の事務局ミーティングにて、より活発な意見交換ができるよう事前の声掛けなどに努めた。</p> <p>2 内部研修・外部研修の受講の声掛けをし、参加を促した。</p> <p>3 ハンディのある職員の働きやすい職場環境づくりを目的に、障がい者雇用に関する研修に必要な職員を参加させ、理念に基づく体制を整えた。</p>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <p>1 新たにトイレ清掃チェック表を作成し、衛生管理を徹底した。 毎月の運営委員会にて未収金の報告と、滞納者にお支払依頼書を送付することにより、未収金削減に努めた。 物品購入先を見直しと、在庫管理を業者に委託することにより、コスト削減と業務の見直しが図られた。</p> <p>2 廊下にある文書倉庫に 5 年分の保管スペースを確保することで、文書管理が効率的になるなど、業務効率化に努めた。</p>
VI	<p><b>業務の新たな試み</b>（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</p> <p>1 電話交換設備及び呼出システム更改工事完了に伴い、各課に協力を得たことで、システムを有効活用できるようになった。</p> <p>2 チャレンジ 2 0 2 0 は、立案・実行することができなかった。</p> <p>3 嚙下困難者のケアについては、研修場所の設定・準備等を行ない、他部署と協同できた。</p> <p>4 防災対策として、火災報知器復旧マニュアル等を見直し、誰でも対応できるように分かりやすいマニュアルを新たに作成した。</p>

Ⅶ 残された課題・評価・反省・その他の特記事項

- 1 法人内グループウェアの有効活用と、事務の電子化、ペーパーレス化による業務の効率・向上が課題。
- 2 築20年経過の建物・備品の保守管理と予算管理。
- 3 法人全体の防災対策とBCPの作成・推進・連携強化を図る。
- 4 チャレンジ2020立案・実行。

1. 営繕の修理状況

No	種類	平成29年度		平成30年度		増減(件)
		件数	割合(%)	件数	割合(%)	
1	建具の破損修理（ドア、鍵、床、家具、等）	233	42.3	182	43	-51
2	機器の故障修理（乾燥機、掃除機、加湿器、ミキサー、マジカルテンキー、マットセンサー、電動ベット、etc）	161	29.3	67	16	-94
3	給排水（水漏れ、配管の詰まり、水道の蛇口、大便器部品洗面台の水栓、洗面台蛇口部品、シンク排水、etc）	40	7.3	32	7.5	-8
4	電気器具の破損（コンセント、プラグ、LED取り付け電気スイッチ、蛍光灯、etc）	46	8.3	88	21	42
5	車両（車椅子、リクライニング、自転車、運搬車、etc）	70	12.8	58	14	-12
6	その他	0	0	0	0	0
合計		550	100	427	100	-123

2. 職員の研修参加状況

施設外研修

	平成29年度		平成30年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	6	6	5	7	-1	1
5月	20	23	10	10	-10	-13
6月	38	40	24	32	-14	-8
7月	33	40	38	53	5	13
8月	10	12	18	23	8	11
9月	39	45	27	33	-12	-12
10月	20	23	23	25	3	2
11月	19	21	29	31	10	10
12月	22	29	21	31	-1	2
1月	14	15	26	30	12	15
2月	14	14	31	39	17	25
3月	10	13	4	4	-6	-9
合計	245	281	256	318	11	37

施設内研修

	平成29年度		平成30年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	2	42	1	35	-1	-7
5月	5	11	1	31	-4	20
6月	5	76	3	56	-2	-20
7月	3	282	4	345	1	63
8月	1	29	1	20	0	-9
9月	5	73	1	48	-4	-25
10月	4	50	2	30	-2	-20
11月	2	30	2	65	0	35
12月	1	64	4	95	3	31
1月	2	24	2	41	0	17
2月	0	0	2	12	2	12
3月	0	0	0	0	0	0
合計	30	681	23	778	-7	97

全体	275	962	279	1,096	4	134
----	-----	-----	-----	-------	---	-----

### 3. 防災委員会の実施状況

NO	開催日	案 件	参加人数
第1回	4月25日	年間スケジュール・役割確認・自主点検票の確認・緊急連絡網の確認	8名
第2回	5月23日	マメールの運用についてご紹介・自主点検票の確認・緊急連絡網の確認	10名
第3回	6月27日	合同火災避難訓練について・7月から委員長交代の件・自主点検票と緊急連絡網の確認	7名
第4回	7月25日	本日午後行う夜間想定火災避難訓練の確認・自主点検票の確認・緊急連絡網の確認	6名
火災避難訓練	7月25日	夜間想定火災避難訓練 4階パントリーが火元 消防署より借りた消火器訓練を行った	247名
第5回	8月22日	シャローム横浜・桜山の非常用備蓄品について・非常災害時の医療体制・パンフレット確認	6名
第6回	9月26日	マメールの配信ルールについての確認・在宅サービスの災害マニュアルについて	6名
第7回	10月31日	上川井町の防災訓練の見学及び弥生苑における福祉避難所訓練見学の報告	7名
第8回	11月28日	旭消防署警防査察結果報告・発報に伴う自動火災報知機の表示について	7名
緊急連絡網訓練	10月10日	緊急連絡網の訓練 21時スタート	139名
第9回	12月26日	ライフラインの点検に伴う現状確認・発報に伴う自動火災報知機の表示について	7名
第10回	1月23日	ライフラインの点検に伴う現状確認・防災訓練及び自営消防団について	8名
第11回	2月27日	ライフラインの点検に伴う現状確認・発報に伴う自動火災報知器の表示について	10名
第12回	3月7日	昨日の緊急自動通報装置の作動について・緊急自動通報装置作動後の検証	7名
第13回	3月27日	本日午後行う火災、土砂災害避難訓練についての確認・ライフラインに伴う現状確認	10名
火災避難訓練	3月27日	日中想定地震による火災、土砂災害避難訓練、消火栓を使った放水訓練を実施した	235名
合 計			720名

### 4. 職員の入退職の状況

#### ●法人内入職者明細

	平成29年度		平成30年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	2	2	2	0
特養4F	1	1	2	0
医務	1	0	2	0
相談員	0	0	0	0
通所・一般	0	3	0	0
通所・認知	1	0	0	0
訪問	0	1	0	0
栄養課	0	5	1	4
事務局	0	3	0	0
GM上	0	2	0	0
GM鶴	0	1	0	0
ケアハウス	0	0	0	0
ひ地域	0	0	0	0
ひ包括	1	0	0	0
ひ生活	1	0	0	0
ひ居宅	1	0	0	0
ひ通所	1	7	1	11
ひキッズ	0	0	0	10
保育園	5	4	3	3
計	14	29	11	28

#### ●法人内退職者明細

	平成29年度		平成30年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	0	1	1	1
特養4F	1	2	2	1
医務	2	1	0	0
相談員	0	0	0	0
通所・一般	0	1	0	3
通所・認知	0	1	1	0
訪問	0	1	0	11
栄養課	0	4	1	1
事務局	0	5	0	1
GM上	0	2	0	0
GM鶴	0	3	0	1
ケアハウス	0	0	0	1
ひ地域	0	1	0	0
ひ包括	0	0	0	0
ひ生活	1	0	0	0
ひ居宅	1	0	0	0
ひ通所	0	3	2	9
ひキッズ	0	0	0	0
保育園	4	0	6	0
計	9	25	13	29

5. 職員の配置状況

H31. 3. 31現在

		介護老人福祉施設 現員	短期入所生活介護 現員	在宅サービス部門			高齢者食事サービス 現員	認知症GM部門		シャローム 桜山 現員	シャローム 三育保育園 現員	ひかりが丘地域ケアプラザ							計		
				在宅サービス部門				GM上白根 現員	GM鶴ヶ峰 現員			地域・交流 現員	地域包括支援 現員	介護予防支援 現員	生活支援 現員	LSA 現員	在宅サービス			キッズクラブ 現員	
				通所(一般) 現員	通所(認知) 現員	訪問介護 現員											居室 現員	通所 現員			
施設長・園長・管理者	常勤	1		0.25	0.5	0.1		0.75	0.75	1	1	0.125	0.375					0.1	0.5		6.45
部門長	常勤					0.2		0.5	0.5												1.2
事務局	常勤	2.4		0.6				0.6	0.6	0.3	0.6									0.9	6
	非常勤																				(0.) 0
事務員	パート	(0.33) 1		(0.08)				(0.08)	(0.08)	(0.04)	(0.08)									(0.12)	(0.81) 1
	非常勤																				(0.) 0
	パート											(1.81) 3	(1.03) 2						(0.28)		(3.12) 5
生活相談員	常勤	2	2	1	0.6					1		1					1	1		1	10.6
	非常勤			(1.) 1													(1.) 1				(2.) 2
介護支援専門員	パート				(1.) 1																(1.) 1
	常勤	3											1	0.2						3.7	7.9
社会福祉士	非常勤																(0.2)		(0.6) 1		(0.8) 1
	パート																				0
計画作成担当者	常勤							0.5	0.25												0.75
	非常勤																				(0.) 0
サービス提供責任者	パート								(0.2) 1												(0.2) 1
	常勤						0.9														0.9
ヘルパー	非常勤																				(0.) 0
	パート																				(0.) 0
介護職員	常勤	32.75	6.88	0.75	2			5.75	3	1	17									1	70.13
	非常勤	(4) 4		(2.) 2					(6.) 6		(1.) 1									(1.) 1	(14.) 14
保育士	パート	(8.65) 15		(5.58) 8	(4.43) 5			(9.) 13	(5.4) 7	(2.14) 3	(6.62) 10									(9.8) 14	(51.62) 75
	非常勤																				0
放課後児童支援員	常勤																				(1.5) 2
	パート																				(2.4) 8
補助員	常勤	3.4	1	0.1	0.1						1		1								6.6
	非常勤																				0
看護師	パート	(2.66) 4		(1.) 4	(0.25) 1			(0.2)	(0.2)											(2.43) 4	(6.74) 13
	常勤	1.05	0.2	0.1																	1.35
機能訓練指導員	非常勤	(0.06) 2		(0.08) 2																	(0.14) 4
	パート			(0.2)	(0.25)															(0.4)	(0.85) 0
栄養士	常勤	3					1			1	1										6
	非常勤			0.75	0.25																(0.) 0
調理員	常勤	2								2	1										6
	非常勤	(2) 2					(2) 2														(4) 4
清掃	パート	(5.57) 10								(1) 1	(1.63) 4									(3.13) 5	(11.33) 20
	非常勤	(1) 1																			(1.) 1
洗濯	パート	(4.61) 6										(0.7) 2									(5.31) 8
	常勤	(1.36) 3		(0.68) 1																	(2.04) 4
介助員	常勤	0.4		0.1				0.1	0.1	0.05	0.1									0.15	1
	非常勤	(1) 1																			(1) 1
運転手	パート	(1.75) 5		(0.75) 2			(1.2) 6	(0.08) 0.08	(0.08) 0.08	(0.03) 0.03	(0.08) 0.08	1								(1.48) 4	(5.44) 18
	非常勤	(0.05) 2	(0.01)																		(0.06) 2
計		(84.04) 107	(10.09) 10.08	(15.02) 23.65	(9.38) 10.45	(3.5) 11.2	(4.2) 9	(11.56) 21.2	(17.16) 19.2	(9.56) 10.35	(32.11) 38.7	(3.835) 6.125	(4.405) 5.375	(0.4) 0.2	(1.) 1	(2.) 2	(4.4) 4.8	(23.19) 32.55	(3.9) 10	(245.54) 322.88	

事業毎の配置人員	常勤	51	10.08	3.65	3.45	1.2	1	8.2	5.2	6.35	22.7	1.125	3.375	0.2	1	1	3.8	4.55	0	
	非常勤	(8.11) 12	(0.01) 0	(3.08) 5	(0.) 0	(0) 0	(2) 2	(0.) 0	(6.) 6	(0.) 0	(1.) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1.) 1	(0) 0	(1.12) 1	(0.) 0	
	パート	(24.93) 44	(0) 0	(8.29) 15	(5.93) 7	(2.3) 10	(1.2) 6	(9.36) 13	(5.96) 8	(3.21) 4	(8.41) 15	(2.51) 5	(1.03) 2	(0.2) 0	(0.) 0	(0.) 0	(0.6) 1	(17.92) 27	(3.9) 10	
	計	(84.04) 107	(10.09) 10.08	(15.02) 23.65	(9.38) 10.45	(3.5) 11.2	(4.2) 9	(11.56) 21.20	(17.16) 19.2	(9.56) 10.35	(32.11) 38.7	(3.835) 6.125	(4.405) 5.375	(0.4) 0.2	(1.) 1	(2.) 2	(4.4) 4.8	(23.19) 32.55	(3.9) 10	
施設毎の配置人員	常勤	61.08		8.3		1		13.4		6.35	22.7	15.05								
	非常勤	(8.12) 12		(3.08) 5		(2) 2		(6.) 6		(0.) 0	(1.) 1	(2.12) 2								
	パート	(24.93) 44		(16.52) 32		(1.2) 6		(15.32) 21		(3.21) 4	(8.41) 15	(25.76) 45								
計	(94.13)	117.08		(27.9) 45.3		(4.2) 9		(34.72) 40.4		(9.56) 10.35	(32.11) 38.7	(42.93) 62.05								
法人全体	常勤	127.88																		
	非常勤	(22.32) 28																		
	パート	(95.34) 167																		
	計	(245.54) 322.88																		

※ヘルパー換算  
(150×2.53)÷20.83÷8=2.3

# 事業報告書

平成30（2018）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

ケアハウス シャローム桜山

グループホーム シャロームミルトスの木

グループホーム シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町

---

## 平成 30 年度 ケアハウス・グループホーム事業報告

施設長 成瀬志津子

### 【ケアハウス シャローム桜山】

シャローム桜山は、「自立と自律」の施設として 21 年が過ぎ、第一期入居者 3 名が 20 年契約の更新をしました。前年度は創立以来 2 回目の入居率 100%を達成できましたが、今年度は 4 月 10 日に 1 名が急死され、その後入退去が続き、3 月末現在、50 名定員のところ 48 名で稼働率 97,5%と目標を 0,5%下回ってしまいました。7 月に緊急通報装置の交換がありました。入居者よりドアフォンが無いと不便だとのご意見を頂き 8 月に各室にチャイムを付けました。また長年座布団でカバーしていた食堂の椅子が傷んできたので 60 客の張替えを行いました。10 月は、有志の方に、文教大学健康栄養学部のたまねぎの皮の抗酸化作用の調査に協力いただきました。統計上冬期は入浴時の事故が多くなるため、入浴時間を職員が帰宅する 19 時までとしました。また、浴槽の清掃日を火曜日から金曜日に移しました。10 月は 9 日夜間に水道の止め忘れによる漏水、3 月 5 日夜間トイレ漏水 10 月 10 日はお芋を焦がして消防車が来るという、かつてない事態が続き、改めてナースコールの受け方の確認をしました。お元気とはいえ、入居者の 3 割の方は 90 歳代です。いっそうきめ細かい見守りが課題となっています。

### 【グループホーム:シャロームミルトスの木 シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町】

グループホームは認知症の方々にとっての安心な我が家です。職員は、入居者やご家族の不安や心配を受け止め、「大丈夫ですよ」と安心していただけるよう努めてきました。稼働率はどちらのホームも目標を達成することができました。ターミナルケアに関しては、ご家族、訪問医とともに学びあいながら 4 月に 106 歳の方の看取りを行いました。ミルトスの木(上白根)では、9 月 18 日第三者評価、11 月 9 日実地指導を受け、職員が知見を深め、技術を学び「あったかいがいいね」のモットーに基づいて、ホームがなごやかに運営されていることを褒めて頂きました。両ホーム共に、天井裏の火災報知機の不具合で、誤作動が起き消防車が来てしまったので修理をしています。運営推進会議には地域の方に参加していただき、各ホーム 6 回計 12 回を開催しました。

職員の努力で光熱水費が押さえられました。今後の課題は各ホームの仕事と人員の標準化を進めることと、入居者の骨折、入院を減らすことです。

# 目次

平成30年度  
アドベンチスト福祉会

## シャローム 桜山

事業報告 .....	2
現況報告 .....	3
定例行事報告、入居者勉強会、グループ活動の報告 .....	5
ボランティア活動、行事实績表 .....	6

## グループホーム ミルトスの木 上白根 事業報告

事業報告、現況報告 .....	8
行事報告 .....	9
職員研修 .....	10

## グループホーム ミルトスの木 鶴ヶ峰本町 事業報告

事業報告、現況報告 .....	12
行事報告 .....	14
職員研修 .....	15

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ケアハウス シャローム桜山	田中 綾子
I	<b>事業概況・実績報告</b> （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法人の理念を尊重し、基本方針を踏まえ、入居者が自立した生活ができるように誠意を持って対応した。入居者懇談会を12回開催し、入居者からの意見を取り入れて、緊急時対応の説明、ナースコールの練習を個別に行った。椅子の張替え、各部屋のチャイム取り付けなど、備品の整備を進めた。</li> </ol>
II	<b>業務目標の達成に関する報告</b> （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入居者の心身の状況を把握し、その相談に応じるとともに、入居者の自主性を重んじた助言・援助を行った。結果として、ご本人によりふさわしい他の施設に転居した方が6名となった。</li> <li>2 食堂の椅子については、20年以上座布団で保護していたが汚れがひどく張替えをした。旧ナースコールはドアフォンとセットだったが新しい装置には無く、入居者からの要望で、ドアチャイムを取りつけた。</li> </ol>
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告</b> （達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 退去者が8名、入居者は6名、入居率は97.5%で、目標を0.5%下回った。</li> </ol>
IV	<b>業務の改善・見直し</b> （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎月の運営委員会で仕事の手順の見直しを話し合い、業務マニュアルを更新した。</li> <li>2 給湯のバランスを考え、風呂の清掃日を金曜日に変更し、入居者の安全を考えて入浴時間を19時までとした。このため夫婦浴は廃止し、男女それぞれの入浴時間内にご利用いただくこととした。</li> <li>3 監査では、身体拘束に関する虐待防止の指針作り、会議、研修について、何もなされていないことを指摘された。今後どうすることがふさわしいのか考えていく。</li> </ol>
V	<b>業務の強化・向上</b> （強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊急時に対応できるように個々の事例を職員全員で検証し申し合わせを行った。</li> <li>2 入居者懇談会を活用し、生活上の改善点について入居者とコミュニケーションを図りながら緊急時の備えについて話し合った。避難訓練はケアハウス単独とシャローム横浜との合同避難訓練を述べ7回実施し、入居者は積極的に参加した。</li> </ol>
VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新規入居者のインタビュー、行事、入居者の作品などを広報紙に載せ、入居者同士のコミュニケーションツールとして、親睦を深めるきっかけにした。</li> <li>2 入居者の体調や気懸りなことを各職員が把握し、申し送りによって全職員が入居者の動向をきめ細かに把握し対応できるようにした。</li> </ol>
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 7時30分～19時までの業務時間を常勤換算5名で365日分担している。日常の業務を誰もが同じようにマニュアルに沿って行い、記録し、申し送りをして情報共有をはかっている。今後もマニュアルは、作って終わりではなく、日々の気づきを反映するように毎月の運営委委員会で話し合い、より効率的に作業ができるように改定を加えていく。</li> <li>2 水漏れ2件、煙で消防車が駆けつける事例1件が起きた。施設全体に係るような事故が起きたので、今後入居者の様子については、より注意深く見守る必要がある。</li> <li>3 職員が1名退職したあとの補充ができていない。</li> </ol>

## 1. 現況の報告

### 1) 人数・年齢（平成31年3月31日現在）

区分	人数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男性	9	86	71	81.0
女性	39	96	75	86.2
合計	48			83.6

### 2) 年齢階層別表（平成31年3月31日現在）

年齢／性別	男性	女性	計	比率(%)
～59才	0	0	0	0
60～64	0	0	0	0
65～69	0	0	0	0
70～74	1	1	2	4
75～79	2	6	8	17
80～84	4	12	16	33
85～89	2	6	8	17
90～94	0	11	11	23
95～99	0	3	3	6
100～	0	0	0	0
合計	9	39	48	100

### 3) 入居前住所別人数（平成31年3月31日現在）

区分	神奈川県			神奈川県外		合計
	市内旭区	市内旭区外*1	横浜市外*2	東京都*3	都外*4	
男性	1	3	1	3	1	9
女性	10	9	7	7	6	39
計	11	12	8	10	7	48

\*1 港南区2名・保土ヶ谷区4名・戸塚区2名・磯子区1名・都筑区1名  
南区1名・泉区1名・神奈川区0名

\*2 平塚市1名・川崎市1名・鎌倉市2名・相模原市3名・厚木市1名

\*3 台東区1名・大田区2名・小平市1名・江東区1名・多摩市2名・立川市2名・東久留米市1名

\*4 米国1名・千葉県2名・北海道1名・埼玉県2名・茨城県1名

### 4) 入居・退去の状況（平成30年度）

区分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	6
入居者合計	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	0	6
退去	男性	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	女性	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1	6
退去者合計	1	0	2	0	1	1	0	2	0	0	0	1	8

## 5) 入院者数（平成30年度）

区分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
女性	3	1	4	2	2	0	0	1	0	2	3	4	22
計	3	1	4	2	2	0	0	1	1	2	3	4	23

## 6) 入居者のADL（平成31年3月31日現在）

区分	自立	一部 介助	内訳(一人につき複数項目の該当あり)									
			入浴	排泄	歩行	配膳	洗濯	掃除	通院	薬管理	その他	
男性	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	25	14	5	0	0	6	4	10	13	3	0	0
計	34	14	5	0	0	6	4	10	13	3	0	0

## 7) ホームヘルパー利用状況（平成31年3月31日現在）

	週1回 利用	週2回 利用	週3回 利用	週4回 利用	週5回 利用	週6回 利用	週7回 利用	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	8	3	3	1	0	0	0	15
計	8	3	3	1	0	0	0	15

## 8) デイサービス利用状況（平成31年3月31日現在）

区分	週1回利用	週2回利用	週3回利用	週4回利用	週5回利用	合計
男性	0	0	0	0	0	0
女性	1	1	0	0	0	2
計	1	1	0	0	0	2

## 9) 介護保険認定者一覧（平成31年3月31日現在）

区分	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	9	0	0	0	0	0	0	0	9
女性	25	3	6	3	2	0	0	0	39
計	34	3	6	3	2	0	0	0	48

## 10) 懇談会出席率（平成30年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間平均 出席率
人数	41	33	37	36	38	34	32	35	36	38	32	31	35.3
%	82	67	76	74	76	68	65	71	77	81	67	65	72.3

・ 欠席者の理由 【 入院・受診・外泊・旅行・体調不良 】

## 2. 定例行事の報告

行事名・実施回数	内 容	会 場
① 懇談会 12回	毎月第1月曜日午前 11:00~12:00 連絡事項等の説明、生活全般にわたって希望・要望、意見を聞く会（延べ 423 名参加）	食堂
② 誕生日会 12回	毎月第1月曜日昼食時	食堂・
③ 単独・合同 避難訓練 8回	単独＝毎月第1月曜日午後 2時 合同＝7月 22日、3月 27日（延べ 143名参加）	全館・
④ お茶飲み会 6回	毎月第1金曜日午後 2時（延べ 37名参加）	食堂
⑤ こもれび喫茶	栄養課主催 毎月第2日曜日午後 2時	食堂
⑥ 行事・特別食	お正月 祝い膳(1月1日)	食堂
	特養主催 納涼祭(7月22日)	横浜三育小校庭他
	敬老の日 祝い膳(9月16日)	食堂
	シャロームデー (11月25日)	特養中庭他
	クリスマス デイナー(12月25日)	食堂
	大晦日 年越しそば(12月31日)	食堂
⑦ 行事食ほか	ピザ、バーベキュー、釜戸、ざるうどん、あんみつ、スイカ、ラーメン、焼き芋、アップルパイなど 主に栄養課主催	食堂、中庭

## 3. 入居者勉強会

名 称	講 師	開催日	出席者数	会 場
切り絵の ワークショップ	岩河 亜紀	5月11日	6名	食 堂
安全なバスの乗降	市営バス	7月 5日	16名	食 堂
健康教室:体操、ツボ押し	フレアスマッサージ	8月20日	19名	食 堂
健康な食事:抗酸化	文教大学 戸田、井上 教授他2名と学生	11月 2日	17名	食 堂
健康教室:転倒予防体操	藤和マッサージ	1月16日	14名	食 堂

## 4. グループ活動の報告（趣味の会）

名 称	講 師	開催日	平均参加者数	会 場
習 字	入居者有志	毎月第1・3火曜日	3名	食 堂
絵手紙の会	吉田玲子（ボ）	毎月第4火曜日	5名～8名	食 堂
コーラスの会	福田貴美子(ボ)	毎月第3日曜日	10名～15名	食 堂
ハーモニカの会	入居者有志	毎週木曜日	3名	3Fラウンジ
カラオケ・クラブ	入居者有志	毎月第1土曜日	8名から10名	デイホール
桜の園	白石理事長	毎週金曜日	10名～12名	3Fラウンジ
ラジオ体操同好会	入居者有志	毎朝6時50分より	8名	特養中庭

(ボ) ⇒ ボランティアの先生

## 5. 特養シャローム横浜へのボランティア活動

入居者がボランティア活動をしています。他の施設にも奉仕に出かけています。

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

- 縫物 1 名
- 特養 3 階シーツ交換 1 名
- 園芸 3 名
- デイサービス 4 名
- 特養当繕（障子、網戸等） 2 名
- 特養 3 階傾聴ボランティア 1 名

平成 30 年度 ケアハウス シャローム桜山 行事実績表

	月 日	行 事 名 称
1	4 月 14 日	YY コンサート
2	5 月 5 日	こどもの日 柏餅
3	5 月 6 日	ピザパーティ、菖蒲湯
4	5 月 11 日	入居者勉強会 切り絵ワークショップ 岩河亜紀
5	6 月 8 日	朗読劇 朗読集団ユーカリスティア
6	6 月 17 日	バーベキュー
7	6 月 19 日	リコーダーコンサート
8	6 月 23 日	讚美の集い（亀甲山教会家庭会）
9	7 月 1 日	かまど料理
10	7 月 4 日	七夕かざり（三育小学校 3 年生）
11	7 月 5 日	入居者勉強会 バスの安全な乗り方
12	7 月 6 日	ハワイアン音楽&フラダンス
13	7 月 22 日	納涼祭
14	8 月 11 日	YY コンサート 第 14 回
15	8 月 13 日	スイカ食べ放題
16	8 月 20 日	入居者勉強会 健康教室：体操・ツボ押し体験 フレアスマッサージ
17	9 月 1 日	ピザパーティ
18	9 月 16 日	敬老祝膳
19	9 月 19 日	リコーダーコンサート
20	10 月 2 日	ゴールデンエンジェルス演奏会
21	10 月 26 日	入居者健康診断
22	11 月 2 日	入居者勉強会 食べて動いて抗酸化 文教大学健康栄養学部
23	11 月 4 日	焼き芋パーティ
24	11 月 12 日	シャロームデイ
25	11 月 24 日	朗読劇
26	11 月 22 日	第 19 回法人内研究発表会
27	12 月 8 日	YY コンサート 第 15 回
28	12 月 16 日	ゆず湯
29	12 月 20 日	インフルエンザ予防接種
30	12 月 21 日	リコーダーコンサート
31	12 月 24 日	エンジェルスベルクワイヤ ボランティア演奏会
32	12 月 25 日	クリスマスディナー
33	12 月 31 日	年越しそば
34	1 月 1 日	新年お祝膳

35	1月16日	入居者勉強会 転倒予防トレーニング 藤和マッサージ
36	2月1日	節分豆まき
37	2月3日	アップルパイのお茶会
38	3月3日	ラーメン屋台、ひな祭りのさくら餅
39	3月7日	リコーダー・篠笛コンサート
40	3月16日	YYファミリーコンサート
41	3月27日	横浜桜山合同地震火災避難訓練（昼間想定）
42	各月2回	紙芝居 年間23回実施

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
シャロームミルトスの木（上白根）	治部 実
I	<b>事業概況・実績報告</b> （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別に生活リハビリを設定し日常生活を維持できるように支援した。横浜リハビリテーションセンターに積極的に相談し、リハビリのアドバイスを受けた。</li> <li>2 ICFの視点に立った細やかなケアプランを作成し、介護サービスを提供した。</li> <li>3 終末期をどのように迎えるか、介護度3のご利用者ご家族と面談の時間をもち、施設別の特徴を説明した。</li> </ol>
II	<b>業務目標の達成に関する報告</b> （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災訓練や避難訓練時にご利用者に防災食を試食して頂き、高齢者に適しているかどうか検証した。</li> <li>2 感染症による敏速な対応により蔓延することはなかった。（インフルエンザご利用者1名）</li> <li>3 食費、公共料金の節約に努め、コストを削減した。</li> </ol>
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告</b> （達成率・達成数値） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 夜間想定避難訓練、消防訓練を年1回、火災や地震を想定した避難訓練を年1回、他、防災食の訓練を2回行った。</li> <li>2 サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（3年以上継続勤務者を3割以上維持）は達成した。</li> <li>3 入居率97.5%。目標としていた96%は達成する事ができた。</li> </ol>
IV	<b>業務の改善・見直し</b> （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 『介護記録』『リスクマネジメントにおける記録のあり方』の研修を受講し、ミルトスにおけるケア記録の指針を作成した。</li> <li>2 事故報告書やヒヤリハットの作成には個人差があるため、その都度ユニット長より指導した。事故の原因、分析のカンファレンスを敏速に行い、対策や介護方法の変更について周知することが出来た。</li> <li>3 業務分担の見直しはできたが、予定表を再確認することはできなかった。</li> </ol>
V	<b>業務の強化・向上</b> （強化・向上したこと） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ユニット会議の利用者カンファレンスにより、介護技術の伝達はできた。介護サービスの質の向上には研修が必要だと思われる。</li> <li>2 運営推進会議は2か月に1回行っていたが、地域の防災訓練は台風のため中止となった。ケアプラザのお茶会や文化際にも参加することが出来た。</li> </ol>
VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> <li>1 横浜リハビリテーションセンターとの連携を深め、安全な入浴介助の方法や歩行訓練や可動域の拡大等の指導を受け生活リハビリの充実に努めた。</li> <li>2 ホームの役割と利用者様全体のバランスを考慮しながら、利用者様が以前住んでいた家を見に行ったり馴染みの眼鏡屋さんに行くなどの個別対応を行った。</li> </ol>
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ホーム主催の交流会を開催することはできなかった。地域貢献や近隣住民との交流を深めることは、グループホームの理解や、災害時の協力体制をとるためにも必要なことだと考える。来年度は実現させたい。</li> <li>2 業務の予定表を再確認し、必要な業務を適正な人員で出来る様に調整する。</li> <li>3 転倒事故による骨折が多かったため、転倒防止の具体的な対策を検討する。居室での環境整備を行う。</li> </ol>

1 各ユニットの入居者状況 各階9名定員 合計18名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1階	男性	2	93	2階	女性	2	88
1階	女性	3	92	2階	女性	3	92
1階	女性	2	94	2階	女性	1	75
1階	女性	3	99	2階	男性	2	88
1階	女性	4	100	2階	女性	3	94
1階	女性	2	85	2階	女性	3	86
1階	女性	2	93	2階	女性	1	94
1階	女性	1	84	2階	女性	1	84
1階	女性	4	94	2階	女性	1	84

1階 平均年齢 92.6歳 要介護度 2.55  
 2階 平均年齢 87.2歳 要介護度 1.88  
 ホーム平均 89.9歳 要介護度 2.21

2 入院者数

区分月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	1	2	1	0	0	0	2	2	2	0	10
計	0	0	1	2	1	0	0	0	2	2	2	0	10

3 入居・退居の状況

区分月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	2	6
入居者合計	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	2	7
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	7
退去者合計	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	1	7

4 行事報告

月	行事内容	月	行事内容
4	入社式 自治会総会参加	10	里山ガーデン散策 グループホーム交換研修 家族会
5	入居者100歳お祝いの会 家族会	11	シャロームデイ 横浜みなと博物館バスハイク・木曾路外食

6	大池公園 ジョイナステラスドライブ レストラン風の音外食	12	クリスマス会ホームパーティ ひかり忘年会参加 年越しそば 情報公表
7	今宿中学校生福祉体験 セタ ハワイアン音楽とフラダンス鑑賞 シャローム納涼祭 ひかり外出レク参加	1	元旦 おせち料理 初詣 獅子舞 鍋パーティー
8	ららぽーと横浜おやつ外出 夕涼み会(花火)	2	節分 バレンタインデーおやつレク
9	避難訓練 けいあいの郷お祭り 実地指導	3	保育園来所 消防訓練

- ・ 毎月1回・・・書道クラブ
- ・ 毎月1回・・・腹話術ボランティア茅野様
- ・ 毎月2回・・・音楽療法
- ・ 毎月第1火曜日・・・紙芝居のボランティア神田様
- ・ 毎月第1火曜日・・・将棋のボランティア横山様
- ・ 毎月第2水曜日・・・ピアノ演奏ボランティア村井様
- ・ 毎月第1木曜日・・・歌の会ボランティア下田様
- ・ 毎月第3土曜日・・・お茶のみサロン(上白根ケアプラザ)
- ・ 1、4、7、12月・・・お茶会ボランティア
- ・ 年3回・・・ミコの会
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキでお祝い

## 5 運営推進会議

奇数月年6回開催 ※出席者：地域住民2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名  
・利用者家族1名・ハウス長・ホーム長・各ユニット長

## 6 職員研修

研修名 (内)=法人内研修	研修日	参加人数
(内) インフルエンザ集団感染の検証	平成30年4月18日	2名
(内) 個人情報・法令遵守	平成30年5月24日	1名
障害者と高齢者が共に過ごす：富山型DS	平成30年5月29日	1名
ひもときシートの意義と使い方	平成30年6月13日	1名
(内) 食中毒予防	平成30年6月27日	3名

食べられる口を維持するために	平成 30 年 7 月 17 日	1 名
身体拘束と虐待について	平成 30 年 7 月 20 日	2 名
(内) アンガーマネジメント研修	平成 30 年 7 月 25 日	1 名
小規模社会福祉施設関係者（一人宿直）研修会	平成 30 年 8 月 1・3 日	2 名
(内) 安全運転講習会	平成 30 年 9 月 26. 27 日	3 名
食品衛生管理者研修	平成 30 年 10 月 10 日	1 名
(内) 感染症予防研修	平成 30 年 10 月 17 日	1 名
グループホーム交換研修	平成 30 年 10 月 30 日 11 月 2・3 日	2 名
記録力を高めよう 伝える、伝わる記録の書き方	平成 30 年 11 月 7 日	2 名
(内) ターミナルケア研修	平成 30 年 11 月 14 日	2 名
地域防災拠点避難訓練	平成 30 年 11 月 17 日	1 名
(内) 法人内研究発表会	平成 30 年 11 月 22 日	4 名
ごぼう先生の認知症予防体操	平成 30 年 11 月 25 日	1 名
介護記録の書き方・記録力を高めよう	平成 30 年 12 月 4 日	1 名
(内) 海外研修報告（アメリカオレゴン州ポートランド市を訪ねて）	平成 31 年 1 月 16 日	1 名
介護事故における訴訟や保険適用の事例・予防	平成 31 年 1 月 22 日	2 名
リスクマネジメントにおける記録のあり方	平成 31 年 1 月 28 日	2 名
グループホーム発表会	平成 31 年 3 月 5 日	1 名
高齢者が使用している精神薬・下剤・認知症薬について	平成 31 年 3 月 18 日	2 名
主体性・個別性を重視したプランニングのためのマネジメントを学ぶ	平成 31 年 3 月 26 日	2 名

- ・ 全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月 1 回
- ・ ケアプラン見直し 半年毎

平成30年度事業報告 部門名	報告者：氏名
シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町	浅岡 真美
I	<p><b>事業概況・実績報告</b>（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成30年4月に当ホーム4件目の看取りを行った。ご家族様・医療機関・法人看護師・職員が一丸となり穏やかな最期の時間を過ごされ全員でお見送りをした。</li> <li>介護プロセスの基本となるケアプラン向上のため、両ホームの計画作成担当者がミーティングを持ちアセスメントやモニタリングの手法について意見交換したり情報共有をした。</li> <li>ご家族とご利用者様の現状を再確認し、今後の方向性についてご家族の意向を伺い見合った選択肢を説明した。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告</b>（努力したこと 達成できたこと・できなかったこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>消防署の協力により、水消火器での消火訓練を行い、具体的な避難方法などアドバイスを受けた。</li> <li>感染症予防・対策について、法人や区役所主催の感染症研修に積極的に参加した。毎月行う職員ミーティングで法人看護師によるミニ研修の時間を設け感染症の理解を深めた。</li> <li>看取りの充実に向けて、訪問診療医が主催する研修に参加した。</li> <li>スムーズな入退居により、空室日数を削減した。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告</b>（達成率・達成数値）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>夜間想定避難訓練を年1回、火災や地震を想定した防災訓練を年1回行なった。</li> <li>外気浴・散歩・買物などにより、全利用者が1日1回外気に触れるよう誘導したが4月のインフルエンザ感染、7月・8月の猛暑などにより実施出来ない期間もあった。</li> <li>サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（3年以上継続勤務者を3割以上維持）は達成した。</li> <li>入居率97、6%であり、目標としていた96%を達成した。</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し</b>（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>感染症対策として、面会者の検温・手指消毒・マスク着用・うがいの徹底を行った。また職員は出退勤の際の検温・マスク着用・うがいを徹底した。</li> <li>感染症対策として、フロアに次亜塩素酸を使用する空気清浄機（ジアイーノ）を設置した。</li> <li>職員が休憩室として使用できる場所がないため、各ユニットの和室にカーテンを設置し休憩場所の一部として活用できるようにした。</li> </ol>
V	<p><b>業務の強化・向上</b>（強化・向上したこと）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ホームで実施した夜間想定避難訓練の他に、夜勤業務をする職員のほぼ全員が避難に関する外部研修に参加した。煙幕の中でのよりリアルな避難誘導の訓練を体験する事ができた。</li> <li>運営推進会議、地域主催の防災訓練、公園清掃やお祭りに積極的に参加することにより地域住民との交流を更に深めた。</li> <li>夜間、常夜灯を消してしまう利用者様の転倒防止の対策の一つとして、居室ベットの足元にセンサーライトを設置した。</li> </ol>

VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） <ol style="list-style-type: none"> <li>看取りを行うにあたり、訪問診療医・福祉用具メーカーと話し合い、エアーマット、サイドテーブルなど必要な福祉用具を使用した。</li> <li>ホーム車両にドライブレコーダーを設置して安全運行に取り組んだ。</li> <li>「ミルトス夏祭り」として、ホームに踊りボランティア様を招いた。盆踊り・射的・かき氷・ヨーヨー釣り・金魚すくいなどのブースを設置し、利用者様に季節感を感じながら楽しんで頂く事が出来た。浴衣の着付けをご家族にして頂くなど交流の場にもなった。</li> </ol>
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域住民との更なる交流のため、ホーム発信での新たな交流の場を持てる様に計画・検討する。（介護相談会など）</li> <li>看取りに関し、今年度までの実績（4名）は1Fであったため、2Fでも同様な看取りケアが実践出来るようにホーム全体での研鑽の場を設ける。</li> </ol>

**1 各ユニットの入居者状況**      各階9名定員      合計18名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1階	女性	3	78	2階	女性	2	82
1階	女性	3	88	2階	女性	2	79
1階	女性	2	91	2階	女性	2	96
1階	女性	3	88	2階	女性	3	88
1階	女性	2	94	2階	女性	1	99
1階	女性	1	87	2階	女性	1	87
1階	女性	2	86	2階	女性	1	83
1階	女性	2	93	2階	女性	2	86
1階	女性	3	87	2階	女性	4	83

1階      平均年齢 88.0歳      要介護度      2.30

2階      平均年齢 87.0歳      要介護度      2.00

ホーム平均      87.5歳      要介護度      2.15

**2 入院者数**

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
女性	2	3	1	0	0	1	1	0	0	2	1	1	12
計	2	3	1	0	0	1	1	0	0	2	2	1	13

### 3 入居・退居の状況

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1	2	8
入居者合計		0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1	2	8
退居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	女性	2	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	7
退去者合計		2	2	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	8

### 4 行事報告

月	行事内容	月	行事内容
4	入社式 お花見ドライブ 家族会	10	グループホーム交換研修 防災訓練
5	菖蒲湯 母の日 タカナシバラ園見学 家族会	11	シャロームデー（ご家族も同行）
6	バーベキュー大会 おやつ外出	12	クリスマス会ホームパーティ ランチ外食 ミコの会コンサート 年越しそば
7	今宿中学校生福祉体験 セタかざり スイカ割り バイオリン演奏会	1	元旦 おせち料理 初詣 獅子舞 鍋パーティ 外部評価 ランチ外食
8	ミルトス夏祭り おやつ外食	2	節分 防災食訓練
9	町内会納涼祭 お神輿見学 敬老会	3	雛祭り 夜間想定避難訓練 花見ドライブ

- ・ 毎月1回・・・書道クラブ ボランティア望月様
- ・ 毎月1回・・・紙芝居 ボランティア神田様
- ・ 毎月2回・・・音楽療法 西職員
- ・ 毎月1回・・・腹話術 ボランティア茅野様
- ・ 毎月1回・・・歌の会 ボランティア下田様
- ・ 毎月第2水曜・・・ピアノ演奏 ボランティア村井様
- ・ 年2回・・・旭区混声合唱団 ミコの会様（13～14名）
- ・ 毎月1回・・・旭区地区センター ボランティアなごみの会様
- ・ 不定期・・・包丁研ぎ ボランティア津久井様
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキ、食事の際にお赤飯などでお祝い、写真入り色紙

## 5 運営推進会議

偶数月年6回開催 ※出席者：地域住民1～2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名  
・利用者家族1名・ハウス長・ホーム長・各ユニット長

## 6 職員研修

研修名 (内)=法人内研修	研修日	参加人数
インフルエンザ集団感染を検証する(内)	平成30年4月18日	1名
嚥下のメカニズム	平成30年4月25日	3名
個人情報保護・法令順守(内)	平成30年5月24日	1名
ユマニチュードを学ぶ	平成30年6月15日	2名
夜勤者防火安全研修	平成30年7月11日	11名
食品衛生管理者研修	平成30年8月1日	1名
安全運転講習会(内)	平成30年8月24日	4名
感染症予防講習会	平成30年9月28日	2名
グループホーム交換研修	平成30年10月9日	1名
感染症の予防～もちこまない ひろげない(内)	平成30年10月17日	2名
住み慣れた我が家で～「家にいたい」をみんなで支える(内)	平成30年11月14日	1名
ミッションデー(内)	平成30年12月13日	3名
海外研修報告会(内)	平成31年1月16日	1名
リスクマネジメントにおける記録の書き方	平成31年1月22日	2名
介護事故の訴訟の事例	平成31年1月28日	2名
AEDによる心肺蘇生法の実技演習(内)	平成31年3月27日	4名

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し、カンファレンス 半年毎

# 事業報告書

平成30（2018）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

## 【目次】

1	事業報告（所長）	2
2	地域包括支援センター	3
3	地域交流事業	4
4	生活支援体制整備事業	5
5	居宅介護支援事業	6
6	通所介護部門	7
7	通所介護給食部門	8
8	横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	9

所長 下山 直樹

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザは「地域の身近な福祉拠点」として「地域づくり」「地域のつながりづくり」を行うとともに、地域及び行政と連携し、地域の中での孤立を防ぎ、支援が必要な人を把握し支援につなげていくことを目的として設置されています。この目的を踏まえ策定した平成30年度基本方針の成果についてご報告いたします。

**【基本方針1】**

平成30年度介護報酬改定については法令遵守を基本とし適切な対応を行います。特に通所介護部門においては基本報酬単価が大幅に低く設定されましたが利用増に努め、安定したケアプラザ運営を実現すべく収支への影響を最小限にとどめます。

**【成果】**

平成30年度の実績により、事業所規模が「大規模Ⅰ」から「通常規模」に変更となりました。この変更により基本報酬単価が上昇し、収支の安定につながるが見込まれます。利用者の満足感を高める努力を引き続き行います。

**【基本方針2】**

災害時特別避難場所としての役割については前年度より区役所主導のもと連絡会及び訓練にて確認してきました。今年度より福祉避難所と名称が変更となりますが、当ケアプラザ内における訓練の実施等を通じて災害時に適切に機能することができるよう準備を行います。

**【成果】**

平成30年度も区役所主導の連絡会及び訓練に参加しました。令和元年度については当ケアプラザで旭区福祉避難所訓練を開催します。準備及び訓練を通じて職員の意識及び対応力を高めます。

**【基本方針3】**

3. 第7期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（計画期間：平成30年度～32年度）において基本目標は【ポジティブ・エイジング～誰もが、いつまでも、どんなときも、自分らしくいられる「横浜型地域包括ケアシステム」を社会全体で紡ぐ】と定められました。地域福祉保健計画との連動による効果的な推進を目指して、当ケアプラザにおいても地域ケア会議・支えあい連絡会等で得られるアイデアをネットワーク構築・政策提言・課題解決等につなげます。

**【成果】**

地域ケア会議における継続的な取組が、令和元年度から始まる「精神科医との相談会（隔月）」の開催へと繋がりました。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター	西村 明史
I	<b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域の高齢者の心身の健康維持、介護予防・保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助・支援を包括的に実施した。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 下記業務を区福祉保健センターと密接な連携を図りつつ行った。 1 包括的支援事業； ア、第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るものを除く） イ、総合相談支援業務 ウ、権利擁護業務 エ、包括的・継続的ケアマネジメント業務 オ、在宅医療・介護連携の推進 カ、生活支援サービスの体制整備 キ、認知症高齢者の総合的支援 2 介護予防支援業務 3 第一号介護予防支援事業（居宅要支援被保険者に係るもの）
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 相談には迅速・丁寧に対応した。必要に応じ訪問して相談対応をした。 よりの確な支援をするために資質の向上に努めた。…相談件数 年間1577件 2 介護予防事業の開催及び認知症予防、ロコモ予防等の普及啓発。…年間12回 3 権利擁護の普及啓発研修、認知症の勉強会。…共催で3回を含め、年間7回 4 地域ケア会議の開催。…個別会議 年4回 包括レベル会議 年2回
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 地域のアセスメントや事業の評価・再構築をしていくために、地域ケア会議等を通して資料等のデータ化・見える化に取り組み、より客観的な分析を試みた。その成果として、令和元年度は年6回ケアプラザに区より精神科医を派遣してもらえることになり、地域、専門職向けに相談会を企画できるようになった。 2 多問題ケースなどの相談の増加に対応すべく、情報共有・対応力の強化を試みた。経済的課題、成年後見、虐待等権利擁護の相談に適切に対応できるよう研修の参加や企画、研究活動（AAAとの連携、研究協力）に努めた。連携強化を図るべく、障害者支援機関と定期的にカンファレンスを行った。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 行政や地区社協、自治会や地域の介護保険施設、医療機関、障害者支援機関、商店、ボランティア等様々な方々とのネットワークの維持強化に努めた。 2 認知症対応のための徘徊SOSローカルネットワークをはじめ、あんしんネットワーク、施設連絡会等の地域のネットワークに関する関係機関との情報交換、連携強化に努めた。 旭区SOSネットワーク協賛店、SOSローカルネットワーク発見依頼機関への訪問： 38店舗・施設 新規施設2件
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 生活支援体制整備部門、地域活動交流部門、横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業と連携し、地域に必要な資源が位置付けられるよう出来るところから取り組みを行なった。平成30年度は介護予防関係の講座を前年度の倍以上開催できた。また、生活支援体制整備部門の取り組みから緊急の食の確保の相談への対応も行なうことが出来た。 平成30年度は介護保険制度改正の年であったが、情報収集に努め、利用者が混乱をせぬよう説明に努め、必要な調整を行なうことができた。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 地域の高齢化が急速に進行しており、支援の担い手が足りない状態になってきている。連携強化だけでは立ちゆかず、根本的な支援体制の見直しが必要な状態となっている。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域交流部門	滝沢 泰彦
I	<b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 1 ケアプラザが地域の福祉保健の拠点として地域住民が気軽に利用する施設を目指した。 2 地域に必要な情報を収集し、広報・掲示等で情報を発信した。 3 地域包括支援センター等と連携し、多様化する相談内容に対し適切な対応を行えるよう努めた。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 1 地域包括支援センター等と連携して相談内容の分析を行い地域支援事業に繋がった。 2 地域の関連機関や行政と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。 3 相談者が安心できるようなあたたかい窓口対応を行った。 4 広報活動を充実させた。 5 快適な施設環境を維持した。 6 地域のニーズに即した、主催事業を実施できるよう情報収集を心がけた。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 主催事業を月10種、延べ20回以上を目標にし、結果延べ平均28回行った。 2 連携・情報共有連絡会等を月1回以上の開催し、参加した。 3 来館者数月2000名を目標にし2175名を達成。 4 広報誌、事業案内を月1回発行。掲示板の「今日は何の日」（営業日毎）、部屋利用状況表（毎週）について目標通り行うことが出来た。
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 窓口業務の見直しを行い、来館者への目配り、声かけ、玄関回りの人の動きに注意し事故を防ぐことが出来るように工夫した。 2 職員全員が館内外に気を配り、施設の点検・修繕・備品管理にも気を配り安心して利用していただける環境作りを行った。 3 各イベントや講座の企画・遂行をスムーズに行えるよう、スタッフが段取りや進行状況を共有できるようなしくみのマニュアルを活用作成していくことが出来た。 4 ケアプラザ内の掲示板・チラシなどの情報を、分類するなど掲示方法を工夫し、閲覧しやすくした。 5 ケアプラザを挙げての地域支援を行えるよう、他職種連携の場を通じ情報共有・提案・相談等、意見交換を積極的に行った。 6 地域住民の活動の場へ積極的に参加し、関係作りに努めた。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 地域の見守りネットワークの維持への支援を行った。 2 地域ボランティア団体への支援や情報提供、各団体からの意見収集に努めた。 3 内外掲示板や地域へ配布している“ひかりが丘便り”を有効活用し事業チラシや、地域防犯につながる情報発信した。 4 災害・感染症など有事の際の役割確認と、地域との防災協力体制の強化に努めた。
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 自主事業については、運営状況を確認した上で自主化を促進し、輪投げの集いとハマトレ体操を自主化することが出来た。 2 ケアプラザへ来所出来ない方、引きこもりがちの方等、個別ニーズを把握した上で行う出張支援については、進めることが出来なかった。 3 近隣小学校等にアプローチし高齢者等との交流を行い、利用の少ない青少年にケアプラザをご利用いただけるよう努めた。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 担当変更があった為、引継ぎ等に時間を費やし、多くのやり残した課題があり、次年度に課題を繰越した。 感染対策や救急対応を誘導できるようマニュアル・建物管理の見直し・引きこもりがちの方等、個別ニーズを把握した上で行う出張支援などを繰越している。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業	飯田 竜一郎
I	<b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 地域包括ケアシステムの構築に向けて、生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置を通じ、多様な主体による多様な支援の提供体制を構築し、生活支援・介護予防の充実した地域づくりに取り組んだ。 地域包括ケアシステムの構築のために、社会資源・地域資源の情報収集をケアプラザ全体で行い地域交流部門と共に a y a m u システムの更新を随時行った。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 1 住民主体のサークル活動の生きがい・楽しみの存続に努める為、地域への活動紹介を広報誌・チラシ作成を通じ積極的に行った。 2 介護予防・生きがい作りの為の活動団体の担い手育成を継続する事で自主事業ハマトレ体操が地域住民主体に移行できた。 3 地域住民への日常生活アンケート（聞き取り調査、会議等）通じ、継続したアセスメントを行い課題抽出を行った。 4 日常生活支援総合事業の推進を図る為、住民主体団体への情報提供を行った。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 生活支援体制整備事業の推進を図るため、テーマを明確にした上で協議体の開催を年間1回以上行う目標だったが実施には至らなかった。住民主体活動へ積極的に参加し、生活支援体制整備事業への理解普及を行った。
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 ケアプラザを挙げての地域支援を行えるよう、LSA包括会議・包括ミーティング・地域交流ミーティング・区役所巡回カンファレンスなどの場を通じ情報共有・提案・相談等、意見交換を積極的に行った。 2 地域住民の活動の場へ積極的に参加し、関係作りに努めた。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 協議体を通じて、地域住民の思いやりや助け合いの気持ちを基盤とした活動を継続出来る様、支え合いの仕組みを強化する為、保育所と地域の交流やこどもログハウスとボランティア募集などの取組みを行った。
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 ケアプラザへ来所出来ない方、引きこもりがちの方等、個別ニーズを把握した上で行う出張支援の一貫として、区内生活支援連絡会を通じ、スーパーの配達サービス一覧を作成し外出機会の確保及び促進を行った。 2 ボランティア団体運営者の活発な活動を助長する為、ケアプラザ内で行っている自主事業参加者等よりボランティア活動の担い手育成を、シニアボランティアポイント講座を通じ、人材不足解消につながるアプローチを行った。 3 ボランティア活動者の不安の解消の為に区内生活支援コーディネーター連絡会を通じ年間6回の研修を実施し、必要な技術研修等により活動の活性化を図った。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 高齢化及び人口減少並びに地縁団体の脱退者などが非常に顕著に表れている地域の中でも、共生社会の実現の為に様々な課題に向かい意欲的に活動されている方々がいる。しかしそんな方々の高齢化が更に現活動者の負担増を招いている事を大きな課題として捉えている。現活動者の負担が今以上にならないように支援するとともに、地域住民が地域活動に積極的に参加がしやすいような環境を整える事をケアプラザ全体で協議・相談し行っていきたい。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業部門	江口 直美
I	<b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 地域の方々が独居、老老介護など困難な状況であっても、住み慣れた自宅で暮らせるよう、安心と信頼を提供した。ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことが出来ることを目指し、支援を行った。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 1 互いに連携する <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施される民生委員懇談会に出席し、情報交換を行った。</li> <li>・サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関等からの相談には積極的に対応し連携を深めた。</li> <li>・ケアプラザ協力医とケースカンファレンス会議を実施し連携を深めた。</li> <li>・予防介護支援事業と協力し予防支援居宅サービス計画書作成した。</li> <li>・旭区からの認定調査の委託に対応し、地域の方々に資するよう務めた。</li> </ul> 2 互いの資質を向上させ信頼に繋がる体制を作った <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営基準に基づいたサービスを実施した。</li> <li>・月に一回事業所内事例検討会を実施、一つの事例に対し多方面からの意見を得られる場を作った。</li> <li>・事業所内で連携を図り、包括・地域・通所からの情報、助言を受けられることで、緊急の際も早急に対応出来る体制を維持していった。</li> <li>・「サービス内容に関するご利用者アンケート調査」、により、業務の振り返りと改善を実施した。</li> <li>・新規開設の地域の福祉・保健サービス等の情報を収集しご利用者のニーズにあったサービスを提供出来る体制を作った。</li> </ul>
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 居宅サービス計画書作成件数：年間1020件に対し1176件。達成率115% 2 介護予防支援計画書作成件数：年間480件に対し653件。達成率136% 3 認定調査受託件数：年間：80件に対し111件。達成率138% 4 事例検討会の実施：年間：6回
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 自立支援を基本に置き、全てに手を掛けるのではなく、一人暮らしや家族の介護力の低いケースに対しても助言を行うことで自身が自ら動くことが出来る状況を作っていた。必要に応じ民間の身元保障機関やインフォーマルサービスを利用し、介護保険のみに頼らず、地域とのつながりを重視した。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 困難ケースに対し、ケア会議への参加、行政、医療からの助言を受けるなど、積極的に他業種と連携をとり、解決に結び付けて行った。 2 本人、家族共、不安を持たずサービスが利用できるよう話を聞き、共に考え、専門職としての支援を行った。
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 平成30年度の改正より医療から介護サービスと切れ目なく受ける体制を整備すること、自立支援、重度化防止に資する質の高いサービスの実施などが求められていた。医療機関との連携を強化し、ケアマネとしての質の向上を目標とし業務にあたった。 2 家族がいないご利用者に対し、保険外の依頼を受けることが多くなっている。行政を始めインフォーマルサービスに繋げることで、本人の能力を活かし、かつ業務の効率を上げた。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> サービスありきのプランではなく、利用者が住み慣れた自宅で、自分らしく生きて行けるよう、住民とのつながりを作り以前の様に地域の中で生活が営めるよう支援を行っていく。特定事業所加算の設定を検討する。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護	鈴木 葉子
I	<b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 1 デイサービスの支援が必要な利用者の意欲と生活機能及び生活意欲の維持・向上をめざして、サービスの提供をした。 2 地域福祉の担い手として責任感を持ち、多様な資源との『繋がり』を大切に『謙虚な気持で』ご利用者及びご家族への支援を実践した。 3 利用者・ボランティア・職員が、それぞれに《目配り・気配り・心配り》を行うことによりさらに暖かくご利用者からも地域からも必要とされ安心して利用できるデイサービスを目指し、サービス提供に努めた。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 笑顔で迎え、笑顔で送るデイサービス。「来てよかった」「また来たい」と笑顔で過ごしていただけるデイサービス。ご利用者や家族が安心できるデイサービス。常に安全とサービスの質の向上を意識して日々の業務に取り組んだ。 1 制度に即した運営：利用者それぞれの生活にあった、選べるサービス、また個々に必要なケアプランに添ったサービスを提供し誰もが安心して生活が送れるよう関係法令を遵守し、計画的な事業を行った。 2 サービスの質の向上：プログラム制のレクリエーションを導入・継続することによりデイサービス利用時の目的・目標を持ち、出来る方には個人で活動の目標設定をした。ケアマネジャーや家族にも周知徹底し、個々の生活に楽しみや目標意識を職員と話し合ったりすることで確立した。また個々の情報をケアマネジャーに逐次報告し、関係サービス事業者間で共有出来るようにした。 3 情報発信：必要に応じご家族やケアマネジャーに文章や電話などで情報の提供を行った。特に身体的及び精神的に急を要すると判断した時は、速やかに家族のみならず医療等、関係機関とも情報共有に努めた。また、急変時の連絡体制も個別に対応方法を明文化し、適切に対処できるよう整備した。 4 地域社会及び関係各所との連携：地域包括支援センターや関係機関と連携し、特に問題ケースでは早めに対応しケース記録等の記載を徹底した。 5 個人情報の適切な管理：個人情報の有用性に配慮し、権利と安全の保護に努めた。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 一日平均延38人以上のご利用者数を確保(大規模事業所Ⅱ・定員40名)を目指したが目標達成には至らず、令和元年度は通常規模での運営となった。 2 介護サービス情報の公表の調査項目について全て実施した。
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 利用状況によりケアプラン通りの提供時間では本人に負担がかかると思われる場合にはケアマネジャーに相談し利用時間の検討をした。 2 法改正における利用料の変更等について混乱を招かないよう口頭・書面で説明をした。 3 職員間の連絡事項共有の為に必要な手順表の見直しについてはまだまだ達成したとは言えず、引き続き改善の必要がある。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 職員の適材適所への配置を考え組織の見直しをした。 2 常勤非常勤に関わらず年間1回以上の外部研修参加を試みるも達成には至らなかった。 3 マニュアル等の見直しについて再作成は出来なかった。 4 新規利用者について、ノーと言わずに積極的に受け入れた。 5 テラスの整備について、利用者が参加できる活動の導入は出来なかった。
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 スタッフ全員がご家族やケアマネからの問い合わせに関われるように、電話や対応についての実施研修をその都度、必要に応じミニ研修の形で行った。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> ベテラン職員の退職に伴い新規採用職員が増えた影響で、基本業務内容の確認が年間を通して必要となった。また送迎車両事故の分析から運転者によって送迎ルートが違うことも発生要因として推測された。利用者からも指摘を受けている部分であるため改善に努めたい。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護給食	鈴木 葉子
I	<b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 健やかな生活を支える基本となる食事を提供するために、季節感が楽しめる新鮮な野菜を多く使い、栄養バランスの良いメニューを工夫して、普段自宅では食べられない食事提供をした。又、嚥む力が衰えている方も安心して栄養が確保できることや、素材の味を生かした薄味の調理方法を取り入れた。 毎月発行の「献立表」で料理を紹介した。
II	<b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 1 選択食やお楽しみメニューを取り入れ、行事食などご利用者の満足度を高める献立づくりを心掛けた。 2 相談員、介護職、看護職と連携をとり、安全で美味しい食事の提供に努め、また個々の身体状態に合わせ、食材、形態など出来る限り対応した。常に代替えの提供が出来るよう食材の準備を怠らなかった。 3 間食のメニューの多様化、また量とカロリーへの配慮を徹底した。 4 一食20種類以上の食材を使用する努力をしたがメニューにより下回ることもあった。 5 スタッフ全員の技術向上と介護食の知識の習得に努める研修は出来なかった。 6 調理業務に必要な衛生管理、検査等を徹底することで食中毒や感染症の予防に努めた。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 誕生月に一品、メニューリクエスト制を継続する。年間1利用者につき1回実施した。 2 季節毎の行事食の提供。年12回実施した。 3 週に1回以上のお楽しみメニューを導入。季節感を意識して提供した。
IV	<b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 1 食材の廃棄をなくすため、使用材料の見直しをした。 2 食数に対しての食材量の計算を行い無駄のない食事作りを徹底した。 3 職員一人一人が担当を決め、食材の管理に責任を持った。
V	<b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 ご利用者の帰宅時に見守りに出て親しく話す中で、献立、味付けなどについて、直接の声を伺い調理に活かしていき、後日その成果を利用者に問いかけるなど嗜好満足度の上昇に努めた。 2 配膳時は食事量・塩分・糖分の調整や食欲のない方への配慮などご利用者一人ひとりへの心配りをし、食札以外の嗜好なども顔を見て食事の提供が出来るよう努めた。 3 毎月「給食会議」を行い、美味しく食べやすいメニューや調理方法について検討したが記録内容について改善点が認められた。 4 行事や季節食について、会議を通し介護職員からも積極的に意見を求めメニューの幅を広げていくため通所会議を共有の場として参加した。 5 誕生日のリクエストメニューの継続により、より細かい嗜好調査を行い記録した。 6 食札及び個別対応表を常に見直し、特にアレルギー食の誤配・誤食が起きないように努めた。
VI	<b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 1 間食や日用食材の購入についてインターネットなども利用し、提供できるものの幅を広げていく予定だったがお試し程度にしか活用できなかった。 2 メニュー表の作成をはじめとして必要書類を厨房で管理徹底が出来なかった。 3 通所介護の行事等に積極的に参加しご利用者とのコミュニケーションを図り、顔と名前わかる関係化を構築することが70%程度できた。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 急な職員の退職などが相次ぎ目標に至らないことが多かった。特に新たなメニューの開拓や取り組みに関してはほぼ手がつけられない状態だった。厨房職員の半数以上が12月以降の新規採用職員になってしまったが、今後も安全・安心を第一に利用者に満足度の高い食事提供が出来るようにしていきたい。また外部研修への参加も積極的に検討していきたい。

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業	岩並 仰
<b>I 事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b> 市営ひかりが丘住宅において居住される高齢者の生活相談、見守り、安否確認を行った。また、住民同士のつながりの場の提供、自助・互助の促進のためにお茶のみサロンを開催した。アウトリーチ活動として、新規入居世帯等への訪問を行い、問題の早期発見、早期解決を目指した。 相談者実数：146名 相談延件数：390件（内 来場：82件 安否確認時：35件 その他：273件） 相談内容内訳 病気：69件、介護：36件、経済面：25件、家事：35件、子育て：0件、家族関係：24件、制度関係：44件、防犯・被害：56件、近所関係：65件、住環境：48件 相談への対応（重複あり） 傾聴：298件、情報提供：108件、書類提出支援：13件、助言：156件、その他：50件、引継ぎ：88件 結果 解決：133件、不安軽減：71件、引継ぎ：68件、継続：151件、不満：1件 お茶のみサロン開設数：99回 サロン参加者実数：52名（内 男性11名 女性43名） サロン参加者延数：1490名（1回平均15.1名） 見守り事業登録世帯総数：141世帯（3月末時点での継続：136世帯） 見守り登録者の性別 男性：49名 女性：92名 転入世帯訪問 計95件 見守り事業勧奨訪問 計1472件	
<b>II 業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b> 1 相談援助：LSA事業も3年目となり、築いた信頼を失うことのないよう努めた。しかし、対応できる件数としてはこれが限界と考える。 2 登録数は一貫して増えている。孤立死は0件で良かった。 3 お茶のみサロン：安定して運営ができています。 4 アウトリーチ活動：他業務によって見守り勧奨等のための時間を割けなくなってきた。	
<b>III 事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b> 1 相談対応後の結果〈不満〉件数の目標が0件のところ1件だった 2 見守り登録世帯の総数100世帯以上を維持できた。 3 見守り登録世帯の孤立死件数0（ここでの“孤立死”の定義は、「死後4日以上経過して発見された事例」とする）。 4 お茶のみサロン参加者平均10名以上の維持ができた。 5 新規入居世帯への、6か月以内の訪問をすることができた。	
<b>IV 業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b> 特に変えたところはない。担当者も経験が蓄積し、業務に習熟してきた。	
<b>V 業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b> 1 メンタルケアについて、継続して学んでいる。依存症についてが大きなテーマだった。 2 相談室において、相談内容の秘匿性について安心できる環境づくりに配慮した。	
<b>VI 業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b> 相談内容に応じて、担当者の判断で、応急的に対応した事柄で主なもの：精神科受診同行支援、その他受診同行支援、本人と共にゴミの撤去、LSAが間に入って同居の家族に伝言、防犯用センサーライトの設置、携帯電話の購入・契約手続きの同行支援、消費者センター、本人家族との間で連絡調整、害虫駆除業者の調査に立ち会い、玄関ドアの補助錠の設置、保険会社の担当者との面談に立ち会い、応急的排泄介助、退院時手続きと送迎の支援、金融機関への同行支援、入院中のご家族のムンテラの立ち合い	
<b>VII 残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 相談対応結果で〈不満〉となった1件は、依存症の方への対応においてであった。支援機関につながることもふくめ、非常に難しく思っている。お茶のみサロンは常連参加者が固定し、イベントも開催したが、新しい参加者を呼び込むという意味においては効果的ではなかった。	

**平成30年度 自主事業報告書**  
**横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ**

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
合同歌声喫茶 2018	(目的) 歌好きの方々が集まって仲間作りや健康作り。また外出の機会を作ることで引きこもり予防。5月開所の二俣川地域ケアプラザも含めた区内全ケアプラザの周知。 (内容) 区内ケアプラザとボランティア団体・歌声喫茶オアシスと実行委員会形式で運営。	年1回 (5月29日) 449名 旭公会堂
ひかりが丘 介護者のつどい 銀倶楽部	(目的) 介護者の会、情報提供、虐待防止。場所はひかり商店街の喫茶カプカプ。 (内容) 介護者サロンとして、包括職員とサロン形式で雑談。親睦を深め虐待防止に繋げる事を継続している。	毎月第2金曜日 12回 52名
囲碁教室	(目的) 囲碁を通して高齢者・障害者等、地域の方の場所作りを目指している。 (内容) 外出することが苦手な高年男性や精神障害の方などを中心に年齢や障害のあるなしを問わず、囲碁を通して地域の方との交流の場所とした。ボランティアは福祉囲碁協会。	第1・3木曜日 第2・4水曜日 40回 480名
古典を学ぶ会	(目的) 高齢や障害で他の方と接する機会の少ない方が、日本の古典を読むことを通して、日常生活を捉えなおす機会を持ち、話し合う場として提供する。 (内容) 講師はご住職の方による、往生要集の購読など	毎月第4木曜日 9回 45名
にこにこ会	(目的) 精神障害の方の居場所作り。 (内容) 会員同士で年間の計画をたて、食事会や外出の機会を設けることで社会性向上や日常生活に寄与する。旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと【共に歩む市民の会】との共催。	毎月第4木曜日 12回 103名
子ども科学クラブ	(目的) 地域の小学生の3年～6年生までを対象に、様々な科学おもちゃ工作を通じて科学的興味を育てる。 (内容) 講師の科学博物館ボランティアの藤野氏に毎月違う工作を指導して頂く。地域のボランティアも2、3名協力。	毎月第3水曜日 11回 142名
ひかりの会	(目的) 脳血管障害による言語障害のための親睦サロン。 (内容) 月に一度仲間と親睦を深め、多少の言語リハビリも行うサロン活動。	毎月第4火曜日 13回 92名
癒しの音楽 研究会	(目的) 地域住民の閉じこもり防止、ストレス解消、心の安定を図る。 (内容) 癒し系の音楽(ヒーリング音楽、クラシック、オルゴール等)やリラックスできるような音楽を聴く、あるいは音楽をBGMにしてリラックスした状態で参加者がコミュニケーションをとる。癒しの雰囲気を基本に共同作業も検討。	毎月第2日曜日 10回 41名
上白根地区 民生委員懇談会	(目的) 地域の民生・児童委員とケアプラザ職員の情報交換・研修等実施による連携強化。 (内容) UR団地の民生・児童委員と地域交流、包括支援センター、居宅介護事業所のメンバーで情報交換・連携強化・研修等を行っている。旭区高齢障害支援課の地区担当が参加することもある。勉強会の内容によっては外部講師を招くこともある。	毎月第2金曜日 10回 139名

**平成30年度 自主事業報告書**  
**横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ**

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
施設連絡会	(目的) 地域の介護保険施設の相談員と定期的に情報交換を行い、地域課題の抽出・対応の検討などを行う。 (内容) 地域の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、高齢者グループホームの相談員等との情報交換や地域課題の抽出・対応の検討、ボランティア支援などを行った。	第3火曜日 4回 27名
支えあい連絡会	(目的) 地域施設連絡会、ひかりネット、SOSローカルネット、あんしんネットワークなどの活動を統括して地域の福祉につなげる。旭区と地域福祉保健計画推進についても、検討する機会。 (内容) 地域の状況にあったテーマ・時期に会議形式で行った。	5月、10月、 1月、2月、3月 5回 118名
健康吹き矢	(目的) 地域の高齢者や閉じこもりの男性等の外出のきっかけづくり、また吹き矢による腹式呼吸トレーニングと腹筋・口の周りの筋力強化による健康増進。 (内容) 呼吸法を意識しながら、ゲームを楽しんだ。	第1水曜日 第3月曜日 第4土曜日 34回 250名
みんなの庭	(目的) 園芸を通じた世代間交流。また、ボランティアとして参加して頂くことで、生き甲斐の一助となるような機会の提供。 (内容) ケアプラザの庭の一部を開放し、季節を感じられる花と緑を年に2～4回植え替え、随時手入れに参加していただく。募集は子どもから高齢者までの地域の方すべて。	5月21日 9月21日 11月16日 3回 78名
歌謡体操	(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。 (内容) カラオケ機械のライブDAMの歌謡体操を主に、歌いながら体を動かしていけるようにする。またライブDAMだけに捕らわれず楽しく続けられるようDVD(四季の歌)も取り入れ、参加者に自ら選択してメニューを組み立てていく自主性を育むきっかけとした。	第1・3月曜日 22回 345名
ひかりの輪	(目的) 輪投げのゲームを楽しむことで外出のきっかけ、世代間交流となることを目的とする。 (内容) 地域の方から寄付された輪投げの道具を利用し、グループ対抗の輪投げのゲームを行う。募集は子どもから高齢者までの地域の方すべて。	第1・3日曜日 10回 104名
ハマトレ体操	(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。 (内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。口腔体操等も取り入れる。	第2月曜日 第4日曜日 13回 209名
Let's介護予防	(目的) 介護予防及び認知症予防の体操や栄養改善・口腔ケア等の講座を通じて自身の健康管理及び介護予防に関する意識を高め、各種事業及び活動への参加につなげる。 (内容) ケアプラザによる自主事業及び登録団体による活動等の参加者に向けて、介護予防及び認知症予防の体操や栄養改善・口腔ケア等の講座を実施する。	不定期 79回 1283名

**平成30年度 自主事業報告書**  
**横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ**

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
健脚でGO！	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。立位では運動が難しい方を主な対象とする。</p> <p>(内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。椅子に座りながらでもできる、効果的な筋力トレーニングとストレッチを行う体操教室で、リハビリテーション体育士が指導。</p>	<p style="text-align: right;">第2土曜日 12回 194名</p>
旭北地区 民生委員 懇談会	<p>(目的) 団地外の旭北地区の民生委員(2名)との情報交換・課題検討等による連携強化。</p> <p>(内容) 当該地区の民生委員3名、旭区役所地区担当ケースワーカー・保健師、地域活動交流、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所ケアマネージャーのメンバーで実施。地域の現状や民生委員の活動についての悩みや課題の共有を行い、解決策や今後必要な活動等検討を行った。</p>	<p style="text-align: right;">9月12日 1回 13名</p>
楽しく健康！ 麻雀くらぶ	<p>(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。</p> <p>(内容) 麻雀を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。</p>	<p style="text-align: right;">第4金曜日 12回 149名</p>
社交ダンス 教室	<p>(目的) 社交ダンスを定期的に行う事で自宅から出て交流の場をもつ機会を増やし、介護予防を図る。</p> <p>(内容) やさしく、楽しく心と体をリフレッシュいただき、身体に負担を掛けず楽しく健康に社交ダンスを行うことで介護予防を図る。</p>	<p style="text-align: right;">第4金曜日 13回 209名</p>
食品衛生講習会	<p>(目的) 地域で食事ボランティア活動に従事されている方々を中心に、食事提供における食中毒予防のポイントを理解いただく。</p> <p>(内容) 日頃から高齢者食事サービス・サロンなどで食事提供のボランティアをされている方の活動において、食事による事故を予防するための食品衛生講習会を実施。</p>	<p style="text-align: right;">6月29日 1回 22名</p>
夏休み 子どもクラブ	<p>(目的) 小学生対象の居場所作りとして始めたが、現在は夏休み中のお楽しみイベント(クッキー教室、ダンス、工作・手芸教室など)で恒例となっている。</p> <p>(内容) 定期的で開催している子ども科学クラブに加え、クッキーなどの手作り教室を開催。</p>	<p style="text-align: right;">7月～8月 4回 39名</p>
第16回 ひかり福祉 フェスタ	<p>(目的) 地域の福祉・障害に関わる団体の連携を強める。恒例行事を行うことでケアプラザへの関心を高め、利用をしやすくする狙い。</p> <p>(内容) グループがバザーや催しを通じて地域との連携を深める。実行委員会(カブカブ他)と共催、包括では介護予防の啓発、地域交流では催しものや事前準備のためのボランティアをコーディネート(今年度は来場者のための記念品を作成するボランティアが事前にも活動を実施)。</p>	<p style="text-align: right;">10月2日 11月17日 11月18日 3回 396名</p>

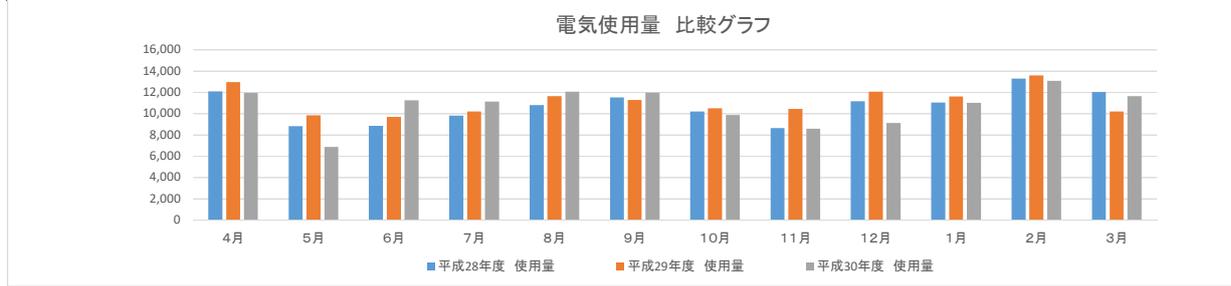
**平成30年度 自主事業報告書**  
**横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ**

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
旭北地区 振り込め詐欺 防止講座	(目的) 地域の高齢者が、振り込め詐欺などの被害に合わぬよう、事前に防止することを目的に講演会を実施する。 (内容) 包括職員が神奈川県警HPなどの振り込め詐欺に関する情報を整理し、一部クイズ形式にして、講義する。	6月12日 10月9日 2回 97名
シニア ボランティア ポイント講習会	(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。 (内容) ケアプラザを会場に、ケアプラザ職員が講師として講習会を実施。	7月31日 1回 9名
上白根旭区版 エンディング ノート活用講座	(目的) 地域の高齢者等が終末に向けた不安感を軽減し、より良い人生を送れるよう旭区版エンディングノート書き方講座を実施する。成年後見制度の普及も視野に入れ講義をする。 (内容) 旭区版エンディングノートを用い、項目ごとの意図を説明しながら、一部実際に鉛筆で下書きしてもらい、必要性を認識してもらい、併せて成年後見制度の講義をし理解を図る。	10月6日 11月3日 12月1日 3回 108名
大人の料理倶楽部	(目的) 地域のボランティア発掘及びケアプラザを身近な存在として感じてもらうことを目的として開催。 (内容) お料理を通じて参加者同士の交流を図りながら、これまでケアプラザに来館されたことが無い方にとって福祉保健活動に関わる契機とすることを狙いとして開催。	第1・2金曜日 21回 103名
旭ふれあい区民まつり行政・PRコーナー出展事業	(目的) 来場しているお客様に地域ケアプラザ及び地域福祉保健計画を知る機会を作る。 (内容) ①地福計画の推進 ・子どもの居場所、多世代交流、子育てサロンの3つにテーマを設定し、各ケアプラザ圏域の取組を1つずつパネルで紹介 ・パネル掲示した活動についてのご意見募集と啓発物配布 ②CP機能周知 ・子育て世代を中心とした多世代交流プログラムの実施(わなげ) ・関連ブース(旭区福祉保健課事業企画担当及び旭区内地域ケアプラザ、旭区地域子育て支援拠点「ひなたぼっこ」、主任児童委員連絡会)連携による、ワードラリー ・「ひなたぼっこ」ブースで、各ケアプラザで実施予定の子育て支援事業一覧の配布	10月21日 1回 450名
四季の森小学校4年生・視覚障がい者交流会/車椅子の扱い方講習会	(目的) 視覚障がい者と交流し、学ぶことで、視覚障がい者を知る。さらに、車椅子の扱い方を学び、障がいを持った方の接し方を学んだ。またケアプラザの紹介を行いケアプラザを知っていただく。 (内容) 視覚障がい者と交流し、その方の想いや生活についてお話を伺ったり、点字の実物を見る等、視覚障がい者について学び、また車椅子に実際に触れ、扱い方、気を付けなければならない事について話し合った。更にケアプラザの紹介を行い、ケアプラザを知っていただく。	11月14日 1回 39名

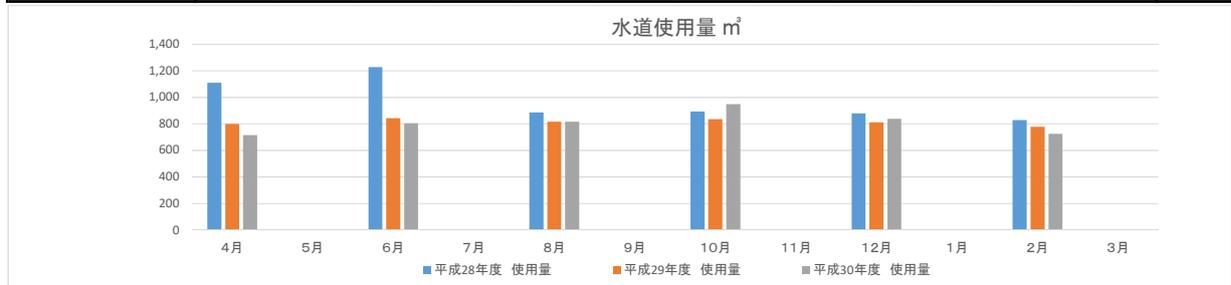
**平成30年度 自主事業報告書**  
**横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ**

事業名	目的・内容等	実施時期・回数・参加人数
2017四季の森 小学校4年生と 高齢者の交流会	<p>(目的) 小学生と高齢者が一緒に昔遊びをしたり、歌を歌ったり、おしゃべりを楽しみ、多世代交流を行った。高齢者・地域の方々・子ども達双方にケアプラザを知っていただき、交流の場とした。</p> <p>(内容) 四季の森小学校の4年生がケアプラザを訪問し、ケアプラザの機能を学んでいただいた。その後、1人暮らしの高齢者昼食会で歌を歌うなどの交流を行った。また、昔遊びで、地域の方々、高齢者の方々と交流を行った。</p>	<p>11月13日 11月21日 11月26日 3回 117名</p>
3B体操	<p>(目的) 赤ちゃんから高齢者まで世代に関係なく楽しくリズムミカルに体を動かす3B体操を実施し、世代間の垣根を排除することで、地域での助け合いの促進及び健康維持の両方の機会を増やしていく。</p> <p>(内容) ボール・ベル・ベルダー（道具）等を使い音楽と共に3B体操を行うことで、多様な世代が参加出来る体操内容としている。</p>	<p>5月21日 10月1日 2回 40名</p>
ちょこっと 終活★講座	<p>(目的) 成年後見制度や身元保証サービスの存在を地域に広め、高齢者の権利擁護の一助とする。成年後見制度や身元保証サービスが必要な高齢者が制度を速やかに利用できるよう、地域の方が制度をすぐ思い浮かべられるように周知する。</p> <p>(内容) 成年後見制度、身元保証サービスについて講義、質疑応答。</p>	<p>5月24日 1回 25名</p>
ちょこっと ミニミニ 認知症講座	<p>(目的) 地域の高齢者が、認知症について知識を深め、家族、親族、友人、近隣住民に発症した場合の対応方法を理解してもらうために開催。</p> <p>(内容) 認知症の症状や具体的な対応方法を資料を用いて学ぶ。</p>	<p>9月20日 1回 19名</p>
「無患子」 御守ストラップ プレゼント事業	<p>(目的) シニアボランティアポイント講習の受講者に対して、積極的なボランティア活動を促すための機会として開催。</p> <p>(内容) 「無患子」御守ストラップを製作し、ひかり福祉フェスタ開催時に地域の方々に配布する。地域の方々が身に付け喜ばれることを通して活動者としてのやりがいを感じてもらい、次の活動へつなげる。</p>	<p>8月28日 9月4日 2回 16名</p>
福祉フェスタ 健康チェック コーナー	<p>(目的) 主に地域の高齢者を対象に健康状態をチェックする機会を設け、健康に対する興味を持ってもらい、しいては介護予防の意識付けをする。</p> <p>(内容) 骨強度、ストレスチェック、血管年齢、血圧、身長、体重などを測定。希望者には健康、栄養、口腔の個別相談を行なう。健康講話、健康体操を実施する。</p>	<p>11月18日 1回 173名</p>
URハマトレ体操	<p>(目的) 健康体操を定期的に行う事で、転倒予防と交流の場をもつ機会を増やしていく。ケアプラザまで来るのが大変な方のために公団集会所に向き行う。</p> <p>(内容) 介護予防を主として講師も出席者も共に健康に介護予防を行えるよう開催。口腔体操等も取り入れる。</p>	<p>第4月曜日 12回 199回</p>

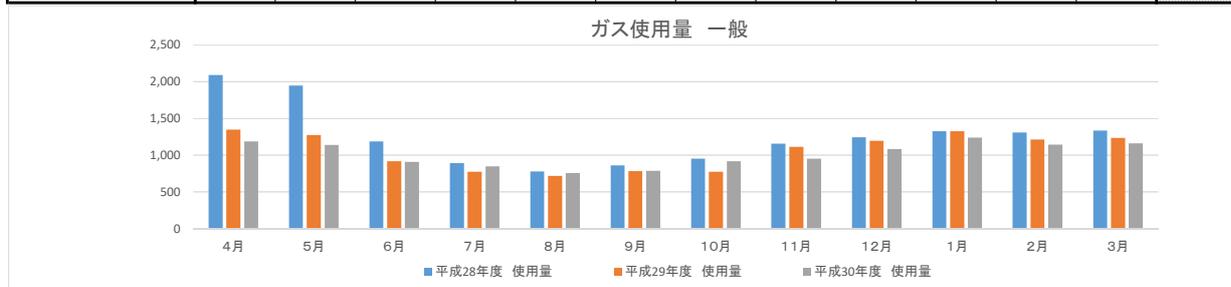
電気使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成28年度 使用量	12,115	8,825	8,862	9,815	10,799	11,519	10,211	8,655	11,166	11,061	13,283	12,028	128,339
平成29年度 使用量	12,973	9,860	9,699	10,218	11,649	11,300	10,498	10,455	12,063	11,604	13,607	10,221	134,147
平成30年度 使用量	11,948	6,880	11,251	11,129	12,063	11,984	9,900	8,580	9,115	11,040	13,081	11,634	128,605



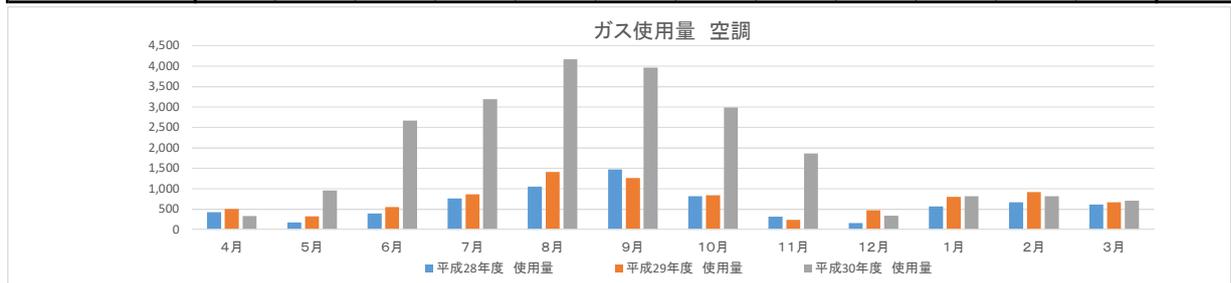
水道使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成28年度 使用量	1,111		1,228		887		893		879		829		5,827
平成29年度 使用量	799		843		817		836		813		778		4,886
平成30年度 使用量	715		805		817		948		838		727		4,850



ガス 一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成28年度 使用量	2,093	1,949	1,188	890	782	863	952	1,156	1,243	1,329	1,310	1,336	15,091
平成29年度 使用量	1,349	1,273	918	775	720	784	773	1,114	1,194	1,328	1,214	1,235	12,677
平成30年度 使用量	1,187	1,138	908	849	756	789	920	952	1,086	1,241	1,147	1,163	12,136



ガス 空調	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成28年度 使用量	422	174	398	762	1,049	1,472	817	321	166	568	669	616	7,434
平成29年度 使用量	506	327	557	861	1,412	1,262	838	242	470	803	922	670	8,870
平成30年度 使用量	331	961	2,665	3,190	4,173	3,967	2,987	1,864	347	816	818	710	22,829



## 平成30年度 地域ケアプラザ事業実績評価 評価シート「横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ」

<p>地域の現状と課題</p>	<p>当ケアプラザのエリアは、主に市営ひかりが丘住宅、UR西ひかりが丘団地の集合住宅地です。築50年を迎え住民同士のつながりは深いものの、市営ひかりが丘住宅には毎年約100世帯の新規入居と約80世帯の退去があり、新住民の中には自治会に参加せず地域で孤立している方も少なくない地域です。更に、要支援・要介護の高齢者、精神障がい、依存症、視覚、聴覚障がい、日本語が不自由な方、コミュニケーションが難しい方が入居され、家族不在か、いてもその家族にも支援が必要な方が多くおられます。支援に必要な精神系の医療機関が少ないため、地域包括支援センターは対応に苦慮しています。区役所生活支援課、高齢・障害支援課との強い連携が必要です。地域支援として、通所介護では地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・訪問看護・訪問医との連携によりターミナル及び医療依存度の高い方なども受け入れ、食事、入浴など生活の基本部分を支えています。見守りネットワークのモデル事業が終わっても地域の中で見守り合い・助け合いが続いているのは、以前から居住していた住民同士の人間関係によるところが大きいと思われます。団地開設以来からの住民の高齢化に伴い自治会活動の担い手も高齢化し、民生・児童委員も常に欠員が発生している状況です。支えあい・助け合いの気持ちは深いですが、それぞれ後継者のないことが大きな課題です。住民については収入が少なく有償の支援を受けにくい現状があり、ケアマネジャーや地域包括支援センター等の職員が家族に代る働きを務めざるを得ない場面が多くみられます。横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業（法人受託）もモデル事業から通算すると5年となり、訪問・電話による安否確認や週2回の相談室を開設してきました。日頃より行政各部門との連携を深め、個別地域ケア会議、包括レベル地域ケア会議などの形で話し合いの機会を継続して持ちたいと考えています。</p> <p>地域支援の取り組みとしては支えあい連絡会を中心に警察・自治会・民生・児童委員、医療機関・福祉施設・建物保全協会・地域に出入りする業者などを協力機関として連携を保ちつつ、安否確認や支援が必要なケースへの対応がしやすくなるよう備えています。これに関し鍵・駐車場・後見制度の問題などはより柔軟な対応が必要と考えます（入居時に身寄りのない方の鍵を大家さんか警察が預かる・やむをえず壊すこともあると伝える、街区に1・2台分の福祉・介護用フリー駐車スペースを設置する、安価な成年後見人を用意する、ゴミ出しの特例等）。</p>
<p>今年度の重点目標</p>	<p>増加する支援困難者に対して自治会・民生・児童委員・クリニック・地域の事業所等と連携して対応していくとともに、地域だけでは解決できない課題に対して行政との連携を深め、関連部署の方々と話し合いながら新たなシステムを構築する機会を持ちたいと考えています。特に日常生活の見守りを軸にした生きることそのものの支援体制の構築を検討していきたいと考えています。</p> <p>平成31年1月より支えあい連絡会（コア会議）で西ひかりが丘団地における地域医療福祉拠点化に関する話し合いが始まります。特に商店街空き店舗の活用方法について、個別支援及び地域支援の可能性を広げることができるようしっかりと関わっていきます。</p> <p>平成31年3月より開設する四季の森小学校放課後キッズクラブ（法人受託）の運営を通して、子どもたちを取り巻く環境や課題の把握を行うことでより良い地域支援を行うことにつなげると共に、ケアプラザが行うボランティアの育成及びコーディネート場の場としての活用も図ります。</p>

	今年度 実施計画・役割分担 (事業計画)	今年度 地域ケアプラザ自己評価（振り返り） (事業報告)	今年度の区評価	備考
<p>1 全事業共通</p>				
	<p>(1) 総合相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）</p> <p>前年度評価【○】</p> <p>○高齢者・障がい・子ども等幅広い分野の相談について、相談者に必要な情報提供を行い、必要に応じ関係機関に適切につながります。</p> <p>○地域の特徴やニーズを把握し、相談や情報提供の手法に反映させます。</p> <p>○窓口だけでなく、自主事業・会議等さまざまな場面を活用し、相談対応・情報提供をします。チラシ、広報紙、ホームページ等で地域に役立つ情報を周知します。</p> <p>○職員は必要な制度施策・社会資源等の情報を把握して、適切な支援につなげられるよう対応します。</p> <p>○相談事例に対しカンファレンスなどを行い、多角的に課題対応します。</p>	<p>今年度評価【○】</p> <p>○高齢者・障がい・子ども等幅広い分野の相談について、相談者に必要な情報提供を行い、必要に応じ関係機関に適切につながりました。</p> <p>○地域の特徴やニーズを把握し、相談や情報提供の手法に反映させながら相談に対応しました。</p> <p>○窓口だけでなく、自主事業・会議等さまざまな場面を活用し、相談対応・情報提供をしました。チラシ、広報紙、ホームページ等で地域に役立つ情報の周知に努めました。</p> <p>○職員は必要な制度施策・社会資源等の情報を把握して、適切な支援につなげられるよう対応しました。</p> <p>○相談事例に対しカンファレンスなどを積極的にを行い、多角的な課題対応に努めました。</p>	<p>今年度評価【○】</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
	<p>(2) 各事業の連携</p> <p>前年度評価【○】</p> <p>○地域包括支援センターの3職種の専門性、地域活動交流コーディネーターの地域とつなぐ力、地域の生活者の視点、生活支援コーディネーターの地域を活性化させる力を取り入れた支援をします。</p> <p>○地域包括支援センターが把握した課題（ひとり暮らし高齢者の支援等）をコーディネーターも含めた地域支援関係者等に伝え、地域でできる支援体制や啓発事業などへとつなげます。</p> <p>○地域包括支援センター、地域活動交流部門、生活支援体制整備部門で連携し、個別の課題に対応し、ケアプラザ内で共有します。</p> <p>○地域の特徴に合わせた取組（新規・拡充、自主事業）をします。</p>	<p>今年度評価【◎】</p> <p>○地域包括支援センターの3職種の専門性、地域活動交流コーディネーターの地域とつなぐ力、地域の生活者の視点、生活支援コーディネーターの地域を活性化させる力を取り入れながら支援・事業等を行いました。</p> <p>○地域包括支援センターが把握した課題（ひとり暮らし高齢者の支援等）をコーディネーターも含めた地域支援関係者等に伝え、地域でできる支援体制や啓発事業などへと展開しています。</p> <p>○地域包括支援センター、地域活動交流部門、生活支援体制整備部門で連携し、個別の課題に対応し、ケアプラザ内で共有しています。</p> <p>○地域の特徴に合わせた取組（新規・拡充、自主事業）を行いました。新たに生活支援課・区社協・地区社協と協働で「食支援事業（企業から提供を受けた冷凍弁当のフードストック）」に取り組みました。</p>	<p>今年度評価【○】</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

<p>(3)職員体制・育成、公正・中立性の確保</p> <p>前年度評価〔〇〕</p> <p>〇所長を含む常勤職員の適切な配置を行います（※欠員が発生しないように）。</p> <p>〇職員の資質向上、人材育成を目的とした研修を実施するとともに、外部研修や実習参加を促し、研修報告の提出、伝達研修等を行います。</p> <p>〇日々の活動から得た知見を元に、法人内研究発表会や社会福祉学会、看護学会等の研究発表会への参加を促します。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>〇常勤職員の欠員はなく、適切な配置で運営することができました。</p> <p>〇内部研修、及び介部研修に積極的に参加いたしました。外部研修受講後は部門内で伝達研修を行いました。</p> <p>〇日々の活動から得た知見を元に、安心づくり安全探しアプローチ（AAA）研究会主催の高齢者虐待防止研修の企画・運営に社会福祉士職が参加しました。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(4)地域福祉保健のネットワークの構築</p> <p>前年度評価〔〇〕</p> <p>〇地域の関連団体や関係機関とのネットワークを強化するため、情報交換や定期的な会議をもちます。</p> <p>〇民児協、地区社協、連合町内会、教育関係機関、区福祉保健センター、区社会福祉協議会その他福祉保健団体で、地域課題の情報共有とともに地域福祉保健計画を推進する取組の支援をします。</p> <p>〇子育て支援拠点（しゃべり場、子育て相談）、地域生活支援拠点ほっとぽっと（にこにこ会）、NPO法人カプカブ（生活介護事業所）等との連携を維持します。</p> <p>〇支えあいネットワークの特徴的な取組を継続します。</p> <p>〇SOSローカルネットワークなどエリア内で他機関と連携し、見守りのネットワークを維持・強化していきます。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>〇支えあい連絡会は定期的開催（年3回予定：計2回実施）できています。今年度はテーマに応じて重点的に検討するコア会議を支えあい連絡会と併せて実施しました。</p> <p>〇民児協、地区社協、連合町内会、教育関係機関、区福祉保健センター、区社会福祉協議会その他福祉保健団体で、地域課題の情報共有とともに地域福祉保健計画を推進する取組の支援を地域福祉保健計画事務局の活動を通して行いました。</p> <p>〇第11回旭区地域生活支援フォーラムについては、地域共生社会の実現に向けての課題共有とつながりを作ることの大切さを伝えることを目的として事例発表（上白根地区：高齢者の買い物支援）を地区社協・生活介護事業所と協働で行いました。</p> <p>〇子育て支援拠点・ほっとぽっと・生活介護事業所の事業が円滑に行われるよう、ケアプラザの環境整備の取組を続け、活動や連携の維持ができました。</p> <p>〇今年度第16回となる“ひかり福祉フェスタ”を行い、連携の継続性を確保しています。今年度も6回目となる健康チェックコーナーを開催、保健活動推進員・旭区在宅歯科連携室・企業に加え近隣の高齢福祉関係施設から5施設、職員8名が運営に協力、大勢の地域の方が健康増進を目的とした企画に参加しています（健康講話49名、健康体操39名、骨強度・ストレスチェック測定53名参加）。</p> <p>また、福祉フェスタの開催前イベントに地域の高校生（着ぐるみで来場者のお出迎え）や和太鼓演奏のボランティアをコーディネートすることが出来ました。</p> <p>〇SOSローカルネットワークなどエリア内で他機関と連携し、見守りのネットワークを維持・強化に努めました（平成30年度12月末現在、37店舗・機関を訪問）。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(5)区行政との協働</p> <p>前年度評価〔〇〕</p> <p>〇地域ケアプラザの役割を理解し、区と協働して取り組みます。</p> <p>（1）地域福祉保健計画 （2）運営方針 （3）区事業等 （4）区包括的・継続的ケアマネジメント支援計画 （5）障害者など社会的弱者への支援</p> <p>〇支援チーム会議への参加 〇運営協議会の開催 〇自主事業やサロンの開催 〇高齢・障害支援課、生活支援課との連絡会を行います。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>〇地域福祉保健計画事務局に所長が参加し、研修及びリーダー連絡会等の運営に関わりました。地域活動交流・生活支援コーディネーターは研修に参加し計画の推進を図りました。また旭区民まつりにおいて地域福祉保健計画のPRを行いました。</p> <p>〇運営協議会の開催（2回開催済/3回開催予定） 〇支えあい連絡会の開催（2回開催済/3回開催予定） 〇自主事業及びサロンを継続開催しましたが、うち2事業については自主化に移行（10月）することができました。</p> <p>〇旭区精神保健福祉セミナー実行委員会への地域交流コーディネーターの参加を通し、地域における精神障害の理解を図り偏見や差別をなくすための支援を行いました。</p> <p>〇高齢・障害支援課、生活支援課との連絡会を実施しました。</p> <p>〇横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業（法人が受託）の推進にあたり、ケアプラザ内における連絡会を開催し各部門との連携を深めました。</p>	<p>今年度評価〔〇〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業	今年度評価 [◎]	今年度評価 [◎]	
<p>前年度評価 [◎]</p> <p>○自主事業を通じ、参加者の実情に合わせて福祉保健活動の開発・実施や新たな地域福祉のための取組を行います。運営状況を確認しながら自主化に向けたサポートも同時に行います。</p> <p>○近隣小学校等にアプローチし、高齢者等との交流を行います。また、利用の少ない青少年等にもケアプラザをご利用いただけるよう働きかけを行います。</p> <p>○地域の集会所などを利用して、講演会、サロン、体力向上プログラム、出前講座などを開催します。</p> <p>○他団体の共催なども視野に入れ、自主事業を充実させていきます。</p>	<p>○にこにこ会（精神障がい者サロン）については参加者が固定及び減少してきているため、他のケアプラザと合同で新たな取組（大池公園にてボランティア交流も兼ねたバーベキュープログラム：10月）を取り入れながら継続実施しました。</p> <p>○四季の森小学校についてはみんなの庭（園芸）や昼食会及び交流会を通して地域の高齢者との交流を行いました。また、福祉教育（視覚障害及び車椅子操作等）の機会も設けました。これらの内容については四季の森小フェスティバル（12月開催）において児童が保護者や地域住民の前で発表を行いました。</p> <p>○上白根中学校については昼食会でのブラスバンド演奏（10月）を通して交流を行いました。</p> <p>○旭陵高校については地域貢献デー（9月）の実施の際に第16回ひかり福祉フェスタ（11月開催：参加者350名への協力を仰ぎ、当日ボランティアとしての参加を通して地域との交流を行いました。</p> <p>○西ひかりが丘団地からひかりが丘地域ケアプラザまで来ることが困難な方が多くいる状況を考慮して、西ひかりが丘団地内の集会場にて保健活動推進員主催によるハマトレ体操（月1回）に昨年より継続してサポートを行いました。</p> <p>○自主事業として実施していた『ひかりの輪（自主化に伴い「輪なげの集い」に地域住民が名称変更）』と『ハマトレ体操』を10月より自主化に移行することが出来ました。</p>	<p>にこにこ会（精神障がい者サロン）の運営にあたっては、他のケアプラザとの合同企画の実施にとどまらず、連絡会を立ち上げて課題の共有や今後の内容について検討するなど、当事者がより積極的に参加でき、交流や社会参加が進むよう創意工夫するなど、連携して運営を行っています。</p> <p>これまで自主事業として実施していた「ひかりの輪」、「ハマトレ体操」を、参加者の意欲が高まった機を逃さず、適時の働きかけ・サポートによって自主化へと繋げることができました。今後も住民主体で継続して活動できるよう、必要に応じた支援を行っていただきます。</p>	
<p>(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供</p> <p>前年度評価 [○]</p> <p>○福祉保健活動団体や地域団体に気持ちよく利用していただくために窓口での気軽なコミュニケーションに努め、相談や要望などが言いやすい環境を整えます。</p> <p>○毎週最新の空き室情報の掲示・ホームページの更新をします。メール、電話でのお問い合わせにも気持ちよく応じます。</p> <p>○各登録団体が利用しやすくなるよう、申込受付の案内・掃除道具や調理器具の見直しを行います。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○特にサブコーディネーターの就業期間が長いため各団体と顔なじみの関係が構築できており、窓口での気軽なコミュニケーションや相談・要望が言いやすい環境を整えました。</p> <p>○利用率向上のため空き室情報を掲示板・ホームページでインフォメーションをしたり、利用時の報告書に申し込み受付開始の日時の案内を添付し、申し込みしやすいよう工夫しました。メール、電話でのお問い合わせにも気持ちよく応じました。</p> <p>○各登録団体が利用しやすくなるよう、申込受付の案内・掃除道具や調理器具の見直しを行いました。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(3) ボランティアの育成及びコーディネート</p> <p>前年度評価 [○]</p> <p>○ボランティア育成のための取組を継続します。</p> <p>○継続してボランティア登録及びコーディネートを行います。</p> <p>○区社協ボランティアセンターとの連携を取ります。</p> <p>○交流会を開きボランティア同士のネットワーク化を図ります。</p> <p>○名簿の整備を継続します。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○新たな担い手を育成するためシニアボランティアポイント講習会（7月）を生活支援コーディネーターと共催で行いました。講習会のなかで区社協ボランティアセンター等関係機関の説明を行いました。</p> <p>○ボランティア交流会は3月に開催予定です。</p> <p>○地域の学校に対してはイベント（福祉フェスタ・地域貢献デー）を通しボランティア活動の啓発や実施を行いました。</p> <p>○団体登録簿等の整備を継続しました。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供</p> <p>前年度評価 [○]</p> <p>○地域における福祉保健活動団体や人材等の社会資源（地区社協・連合町内会・地区民児協・地域のサロンや昼食会等）を把握し、情報提供します。</p> <p>○区、区社協からの情報提供を受けて積極的に整理・活用します。</p> <p>○会議・利用団体等との情報交換から把握したニーズの取りまとめをします。</p> <p>○会場利用団体の活動を紹介し、交流会を開催します。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○窓口では地域で活動している方々との情報交換を行い、地域状況の把握を心掛けています。適宜情報提供を行い、住民が希望する事業の参加へと繋がっています。</p> <p>○掲示板のニュースなどを毎日更新、貸室情報を毎週更新、情報誌、事業紹介を毎月発行・更新、ホームページの更新及びその他自主事業の案内など随時行っています。</p> <p>○ホームページをセキュアのものにするため一部パスワードを設け、安心して使えるような工夫をしました。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

	<p>○掲示板のニュースなどを毎日更新、貸室情報を毎週更新、情報紙、事業紹介を毎月発行・更新、ホームページの更新及びその他自主事業の案内など随時行います。</p>			
<p>3 生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター・協議体の設置等を通じた生活支援・介護予防の充実）</p>				
(1) 事業実施体制	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○生活支援体制整備事業に向けて、各地域の現在あるニーズに対し、地域住民の持てる力を最大限発揮できるよう支援を行い、信頼関係を構築する事で圏域での課題の支援に着目し、支え合い協力し合える体制づくりを行います。</p> <p>○個別課題への取組状況をケアプラザ内で共有し、地域支援につなげるために地域包括支援センター、地域活動交流部門等をはじめとして、ケアプラザ全体で連携します。</p> <p>○生活支援のために様々な活動を行う団体が、より活発な活動が行えるよう必要な情報提供及び後方支援を行います。</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p> <p>○地域住民が持てる力を最大限発揮するためのツールとして自主事業として実施していた「ハマトレ体操」を、自主化へと移行（10月）することができました。またシニアボランティアポイント講習会を実施（7月）し、新たな担い手の養成に努めました。</p> <p>○地域主催の様々な活動に参加し、ニーズ抽出と信頼関係の強化を図りました。</p> <p>○7職種（所長＋5職種＋L S A）会議の中で個別課題の情報共有を行い、現在地域に必要な資源の検討を行いました。具体的な取組として、生活支援課・区社協・地区社協と協働で「食支援事業（企業から提供を受けた冷凍弁当のフードストック）」の計画につなげました。</p> <p>○広報誌に活動内容の掲載を行う事で、地域の方々に対して様々な活動の必要性を周知し、活動への参加を促しました。また活動自体の後方支援も行いました。</p>	<p>今年度評価〔 ◎ 〕</p> <p>地域ケアプラザ通信で地域の活動の魅力や活動状況をわかりやすく紹介しました。</p> <p>所長・他職種との情報共有を密に行い、地域に必要な資源の検討を進めました。</p>	
(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○今まで収集した情報と共に、アンケート調査や聞き取り等を更に進め、生活支援ニーズの状況や資源収集を行います。</p> <p>○関連機関の会議等で社会資源の情報を共有し、生活支援ニーズの状況やそれに対する資源の状況の情報更新を行います。</p> <p>○上記ニーズの情報把握・整理を行い、他職種や他機関連携で更なる情報収集を行うと共に情報共有を行います。</p> <p>○ニーズ把握に伴い地域毎の課題分析を可視化し、地域支援への取組に繋がります。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○地域での様々な活動に参加する中、地域の方々から生活課題の聞き取りを行い、今ある資源とのマッチングに努めました。不足する資源に関してはサロンなどに出向き担い手の方々に必要性について働きかけを行いました。</p> <p>○民生委員懇談会（毎月）へ参加し地域課題や生活支援ニーズの把握に努めました。</p> <p>○サービスデータを適宜更新し、他職種及び他機関との情報共有を行いました。</p> <p>○地域の方々とのコミュニケーションを取る中で、地域ごとの課題を抽出し、アセスメント資料の作成を行いました。</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
(3) 連携・協議の場	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○アンケート調査時やニーズ把握に対し、他職種連携による検討を行います。</p> <p>○課題に相違のある各自治会町内会毎にニーズ抽出を行い、課題把握を行います。</p> <p>○地区特性に添った働きかけを行い、必要に応じた協議の場を設けます。</p> <p>○様々な連携や協議の場で生活支援体制整備事業の意義や必要性が地域に受け入れられるよう、積極的にコーディネートを行います。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○各種会議懇談会などに参加し他職種と課題共有に取組みました。</p> <p>○各自治会での活動に参加し地域住民よりニーズの抽出を行いアセスメントの作成を行いました。</p> <p>○自治会の世帯構成に合った企画の提案を行いました。</p> <p>○ケアプラザ内外にて様々な地域活動に参加し、担い手の方々とのコミュニケーションを通して目指すべき地域像の共有を図りました。</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○生活支援に向けた取組として第1層生活支援コーディネーターや他職種と連携し、対象機関や人々への働きかけや資源開発に取り組みます。</p> <p>○支え合い連絡会を通じた支援チームとの取り組みにより、地域福祉保健計画にある課題に対応します。</p> <p>○区社協及び区内ケアプラザと連携し、スケールメリットを生かした支援体制や研修体制などを推進し、必要に応じた情報や研修機会の提供を行います。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○予防マネジメント研修内にて区内介護支援専門員と地域資源に関する活用方法などのプランニングを通して働きかけました。</p> <p>○西ひかりが丘団地におけるモデル事業については地域支援活動の維持・拡大及び介護人材の定着支援を目的として事業者及び地域間との調整を行いました。</p> <p>○旭陵高校については区社協・上白根地域ケアプラザと共催でボランティアプロジェクトを立ち上げました。</p> <p>○四季の森小学校については地域活動交流部門と協働で地域活動に参加する事で交流の機会を作りました。</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

	<p>○土と愛保育所第2については「お散歩がてら、保育園に行ってみよう」企画を行い地域の方々と子どもたちとの交流の機会を作りました。</p> <p>○大池公園こどもログハウスについては地域内でのボランティア募集を通して高齢者と子どもたちとの交流の機会を作りました。</p> <p>○区内生活支援コーディネーター連絡会内における3つの連絡会により、区内での活動団体「サロン」「食事」「ボランティア」の担い手に対して研修・見学・マッチングを各2回開催しました。</p>		
--	--	--	--

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築	今年度評価 [○]	今年度評価 [ ◎ ]	
<p>前年度評価 [◎]</p> <p>○地域包括ケアシステム構築のため、これまでに培った地域の介護サービス事業者・医療機関、高齢・障害福祉関係機関、自治会、民生委員、行政機関等とのネットワークを、地域活動交流コーディネーターや生活支援コーディネーターとも協働し、維持・強化していきます。</p> <p>○関係者一同の迅速な対応と緊密な連携が可能となるよう、地域に共通する課題を共有できるよう努めます。</p>	<p>○地域包括ケアシステム構築のため、これまでに培った地域の介護サービス事業者・医療機関、高齢・障害福祉関係機関、自治会、民生委員、行政機関、教育機関等とのネットワークについて、地域活動交流コーディネーターや生活支援コーディネーターとも協働し、維持・強化に努めました。</p> <p>○関係者一同の迅速な対応と緊密な連携が可能となるよう、地域ケア会議、定例カンファレンス等を通して、地域に共通する課題を共有できるよう努めています。結果として今まで以上に緊密な連携が可能となっています。</p>	<p>相談数も増加する中、複合的な課題のあるケースの定例カンファレンスも新たに取り組みされ、全体を通して様々な取り組みをする中で関係機関とのネットワークの構築がなされています。</p>	
<p>② 実態把握</p> <p>前年度評価 [○]</p> <p>○民生委員・児童委員、自治会、老人会、各種事業参加者等からこまめに情報を集め、実態を把握し地域アセスメントを実施します。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等を把握します。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○民生委員・児童委員、自治会、老人会、各種事業参加者等からこまめに情報を集め、実態を把握し地域アセスメントを実施しています。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集、統計による情報整理などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等の把握に努めました。</p>	<p>今年度評価 [ ○ ]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>③ 総合相談支援</p> <p>前年度評価 [○]</p> <p>○地域アセスメントを行い、実態を把握しながら支援を行います。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等を把握します。</p> <p>○年間相談件数は、訪問相談 約 300 件、来所・電話相談 約 1,200 件を見込んでいます。</p> <p>○高齢者、障がい者ほかに関する相談を受け、相談内容を的確に把握します。</p> <p>○相談内容に応じて適切な情報を提供し、関係機関や制度、事業等につなぎます。</p> <p>○相談者に対し、必要に応じて継続的に支援していきます。</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○地域アセスメントを行い、実態を把握しながら支援を行いました。</p> <p>○相談や関係機関からの情報収集などにより、高齢者の個別ニーズや圏域のニーズ、インフォーマルサービス等の把握に努めました。</p> <p>○年間相談件数は、12月末時点で、訪問相談 211 件、来所・電話相談 995 件です。昨年より全体で 140 件ほど多いペースで推移しています。支援困難な事例（精神・認知症関係、身元保証人不在、がん末期等）が続いています。</p> <p>○高齢者、障がい者ほかに関する相談を受け、相談内容を的確に把握に努めました。</p> <p>○相談内容に応じて適切な情報を提供し、関係機関や制度、事業等につなぎました。</p> <p>○相談者に対し、必要に応じて継続的に支援しています。</p>	<p>今年度評価 [ ○ ]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止	今年度評価 [○]	今年度評価 [ ○ ]	
<p>前年度評価 [○]</p> <p>○成年後見制度をはじめ、権利擁護事業や消費者保護など関連する法制度を理解し、区、区社協、関係団体等と連携し支援を行います。</p> <p>○成年後見制度等の普及啓発に取り組みます。</p> <p>○成年後見制度における親族申立支援にあたり、手続きなどに関して適切にアドバイスをします。</p> <p>○地域の昼食会、民生委員懇談会等で、地域の方々へ旭安全安心かわら版、見守り新鮮情報等の情報提供をし、被害を予防するよう働きかけ、個別の消費者被害の解決支援も行います。</p> <p>○振り込め詐欺や消費者被害等を防止すべく広報</p>	<p>今年度評価 [○]</p> <p>○成年後見制度をはじめ、権利擁護事業や消費者保護など関連する法制度を理解し、区、区社協、関係団体等と連携し支援を行っています。</p> <p>○成年後見制度等の普及啓発に取り組みました（4 包括共催のエンディングノート書き方講座を通して講演会を1回実施、38名参加）。また、担当エリア内で開催されているサロンにて終活講座として成年後見講座を実施、25名参加）。</p> <p>○成年後見制度における親族申立支援にあたり、手続きなどに関して適切にアドバイスをしています。</p> <p>○地域の昼食会、民生委員懇談会等で、地域の方々へ旭安全安心かわら版、見守り新鮮情報等の情報提供をし、被害を予防するよう働きかけ、個別の消費者被害の解決支援も行いました。</p>	<p>今年度評価 [ ○ ]</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

活動等の取組を行います。	○振り込め詐欺や消費者被害等を防止すべく広報活動等の取組を行いました（3回、計117名参加）。		
② 高齢者虐待への対応	今年度評価〔○〕	今年度評価〔 ○ 〕	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○虐待事例に対し、区と情報や支援の方向性を共有し、区との役割分担に基づき対応し、適切な支援を行います。</p> <p>○大学などの研究機関と連携し、情報交換しながら、高齢者虐待に対するより効果的なアプローチ方法の実践に努めます。また、虐待カンファレンスシート等の開発に積極的に協力します。</p> <p>○介護者支援に積極的に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分離後の本人や家族に対し必要に応じ定期訪問するなど継続的にフォローします。</li> <li>・介護者のつどいを概ね毎月開催し、介護者が孤立しないよう参加を促し、ストレスケアと虐待防止に取り組みます。</li> </ul>	<p>○虐待事例に対し、区と情報や支援の方向性を共有し、区との役割分担に基づき対応し、適切な支援を行いました。</p> <p>○大学などの研究機関と連携し、情報交換しながら、高齢者虐待に対するより効果的なアプローチ方法の実践に努めました。また、虐待カンファレンスシート等の開発に積極的に協力しました。</p> <p>○介護者支援に積極的に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分離後の本人や家族に対し必要に応じ関係機関と情報交換するなど継続的にフォローに努めました。</li> <li>・介護者のつどいを概ね毎月開催し、介護者が孤立しないよう参加を促し、ストレスケアと虐待防止に取り組みました。</li> </ul>	横浜市基準を満たしています。	
③ 認知症	今年度評価〔◎〕	今年度評価〔 ○ 〕	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○認知症の正しい理解の促進のため、普及啓発等の取組をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋利用団体等に対し、必要に応じて認知症講座、地域向けの講座等を開催します。</li> </ul> <p>○アルツハイマーデーに認知症について正しい理解を求める普及啓発に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK 厚生文化事業団よりご提供頂いた DVD『優しい認知症ケア・ユマニチュード』の上映会を実施します。</li> </ul> <p>○SOSローカルネットワーク（徘徊高齢者検索ネットワーク）の活用で認知症の人と家族が安心して暮らせるように努め、協力機関、店舗との連携を維持し協力機関・店舗を増やしていきます。</p>	<p>○認知症の正しい理解の促進のため、普及啓発等に取り組みました。また部屋利用団体等に対し、必要に応じて認知症講座、地域向けの講座等を開催しました。</p> <p>○アルツハイマーデーに認知症について正しい理解を求める普及啓発に努めました。</p> <p>○アルツハイマーデー月間に合わせ、①認知症についてのミニ講座（1回19名参加）②『優しい認知症ケア・ユマニチュード』上映会（あさがお協力隊、旭区ひまわりの会、ボランティア向け）（参加者18名）③「旅のこぼれカード」（認知症とともによく生きるためのヒント）の展示を行いました。</p> <p>○NHK 厚生文化事業団よりご恵贈頂きました『ユマニチュード』のDVDについては、区内包括職員等向けにも試写会を実施し、計27名参加。白根ゆり薬局オレンジカフェでも上映予定です。</p> <p>○SOSローカルネットワーク（徘徊高齢者検索ネットワーク）の活用で認知症の人と家族が安心して暮らせるように努め、協力機関、店舗との連携の維持に努めました（平成30年度12月末現在37店舗・機関を訪問）。</p>	横浜市基準を満たしています。	
(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務			
① 地域住民、関係機関等との連携推進支援	今年度評価〔○〕	今年度評価〔 ○ 〕	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○地域の民生委員やボランティア団体等とケアマネジャーのネットワーク・支援体制の構築ができるよう、定期的に連絡会を実施します。</p> <p>○地域住民が必要とする情報を提供できるよう生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービス等の情報収集・整理を行い、把握しやすい形態の資料作成と更新に努めます。</p> <p>○『あんしんネットワーク』を継続できるよう、地域住民・LSAとの見守り体制の維持を図ります。また地域の特色を関係事業者へ伝え、ネットワークの維持強化と新たな協力機関の開発に努めます。</p> <p>○地域ケア会議について、地域特性に合わせ柔軟に運営を行います。介護サービス事業者にも周知を図ることで、地域課題が寄せられる体制作りを図ります。各会合が有機的に連携するよう機能を意識して活用します。</p> <p>○『あんしんネットワーク』での見守りについてはLSAとも協力し、ささえあい連絡会</p>	<p>○団地・戸建てエリア別に民生委員との連絡会を開催しケアマネジャーも参加しました（9回済）。各自治会の活動内容を教わったり、「認知症状のある方が増えてきた」「サロンに男性参加者が少ない」等、その時々地域情報を共有し課題を抽出する機会となりました。</p> <p>○生活支援コーディネーターと協力しインフォーマルサービス等の情報収集・整理を行い、随時住民やケアマネジャーに提供しました。</p> <p>○初の試みとして上白根・今宿西の3包括合同で地域ケア会議（昨年度の報告会と課題検討）を実施し、ケアマネジャー・介護サービス事業所から地域課題が寄せられる仕組み作りを試行しました。民生委員連絡会でも「地域課題の発見」を意識し会を運営しました。</p> <p>○LSAと協力し『あんしんネットワーク』の維持に努めました。（安否確認16件、死後発見2件）問い合わせは「新聞が溜まっている」「知人が電話しても出ない」などの契機で行われていることが多く、地域住民の見守りの細やかさを示していると思われました。</p>	横浜市基準を満たしています。	

<p>等での場の提供・広報・情報提供等に関わります。また、安否確認に対する迅速な対応を行うとともに、関係各機関の協力が得られるようPRを実施します。</p>			
<p>② 医療・介護の連携推進支援</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p>	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○ケアマネジャーと地域の医療機関等との「連携できる関係作り」の為に勉強会等を実施します。精神科医、薬剤師に講師を依頼し、講義をしていただく予定です。</p> <p>○エリア内の医療機関（在宅療養支援診療所、医療ソーシャルワーカー、薬局等）を訪問し、顔の見える関係作りに努めます。また、地域ケア会議についての報告・周知も行います。</p> <p>○地域の「医療・介護の社会資源」マップを随時更新し、ケアマネジャーや介護サービス事業所等関係機関への周知に活用します。</p> <p>○区域で作成した医療連携ツール『もの忘れ相談シート』や横浜市医療局作成の「入院・退院サポートマップ」、「入院時・退院時情報共有シート」を活用し、連携を図れるよう働きかけます。</p> <p>○昨年度実施した包括レベル地域ケア会議についての報告・意見交換会を上白根・今宿西と3地域包括支援センター合同で実施し、訪問看護事業所にも参加を依頼します。また「介護サービス事業所連絡会」には地域の薬局薬剤師にも参加を依頼します。</p>	<p>○ケアマネジャー・介護サービス事業者向けの研修として「高齢者のてんかん」について、あさひの丘病院精神科医による講義を実施。また薬剤師との連携のために白根ゆり薬局薬剤師による「在宅療養支援」についての講義を実施。近隣の医療機関との「相談できる体制作り」の一助としました。</p> <p>○また自立支援のための研修として「横浜市在宅リハビリテーション事業」をケアマネジャーが活用できるように、横浜市リハビリテーションセンターの担当ソーシャルワーカーより事業についての講義を実施し、その後相談につながる実績が有りました。</p> <p>○エリア内の医療機関、特に在宅療養支援診療所の医師とはメール・FAX等で連絡し合い、タイムリーに利用者の情報共有・対応を実施できました。</p> <p>○地域ケア会議についての報告書は1月以降配布予定です。</p> <p>○「医療・介護の社会資源」マップを加筆更新、『もの忘れ相談シート』『入院・退院サポートマップ』を新任CM研修で紹介し、連携を容易にするための一助としました。</p> <p>○介護サービス事業者連絡会（5月・10月）には訪問看護、薬局にも参加の依頼をしました。引き続き地域のネットワーク作りのために参加を呼び掛けていきたいと思えます。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>③ ケアマネジャー支援</p>	<p>今年度評価〔○〕</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p>	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○ケアマネジャーへの支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談への支援を随時実施し、関係機関とも協働します。</li> <li>・ケアマネジメント能力向上に資するよう、事例検討や研修会を開催します。</li> <li>・新人・就労予定ケアマネジャーに対する研修等の実施を行います。</li> <li>・サービス担当者会議の開催支援及びスーパーバイズを随時行います。</li> <li>・支援困難事例、緊急対応時等への支援を随時行います。</li> <li>・区ケアマネジャー連絡会への支援を実施します（運営委員会、研修会支援）。</li> <li>・ケアマネジャーのスキルアップのため、エリア内連絡会や勉強会を実施します。目標 6回。</li> <li>・自立支援型プランに資するよう「横浜市在宅リハビリテーション事業」についての研修を実施し、ケアマネジャーが適切に活用できるようにします。</li> <li>・「生活困窮者自立支援事業」についての説明会を実施し、資源の一つとしてケアマネジャーが活用できるようにします。民生委員と合同の勉強会として開催し、顔合わせの機会とします。</li> </ul>	<p>○ケアマネジャーからの困難事例や地域資源についての相談、問い合わせには随時対応しました（12月末時点で177件）。</p> <p>○上白根・今宿西の3包括合同で「かみしらねアカデミー」として研修会・連絡会を実施しました（年間6回）。内容は「地域ケア会議報告と地域課題」「薬局との連携・薬剤師による在宅療養支援とは」「横浜市在宅リハビリテーション事業について」「高齢者のてんかん」「介護予防ケアプランについて」、2月開催予定の「面接技術とナラティブ・アプローチ」（12月時点 延べ141名参加）。今後も「医療・リハビリスタッフとの連携」「疾患・障害についての理解」「予防プラン・ケアマネジメント」「面接技術」をテーマに研修を継続する必要性を確認しました。課題として「災害への備え」について数年間取り上げていないので、企画を検討をする予定です。</p> <p>○旭ケアマネットの運営委員会にはオブザーバーとして出席し、研修にもファシリテーター等の役割を持って参加しました。</p> <p>○新任・就労予定CM研修は年間2回実施します（第一回目16名参加）。参加者の個別研修も担当し実施しました。</p> <p>○「生活困窮者自立支援事業」についての民生委員・ケアマネジャー向けの合同勉強会を実施しました（35名参加）。</p>	<p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p>	<p>今年度評価〔 ◎ 〕</p>	
<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○居宅介護支援事業所・介護サービス事業所の連絡会を実施し、個別の課題や地域の課題について意見交換や検討を行う機会を設けます。目標2回</p> <p>○ケアマネジャー・民生委員との懇談会や勉強会を実施し、顔の見える関係作りと連携の強化を行います。</p> <p>○障がい者への支援も多いという地域特性に合わせ、地域課題解決に役立つよう障がい支援機関と</p>	<p>○上白根・今宿西と「3包括合同地域ケア会議」を開催し、居宅ケアマネジャー、介護サービス事業所に参加を募り、昨年度の地域ケア会議の報告と、グループワークで地域課題についての話し合いを実施しました。特養からの在宅復帰も含めた地域包括ケアシステムについての意見が出されたり、「地域に必要と思われる資源について、要望や意見を集約する仕組み」が不足していることなどが課題として挙げられました。今後も「個別課題からの要望が寄せられる体制作り」に取り組みたいです。</p>	<p>地域ケア会議では地域課題を他職種で検討する体制ができており、他職種の意見や役割分担ができています。また3包括合同地域ケア会議を実施し個別の地域課題から共通する地域課題を集約する体制づくりに取り組まれました。</p>	

	<p>のネットワークの維持に努めます。また、生活支援課・生活困窮者自立支援事業担当者とも協力し、家計管理等の課題解決が図れるよう連携を行います。</p> <p>○関係者に個別地域ケア会議から出席して貰うことで、支援関係機関相互のより強力な関係作りができるようにします。また、定例のカンファレンスを実施します。</p> <p>○昨年度実施した包括レベル地域ケア会議について報告する機会を設け、地域包括ケアシステムについての普及啓発を行います。また、地域課題について意見交換も実施し、地域ケア会議についての周知、個別課題から抽出される「地域課題が寄せられる体制作り」を目指します。</p>	<p>○地域ケア会議は、個別会議4回、包括レベル第1回目を実施しました（第二回目は2月に予定）。今年度も「精神保健福祉的課題がある利用者・家族への支援」と、新たに「身元保証人がいない・家族との縁が薄い独居高齢者への支援」について取り上げました。緊急連絡先が無いことによる、入院時の対応や死後事務を『誰が担うのか』『支援者個人の努力では限界』といった課題が抽出されています。</p> <p>○出席者は任意後見人を受任している行政書士、地域看護学教授、地区社協・民生委員、地域住民の居場所である喫茶店（作業所）所長、障害者支援機関（基幹、絆）、在宅医療相談室、生活支援課・生活困窮者自立支援事業担当者、区医療SW、ケアマネジャーなど地域特性から連携が必須である方々に参加を依頼しています。</p> <p>○区レベル地域ケア会議では、地域ケア会議についての報告（精神保健福祉的課題）と事例提供（高齢親+社会的ひきこもりの子世帯）を行いました。様々なご意見・ご助言を頂きましたので、今後に生かすべく努めたいと思います。</p> <p>○障がい者支援機関との「定例カンファレンス」を開催しました（予定4回のうち3回実施済）。「高齢者+障がい者」世帯、子が社会的ひきこもり状態にある世帯、精神障がい者への対応で地域の高齢者が苦慮している事例などを取り上げ、情報共有と課題の検討を実施しています。3障がいそれぞれの特性を踏まえた対応が必要とされ、専門的助言が頂ける貴重な機会となっています。またネットワークの維持強化、地域ケア会議への連動など、今後も継続することで相乗効果を生み出せるものと考えています。</p>		
<p>(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）</p>	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○要支援者の主体性・意欲を引き出し、目標志向型の介護予防ケアマネジメントを行います。</p> <p>○委託を行う場合はケアマネジャーと連携し、適切なケアマネジメントが出来るよう契約時等同行訪問面談や担当者会議での助言、ケアマネジャーに地域資源の情報を提供するなどの支援に取り組んでいきます。</p> <p>○地域包括支援センターエリア内やブロック毎での介護予防支援業務に関する連絡会・勉強会・情報共有を主任ケアマネジャーと連携して行います。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防に役立つ情報収集、発信に努めます。</p>	<p>今年度評価〔○〕</p> <p>○要支援者の主体性・意欲を引き出し、目標志向型の介護予防ケアマネジメントの実践に努めました。</p> <p>○委託を行う場合はケアマネジャーと連携し、適切なケアマネジメントが出来るよう契約時等同行訪問面談や担当者会議での助言、ケアマネジャーに地域資源の情報を提供するなどの支援に取り組ましました。</p> <p>○地域包括支援センターエリア内やブロック毎での介護予防支援業務に関する連絡会・勉強会・情報共有を主任ケアマネジャーと連携して行いました。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防に役立つ情報収集、発信に努めました。</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	
<p>(6) 一般介護予防事業</p>	<p>前年度評価〔○〕</p> <p>○高齢者の状態を把握し、介護予防のきっかけになる情報提供や活動への参加を促すとともに、地域の中で介護予防の取組が広がるようにしていきます。</p> <p>○介護予防事業や自主事業で育成したグループの自主活動を促し、地域での活動を紹介したりするなど継続した取組を進めます。</p> <p>○介護予防の情報の提供、新規参加者を紹介するなどして自主化したグループを継続して支援します。</p> <p>○介護予防を行うグループの交流を促し、エリア内の介護予防活動の拡充に取り組みます。また、活動の中での課題などを気軽に相談できるように、お互いに顔の見える関係を構築します。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防に役立つ情報収</p>	<p>今年度評価〔◎〕</p> <p>○高齢者の状態を把握し、介護予防のきっかけになる情報提供や活動への参加を促すとともに、地域の中で介護予防の取組が広がるように努めました。高齢者が大勢集まる昼食会等の機会を利用して、介護予防活動の周知をおこないました。</p> <p>○介護予防事業や自主事業で育成したグループの自主活動を促し、地域での活動を紹介したりするなど継続した取組を進めました。認知症予防ダンス（だんだんダンス）を体操教室内で合計30回以上開催しました。コグニサイズでは毎回体重測定と年4回の体力測定を行い、自分の身体状態を確認できるノートを作り毎回の記入を促しました。</p> <p>○介護予防の情報の提供、新規参加者を紹介するなどして自主化に移行したグループも継続して支援に努めました。</p> <p>○介護予防を行うグループの交流を促し、エリア内の介護予防活動の拡充に取り組みました。また、活動の中での課題などを気軽に相談できるように、お</p>	<p>今年度評価〔 ○ 〕</p> <p>横浜市基準を満たしています。</p>	

<p>集、発信に努めます。</p>	<p>互いに顔の見える関係の構築に努めました。みな元気旭に登録しているグループに対して、活動内容の把握と要望についての意見を確認しました。手話サークル活動団体に声掛けして、聴覚障害者も参加できるように依頼しました。</p> <p>○地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防に役立つ情報収集、発信に努めました。公団ハマトレ体操の参加者増加の為、生活支援コーディネーターと共にチラシ配りや運営について保健活動推進員に協力しました。公団つどいで、ひかりが丘認知症の講座を開催しました。四季の森公園内で地域住民が自主的に行っているラジオ体操の視察を行い、介護予防事業の宣伝活動をおこないました。新規の男性介護予防体操参加者獲得を目指して、ひかりが丘小学校コミュニティハウスでコグニサイズを開催し、地域の男性にチラシ配りを行い参加を促しましたが、新規の男性参加者の増加は難しい状況でした。</p>	
-------------------	---	--

その他考慮すべき事項

○地域の高齢化に伴い、主な自治会である「ひかりが丘団地自治会」と民生・児童委員に現在以上の助力を望めません。民生・児童委員に関しては現在7名となり、どなたも自治会役員、地区社協役員を兼務し、地域の支援者も高齢化が進行しています。

○虐待をはじめ、これまで対応した複雑な困難事例の中で心理的に高度な対応が必要なケース等について区と必要に応じ対応を協議しました。カンファレンス等の開催により役割分担をしながら協働して対応を行いました。

○横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業においては主に地域包括支援センターやひかりが丘団地自治会と協働し対応を継続しています。

○昨年度よりひかりが丘住宅住戸改善事業が始まりましたが、改修による転居に伴い在宅生活が困難となるケースが多く想定されます。担当ケアマネジャーを中心に必要な支援及び調整に努めたいと考えております。

<区役所からの総評>

(全事業共通)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・地域住民にとって気軽に訪れることができ、何気ないことでも相談できるケアプラザとなるように、日頃から地域での生活を支える姿勢で関わり、地域の様々な活動に幅広く参加するなど、顔の見える関係づくりの構築に取り組んでいます。
- ・昨今、生活・福祉課題がより複雑・深刻化し地域住民の状況把握も困難になる中で、日頃から職種・部門を問わず密に連携し、行政や関係機関との協力体制のもと、ケアプラザ一体となって地域課題の解決へと取り組んでいます。

(地域活動交流事業)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・にこにこ会（精神障がい者サロン）の運営にあたっては、他のケアプラザとの合同企画の実施にとどまらず、連絡会を立ち上げて課題の共有や今後の内容について検討するなど、当事者がより積極的に参加でき、交流や社会参加が進むよう創意工夫するなど、連携して運営を行っています。
- ・これまで自主事業として実施していた「ひかりの輪」、「ハマトレ体操」を、参加者の意欲が高まった機を逃さず、適時の働きかけ・サポートによって自主化へと繋げることができました。今後も住民主体で継続して活動できるよう、必要に応じた支援を行っていただきます。

(生活支援体制整備事業)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・地域に貢献するボランティアの養成に尽力したほか、地域ケアプラザ自主事業として実施していた活動グループの自主化など、活動団体に応じて柔軟に支援しました。
- ・他機関と連携して高校生のボランティアプロジェクトを立ち上げ、若い世代が地域貢献する機会を作りました。
- ・西ひかりが丘団地において実施している、介護人材による地域支援活動モデル事業の実施にあたり、事業者と地域との調整をきめ細かく行っていただきました。

(地域包括支援センター運営事業)

- ・横浜市基準を満たしています。
- ・所長、地域交流コーディネーター、生活支援コーディネーター、包括支援センター3職種、横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員の7職種での連携が円滑になされ、また民生委員児童委員等の地域役員との定期的な会議等で個別ケースや地区課題の共有が図られています。
- ・地域ケア会議では統計や関連資料の工夫がなされ、地域課題を参加者で共有するための効果的な工夫がなされています。また高齢者虐待への対応では研究機関のカンファレンスシートを活用し効果的なアプローチに取り組まれました。今後も地域関係者や他職種との連携した継続支援を期待します。

<評 価 (S/A/Bの3段階) >

A



# 事業報告書

平成30（2018）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

四季の森小学校放課後キッズクラブ

平成30年度事業報告 部門名	報告責任者：氏名
四季の森小学校放課後キッズクラブ	北村 幸恵
I	<p><b>事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 就労等により、放課後に保護者がいない小学生が安心して安全に過ごすことができる居場所を提供しました。</li> <li>2 地域との結びつきを重視し、利用者の通学する小学校をはじめとした地域の団体や関係機関との密接な連携をしたクラブ活動を目指しました。</li> <li>3 利用者が日々のクラブでの活動や他の児童との交流により、基本的な生活習慣を習得することや健やかに育成されることを図りました。</li> <li>4 異年齢児間の遊びや交流を通じて、児童の創造性・自主性・社会性を育むことを目指しました。</li> <li>5 法人理念「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」に基づき、キッズクラブを利用するすべての児童の安全と保護者の安心を確保した上で、活動内容の充実を図りました。</li> </ol>
II	<p><b>業務目標の達成に関する報告（努力したこと・達成できたこと・できなかったこと）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 従来行ってきたはまっ子ふれあいスクールでの活動を基盤として、まずは児童及び保護者が安心してキッズクラブを利用できるよう配慮しました。 【主な活動内容】 ①季節や行事にちなんだ活動や工作 ②ドッジボール大会（3月6日：参加者27名）</li> <li>2 1に加えて学区内にある横浜市ひかりが丘地域ケアプラザの有するボランティアコーディネイト機能を活用し、キッズクラブの活動内容の充実を図りました。 （平成31年4月2日実施の里山ガーデン散策にボランティア2名とコーディネーター1名が参加）</li> <li>3 1・2を行うことによりキッズクラブの魅力を高めることで、利用児童数の確保に努めました（添付資料参照）。</li> </ol>
III	<p><b>事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昼間平日参加児童数（利用区分1）1日平均 目標：40名 実績：22.3名</li> <li>2 夜間平日参加児童数（利用区分2）1日平均 目標：10名 実績：2.2名</li> </ol>
IV	<p><b>業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果）</b></p> <p>平成31年3月開所直後のため該当なし</p>
V	<p><b>業務の強化・向上（強化・向上したこと）</b></p> <p>平成31年3月開所直後のため該当なし</p>
VI	<p><b>業務の新たな試み（昨年度より開始した事業・業務・対応など）</b></p> <p>平成31年3月開所直後のため該当なし</p>
VII	<p><b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前身のはまっ子ふれあいスクールに比べ開所時間が長くなったこと及び卒業式の開所等の影響により職員配置数の確保に苦慮したため、夏休み前までに職員の増員を図りたい。</li> <li>2 障害児等配慮が必要な児童の受入が安全に行えるよう、職員配置の整備及びボランティアの活用を図りたい。</li> </ol>

### 放課後キッズクラブ月別状況報告書

放課後キッズクラブ名: 四季の森小学校

平成 31 年 3 月分 月報

#### ◆ 末日現在児童数・登録率

	合計	内 訳						※当該校の通学児童を記入してください。 (当該校以外の児童については、ここでは記入しません。)
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
在籍児童数 ①	255人 [ 14人 ]	28 [ 4 ]	41 [ 1 ]	53 [ 0 ]	39 [ 1 ]	45 [ 3 ]	49 [ 5 ]	
登録児童数 ②	141人 [ 5人 ]	26 [ 3 ]	35 [ 1 ]	35 [ 0 ]	23 [ 0 ]	11 [ 1 ]	11 [ 0 ]	※児童数の【 】内は、障害児の受入れに係る補助の対象となる児童数を“内数”で記入します。
うち	139人	25	34	35	23	11	11	
区分1登録児童数	5人 [ 3 ]	3	1	0	0	1	0	
うち	2人	1	1	0	0	0	0	
区分2登録児童数	-	0	0	0	0	0	0	※「区分2登録児童数」及び「対象児童数」については、支援の単位ごとに属する児童数を記入してください。
支援の単位1	2人 [ - ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	
支援の単位2	-	0	0	0	0	0	0	
支援の単位3	-	0	0	0	0	0	0	※「対象児童数」とは、区分2登録児童の利用希望日数に基づいて算出した人数です。
対象児童数 ④	2人 [ - ]	1.0 [ 0.0 ]	1.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	定員 ③ 80人
支援の単位1	2人 [ - ]	1.0 [ 0.0 ]	1.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	支援の単位1 40人
支援の単位2	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	支援の単位2 40人
支援の単位3	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	支援の単位3 -
登録率 ①/②	55.3% [ 35.7% ]							

#### ◆ 平日児童利用状況

日	曜日	実施分類	利用児童数	全 日						17時以降					
				区分1	区分2	単位1	単位2	単位3	区分1	区分2	単位1	単位2	単位3		
1	1	金	21 [ 1 ]	19 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
2	4	月	19 [ 1 ]	17 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
3	5	火	22 [ 1 ]	20 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
4	6	水	27 [ 1 ]	26 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
5	7	木	18 [ 1 ]	16 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
6	8	金	24 [ 1 ]	22 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
7	11	月	22 [ 1 ]	21 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	2 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
8	12	火	22 [ 1 ]	20 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
9	13	水	22 [ 1 ]	21 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	0 [ 0 ]					
10	14	木	17 [ 1 ]	16 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	0 [ 0 ]					
11	15	金	20 [ 1 ]	18 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	2 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
12	18	月	24 [ 1 ]	22 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
13	19	火	23 [ 1 ]	21 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
14	20	水	19 [ 1 ]	18 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	2 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
15	22	金	21 [ 1 ]	19 [ 1 ]	2 [ 0 ]	2 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
16	25	月	22 [ 1 ]	21 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
17	26	火	23 [ 1 ]	23 [ 1 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
18	27	水	26 [ 1 ]	26 [ 1 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	0 [ 0 ]					
19	28	木	26 [ 1 ]	25 [ 1 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
20	29	月	23 [ 0 ]	22 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	①	2 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	1 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]
21			0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]		0 [ 0 ]					
22			0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]		0 [ 0 ]					
23			0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]		0 [ 0 ]					

※実施分類 ①開所日 ②開所日(加算対象外) ③閉所日 ④閉所日(減算対象外)

○全日 ※①開所日の日数は、下記表の実施日数の合計になります。

	区分1	区分2				合計
		合計	単位1	単位2	単位3	
実施日数	20	-	18	0	0	-
延べ利用児童数	413 [ 19 ]	28 [ 0 ]	28 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	441 [ 19 ]
平均利用児童数	20.7 [ 1.0 ]	1.6 [ 0.0 ]	1.6 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 1.0 ]	22.3 [ 1.0 ]
利用率	14.9% [ 22.6% ]	80.0% [ 0.0% ]	80.0% [ 0.0% ]	0.0% [ 0.0% ]	0.0% [ 0.0% ]	15.9% [ 22.6% ]

○17時以降 ※①開所日の日数は、下記表の実施日数の合計になります。

	区分1	区分2				合計
		合計	単位1	単位2	単位3	
実施日数	7	-	14	0	0	-
延べ利用児童数	7 [ 0 ]	16 [ 0 ]	16 [ 0 ]	0 [ 0 ]	0 [ 0 ]	23 [ 0 ]
平均利用児童数	1.0 [ 0.0 ]	1.2 [ 0.0 ]	1.2 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	0.0 [ 0.0 ]	2.2 [ 0.0 ]
利用率	0.8% [ 0.0% ]	60.0% [ 0.0% ]	60.0% [ 0.0% ]	0.0% [ 0.0% ]	0.0% [ 0.0% ]	1.6% [ 0.0% ]

◆ 土曜日児童利用状況

日	曜日	全日							17時以降						
		実施分類	利用児童数	区分1	区分2	単位1	単位2	単位3	実施分類	利用児童数	区分1	区分2	単位1	単位2	単位3
1	2	土	②	4 【0】	4 【0】	0 【0】									
2	9	土	②	2 【0】	2 【0】	0 【0】									
3	16	土	②	4 【0】	4 【0】	0 【0】									
4	23	土	②	3 【0】	3 【0】	0 【0】									
5	30	土	②	6 【0】	6 【0】	0 【0】									
6				0 【0】											

※実施分類 ②開所日（加算対象外） ③閉所日 ④閉所日（減算対象外）

○全日 ※下記表は②開所日（加算対象外）の合計になります。

	区分1	区分2				合計
		合計	単位1	単位2	単位3	
実施日数	5	-	0	0	0	-
延べ利用児童数	19 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】	19 【0.0】
平均利用児童数	3.8 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	3.8 【0.0】
利用率	2.8% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	2.7% 【0.0%】

○17時以降 ※下記表は②開所日（加算対象外）の合計になります。

	区分1	区分2				合計
		合計	単位1	単位2	単位3	
実施日数	0	-	0	0	0	-
延べ利用児童数	0 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】	0 【0.0】
平均利用児童数	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】	0.0 【0.0】
利用率	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】	0.0% 【0.0%】

◆ 実施分類

※昼間とは1/時までの時間を指し、夜間とは1/時以降の時間を指します。

○開所日数

①開所日

平日昼間	平日夜間
20日	20日

○閉所日数

③閉所日

夜間閉所	土曜日等閉所
5日	-

○開所日数のうち、加算補助の対象とならない日数

②開所日（加算対象外）

平日昼間	平日夜間	土曜昼間	土曜夜間
-	-	5日	-

※以下のア～エの日数を記入（該当がある場合は、特記事項に理由を記入してください。）

- ア 4月1日から新一年生一斉入学日の前日まで
- イ 学校休業日（ただし、長期休業日を除く）
- ウ 警報発表時等に開所した日
- エ 学校の引き渡し訓練を実施した日
- オ 上記に類すると区長が認めた事由がある場合  
（例）利用区分2のみを受入れた場合

○補助金減算対象にならない日数

④閉所日（減算対象外）

平日昼間	平日夜間	土曜昼間	土曜夜間
-	-	-	-

※以下のア～ウの日数を記入（該当がある場合は、特記事項に理由を記入してください。）

- ア 事前に利用希望を確認し、利用希望児童がないことを確認し、閉所しているが、児童を受入れる体制を整えている場合
- イ 学校から閉所を依頼されている日（警報発表時を含む）
- ウ やむを得ない理由（特別警報発表時、インフルエンザや急な利用のキャンセルにより児童がいなくなった等）があった日

◆ その他

○当該校以外登録児童数

	国立・私立小学校	特別支援学校
登録児童数	0	0
うち区分1	0	0
うち区分2	0	0

※当該校以外登録児童数は、参考数値のため、末日現在登録

○保護者負担減免額相当補助対象児童数

1人

◆ 放課後キッズクラブ補助金交付要綱 第9号様式横浜市放課後キッズクラブ事業補助金執行状況報告書 記入事項

※下記表については、放課後キッズクラブ補助金交付要綱 第9号様式横浜市放課後キッズクラブ事業補助金執行状況報告書に対応しています。

2 規模加算補助・大規模加算補助

平日利用児童数
22人

利用区分2対象児童数
2人

3 障害児受入加算補助

利用児童数
1

5 障害児受入強化推進加算補助

登録人数	
支援の単位①	-
支援の単位②	-
支援の単位③	-

6 保護者負担減免相当補助

補助対象児童数
1人

8 土曜日閉所減算

閉所日数
-

9 夜間閉所減算

閉所日数
5日

◆ 特記事項

※閉所した日の理由や学校行事、実施したプログラム等について記入してください。（平日・土曜日ともに本欄に記入してください。）  
※実施分類に記載している②開所日については、利用する児童が通常より少ないことが見込まれるため、加算補助の算定対象日から除きます。

<実施プログラム>6日 15時～16時30分 ドッジボール大会 参加人数 27名

# 事業報告書

平成30（2018）年度



あったかいが  
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム三育保育園

---

## シャローム三育保育園 平成 30 年度事業報告

保育指針 ; 「キリスト教の愛を基に

『知育』(考える力)

『徳育』(おもいやる心)

『体育』(けんこうな体) の調和ある発達を目的とした保育をおこないます」

保育目標 ; 「気持ちを素直に表現し、意欲的に生活する子ども」

「思いやりの心を育て、感謝の気持ちを持てる子ども」

「健康な心と体を持ち、最後まで頑張る子ども」

平成 30 年度は 4 月時点から満員の 84 名の入所児でスタートしました。0 歳児が満員でスタートする事態となり保育所利用の低年齢化を実感することになりました。在園児数は年間を通して安定して推移し年間平均は 83.5 名/84 名でした。一時保育の利用も年度当初から多く、予想を大きく上回る実績を上げることができました。

感染症の流行はありませんでしたが、夏場の猛暑により熱中症予防で外遊びが制限されることになり、暑さ対策が課題となりました。

2 月には園庭整備が行われ、新しい遊具が設置されました。ルールを作らないことをルールに、子どもたちが主体性をもって、自分で考え行動できるような保育を心がけています。

課題は保育士の確保です。年間を通して求人を行いました十分な採用には至っていません。地域資源として最大限受け入れるための体制を整えるために、求人媒体なども活用しながら人材の確保に努めたいと思います。また養成校との関係を深め実習生などの受け入れから採用につながるよう努力していきます。

園長 村上 渉

## 目次

事業報告書	2
【1】現況報告	3
【2】給食	4
【3】医務	4
【4】防災管理	5
【5】職員研修	6

平成 30 年度事業報告 部門 名	事業報告者：氏名
保育園	村上 渉
I	<b>事業概況・実績報告</b> （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 平均入所児童数 83.5 名/84 名 2 保育園整備中期計画の実施。防犯カメラの増設、更新。園庭整備。
II	<b>業務目標の達成に関する報告</b> （努力したこと 達成できたこと・できなかったこと） 1 防犯カメラをリニューアルした事により安全管理対策の強化ができた。 2 園庭を整備したことで子どもの主体性ある保育の見直しを職員間で行うことができた。
III	<b>事業数値目標の達成に関する報告</b> （達成率・達成数値） 1 園児数の確保：入所児童枠 84 名に対し平均 83.5 名。達成率 99%。 2 一時保育事業：年間目標延べ 350 名に対し 581 名。達成率 166%。
IV	<b>業務の改善・見直し</b> （改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 全体 ①せやまる・ふれあい館のお祭りへの参加内容を変えることで地域の方とのふれあいを持つことができた。 2 保育 ①新保育指針を基本とし指導計画の見直しを行ったことで常に指針を意識して保育の実践につなげることができた。 ②看護師在中の強みを活かし子ども・保護者・職員へ其々にあった啓発指導を行うことができた。 3 食育 ①1年間を通して新保育指針に沿った食育計画を行う事ができた。 ②献立に関しては基準値を上下する事はあったが、安定した献立作成ができていた。
V	<b>業務の強化・向上</b> （強化・向上したこと） 1 全体 ①施設設備の充実：園庭を整備したことで遊びの幅を広げることができた。また、職員の安全に対する意識も変わり子どもの安全な活動を見守ることができた。 ②緊急時対応の強化：複数の災害が重なることを想定した訓練を行うことができた。 ③職員教育：経験のある職員に対し職務別リーダーを任命し、其々にあった研修に参加することで質の向上に努めることができた。また、それらを園内研修に活用し園全体の質の向上につなげるように取り組んだ。 ④保育状況に合わせて保育士を配置できるように体制を整えることができた。それと共に、業務時間内の有効な活用により時間外の業務を減らす事ができた。 2 保育 ①園外保育として学校行事や地域防災訓練などへの参加を予定していたが、日程や天候の影響で参加できなかった。 3 食育 ①「命の大切さ」を教える取り組みを継続的に行うことで、子どもたちにもしっかりと伝わっていることを実感することができた。 ②バイキングは回数を増やした事で、子どもたちが食事を普段とは違う形で楽しめていた。
VI	<b>業務の新たな試み</b> （昨年度より開始した事業・業務・対応など） 1 新保育指針をもとに自己チェックシートを作成し取り組むことで 日頃の業務を振り返り職員間で話し合い、専門性の向上を図ることができた。
VII	<b>残された課題・評価・反省・その他の特記事項</b> 1 保護者からの苦情。（送迎時の保護者対応の際の職員の対応、言葉掛け）ミーティングや職員会で周知し再発防止に努めた。 2 ホームページに掲載していた園だよりにより使用したフリー素材の無断使用があり、追徴金を支払った。ホームページに掲載する内容を限定し、過去のデータを削除した。 3 保育士の確保。

【1】現況報告

①入所児童

(平成 31 年 3 月 31 日付け)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	9/6	12/12	15/13	48/39			84/70
現員	9	12	13	15	17	16	82

②一時保育事業延利用児童数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用児童数	43	44	38	56	71	46	49	45	42	38	51	58	581

③行事の状況

実施日	行事名	実施日	行事名
4月2日	入園式	10月25日	内科健診
5月25日	お弁当持ち散歩	10月26日	お弁当持ち散歩
5月31日	内科健診	11月5～28日	個人面談
6月1日	保育参観・懇談会	11月29日	歯科健診
6月15日	じゃが芋掘り	12月15日	クリスマス会
6月28日	歯科健診	1月8日	もちつき
7月2日	プール開き	2月1日	節分
7月13日	さかなのつかみ取り	2月22日	保育参観・懇談会
7月20日	夕涼み会	3月8日	卒園遠足
8月27日	シャローム横浜おやつピザ	3月9日	入園説明会
9月15日	さつまいも掘り	3月18日	お別れ会
10月7日	運動会	3月22日	卒園式
		3月29日	進級式

《地域交流と支援》

- ・ 地域支援：「えいごで遊ぼう」「園庭解放」毎月第3木曜日
- ・ 地域交流：せやっこ祭り 11月10日
- ・ 他世代交流：シャローム横浜デイサービス 8月27日、11月5日中止  
ひかりが丘地域ケアプラザ 9月26日  
グループホームミルトスの木上白根 3月1日
- ・ 幼保小交流：学校探検 10月10日、球根植え 2月13日
- ・ 他保育園との交流会：ランランデー 5月17日、あづま野幼稚園園庭交流 7月10日  
プール遊び 8月1日、どろんこ遊び 8月3日、ドッジボール大会 3月8日
- ・ 療育センター巡回訪問：年2回
- ・ 読み聞かせボランティア受け入れ：年3回
- ・ 防災ボランティア活動支援：1月26日
- ・ せやまる・ふれあい館合同避難訓練：3月5日
- ・ 合同育児講座：1月21日
- ・ 職業体験：中学生 4名、高等支援学校生 2名
- ・ 実習生：看護大学 12名、専門学校生 1名

## 【2】給食

### ③食育計画 【栄養講話】 対象：3～5歳児

実施日	内容	備考(媒体)
4月24日	噛むことの大切さ	
5月8日	食事のマナー「正しい姿勢で食べよう」	クイズ形式 ポスター
5月22日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
6月5日	「歯を大切にしよう」虫歯ができる理由・歯を磨く大切さ	
6月12日	何からできてるかな(加工食品について)	竹輪→魚 チーズ→牛乳 ハム→肉 など
6月26日	噛むことの大切さ	
7月10日	夏野菜について	クイズ形式
9月10日	秋の食べ物について	クイズ形式
9月18日	箸の持ち方について	ポスター
10月2日	三角食べについて	
11月6日	さつま芋について	収穫したさつま芋について
11月20日	冬の味覚について	クイズ形式
12月4日	食事のマナー、正しい姿勢で食べよう	
12月18日	冬至について	クイズ形式 ポスター
1月4日	七草粥について	七草の展示
1月29日	節分について	
2月12日	手洗いの大切さ	正しい手洗い方法を歌いながら学ぶ
2月26日	春の食べ物について	
3月12日	いただきます・ごちそうさまについて	

## 【3】医務

### ①健康診断

実施日	対象人数	実施人数	診断項目	異常の有無
(1回目)5月31日	84人	79人	内科	無
(2回目)10月25日	84人	73人	内科	無

実施人数と対象人数が異なるがその理由を確認し(病的、私的欠席)、経過を追った。

### ②歯科健診

実施日	対象人数	実施人数
6月28日	84人	76人
11月29日	84人	74人

## 【4】防災管理

### ①消防設備点検

消防設備点検(実施・届出)	1回目(6月1日)点検実施
	2回目(12月10日)点検実施

②防災対策備蓄

備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量	備蓄物	備蓄数量
ガーゼ	20 束	エマージェンシーシート	2 枚	おむつビック	54×9
グローブ	1000 枚	手作り包帯	約 50 本	おむつ超ビック兼用	14×1
消毒液・オキシドール	9 本・500×2	おむつS	84×1	おしりナップ	10 個×3
サージカルテープ	12 巻×2	おむつM	64×2	鍋	1
バンドエイド	9 箱	おむつM	58×3	ガスコンロ	1 台
コットン	3 パック	おむつL	64×6	カセットガス	3 本
ウエットティッシュ	2 箱	水 (20)	144 本	ハロゲン灯光器	1 台
哺乳瓶	9 本	白がゆ・白飯	50・150	手動充電器	2
哺乳瓶乳首	4 個	ミルク	10 缶	着火マン	2 個
使い捨て手袋	100×3	クラッカー (70 食)	4 缶	懐中電灯・電池	2 セット
ビニール袋 (大小)	550 枚	携帯トイレ	30 回分	ラジオ	1
紙ナプキン	150 枚	ペーパータオル	25 袋	タオル	1 箱
ジャグ	2	トイレットペーパー	36 巻	発電機	1 台
ラップ	1 本	ティッシュ	12 箱	ガソリン	30L
コップ	350 個	着替え上下 120/140	30 枚	皮手袋・軍手	12 組・22 組
箸・スプーン	60・30	マスク (大小)	1000 枚	工具類	一式
紙皿 (大中小)	163 枚	簡易トイレ	2 台	スケッチブック	3 冊
ハンドミスト	4L×2 750ml×5	けんちん汁 (3kg)	6 缶	ガムテープ	2 巻
クリップ大小	8 個	EMG・ブランケット	57 枚	スズランテープ	2 巻
おんぶ紐	8 本	靴	17 足	はさみ	2 本
トランシーバー	2 台				

③避難及び消火訓練

(実施内容に○印)

実施内容	想 定			訓 練	
	地震	火災	その他	避難	消火訓練
実施月日					
H30. 4. 18	○			○	○
H30. 5. 14		○		○	○
H30. 6. 20			○	○	○
H30. 6. 26			○	○	○
H30. 7. 18		○		○	○
H30. 8. 15	○			○	○
H30. 9. 19			○	○	○
H30. 10. 17		○		○	○
H30. 11. 14			○	○	○
H30. 12. 10		○		○	○
H30. 12. 18			○		
H31. 1. 16		○		○	○
H31. 2. 20	○				○
H31. 3. 5 せやまるふれあい館 合同避難訓練		○			
H31. 3. 6	○			○	○

【5】職員研修

①園外研修

		実施記録（上段：研修名・中段：主催・下段：研修日）		
個人の年間のねらい		①	②	③
園長	・人材の確保と育成・施設環境の整備・重大事故発生0	社会福祉法人会計と修正社会福祉法から見る組織づくり	平成30年度 園長・施設長講座	
		ウイリング横浜	白峰学園保育センター	
		5/17	6/8・8/8・9/11・10/2・11/2	
小幡悦子	・現場目線での仕事内容の見直し・新保育所保育指針に沿った保育の見直し（声掛け・周知）	保育所保育指針研修		
		こども青少年局		
		7/4		
大原仁子	・銀行入金までの作業メモを更新して園長先生との手順を共有する・H30年度の制度を理解して業務に反映させる	カウンセリングを活かした保護者対応講座Ⅱ		
		白峰学園保育センター		
		10/16・11/6・11/27・1/22・2/19		
岡田ちとせ	・新入園児、在園児、保護者、職員に対し 正しい保健情報を提供する・園児の普段の様子を把握し 体調不良に対しいち早く気づけるように観察する・保健計画に則り 円滑に啓発指導を行い 小児の流行性疾患を1年間かけて網羅する	平成30年度 保育士等キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策	感染症対策指導者養成研修	神奈川県保育士エキスパート等研修
		白峰学園保育センター	瀬谷福祉保健センター福祉保健課	ポピンズ研修部
		10/9・11/1・1/24・2/5	11/2	2/28・3/6・3/11
齋藤直子	・おだやかに過ごす・保護者の気持ちに寄り添って保育を行う	平成30年度 2歳児保育研修	平成30年度 1歳児保育研修	
		白峰学園保育センター	白峰学園保育センター	
		6/18・7/9	7/10・8/6	
鈴木香	・2年近くの間ブランクがあるがまずは自分自身の心身の健康を保ち 元気いっぱいの子どもたちと向き合える保育をする	乳児食講習会		
		横浜市こども青少年局		
		2/12		
青木彩花	・一人ひとりの成長に寄り添った保育の展開 また 指導（他 保育士への）・しっかりと副主任業務をこなす	保育士等 キャリアアップ研修 乳児保育分野	主任・リーダー保育士研修会～職場の仲間づくり～	保育士等キャリアアップ研修（マネジメント・主任保育士

				講座 B)
		横浜市子ども青少年局	瀬谷区福祉保健センターこども家庭支援課	白峰学園保育センター
		6/28・7/23・9/28・10/30・11/30	10/9・1/22	9/19・10/19・11/21・1/21
下村 英里	・クラス内 チーム内での自分の役割を考え 意識して積極的に行動する・一人ひとりの発達に合った関わり 発達を支える関わりをする	平成 30 年度 カウンセリング講座	保育エキスパート等研修	
		白峰学園保育センター	ポピンズ研修部	
		10/12・11/8・12/6・1/25・2/15	1/9・1/19・1/22	
知久 ゆり	・子どもが主体となる保育をしていきたい・保護者とのコミュニケーションを取り連携をしていく	乳幼児救急法研修 けがの手当て訓練 コース		
		白峰学園保育センター		
		6/22		
脇本 瑛梨香	・子どもの気持ちや思いを受け止め、実現出来るよう努める・子ども一人ひとりの発言に耳を傾ける	特別セミナー（手遊びうた・リトミック・運動遊び・保育素材）		
		白峰学園保育センター		
		8/1・8/23・8日		
木村 匠	・職員間の連携をしっかりと取りながら日々の保育や行事を行っていく	女性の中で働く男性保育士		
		白峰学園保育センター		
		7/31		
松井 芽惟	・子どもたちの個性を知り保育をスムーズに行う	ワンダーサマー スクール		
		世界文化社		
		8/7		
金子 武人	・より良い保育を行うために職員同士密に連携をはかりコミュニケーションを大事にすること・子どもの言動を大切に し 安心で楽しめる場になるように取り組んでいきたい	平成 30 年度公開保育	保育士等キャリアアップ研修 保育実践	保育エキスパート等研修
		瀬谷区こども家庭支援課	横浜市私立保育園 園長会	ポピンズ研修部
		7/10	5/9・5/12・6/2・7/13	2/4・2/23・2/25
倉原 望	・子ども一人ひとりの性格や発達を理解し配慮した保育をする ・家庭との連携を密に取り担任同士で連携を取りながら	平成 30 年度神奈川県保育エキスパート等研修	瀬谷っこまつり	
		神奈川県総合薬事保健センター	瀬谷区こども家庭支援課	

	適切な保育をする	2/5.3/4.3/8	6/6・7/18・ 10/17・11/9・ 11/10・12/12	
阪 夏月	・幼児クラスの1年の流れを知る・お兄さん、お姉さんになったという喜びの中甘えたいという思いも十分に受け止め安心して過ごし成長出来る環境を作る	乳幼児救急法研修 白峰学園保育センター 6/13~14		
嶋村 千恵子	・個々の成長にあった配慮を心がける ・自然に興味を持ったりいろいろな物事に興味をもてるようにする	ぴーす鶴ヶ峰療育参観日 児童発達支援「ぴーす鶴ヶ峰」 7/24	保育士等キャリアアップ研修 横浜市私立保育園園長会 8/29・9/4・9/8	園内研修リーダー育成研修 横浜市こども青少年局 6/4・7/3・9/10・11/12・1/31・3/8
中本 佳奈子	・提出物をしっかり出す事 ・一人ひとりの子どもと向き合い褒める保育をする	西部地域療育センター ぶらんちスペース オープンデイ 横浜市西部地域療育センター 6/26	乳幼児救急法研修 白峰学園保育センター 7/4~5	
吉田 成美	・子ども一人ひとりに沿った保育を心がける・子どもが様々な体験、経験を楽しめるよう自ら学んでいく・副主任として幼児をまとめ楽しい保育が出来るよう話し合う	平成30年度 特別セミナー保育研修 白峰学園保育センター 5/23・7/25・10/24・12/5・2/6)		
佐藤 千穂	各クラスの子どもや 保育士の様子を日ごろからよく見ておきフリーとして良きアシストが出来るよう努めていく	平成30年度 障害児保育講座 白峰学園保育センター 7/3・8/21・9/18・10/30・11/20)		
富山 彩加	・子ども一人ひとりと丁寧に関わる・フリーとして職員との連携、やり取りを今まで以上に心がける	休職中につき受講無し		
横森 房枝	・基本を確認しつつ精進する	保育所給食における食育について 横浜市社会福祉協議会		

		1 / 30		
宮本 博子	・今年度は全体フリーということで子どもの安全を考えつつ 担任の先生との連携も大切に子ども一人ひとりの人格を尊重しながら保育していきたいと思う	乳幼児保健研修		
		子ども青少年局		
		2 / 7		
木原 有紀	・各クラスの保育の流れを理解し 情報共有に努め 必要な場合には的確な判断を自ら行い 子どもが安全に過ごせるように努力する	食育研修会～食育計画について		
		横浜市こども青少年局		
		2 / 20		
松本 美奈子	・先生方との連携をとってスムーズに保育を行うとともに保育中の声の大きさ、言葉遣いに気を付ける	横浜市西部地域療育センター 療育センター理解編		
		横浜市西部地域療育センター		
		7 / 30		
佐藤 百合子	・担任がクラス運営がスムーズに出来るようにサポートすることと子どもの成長にあった助言、保育を行う	横浜市西部地域療育センター 療育センター実践編		
		横浜市西部地域療育センター		
		7 / 27		
瀬谷 留美	・担任と連携を取りながらその場にあった対応を子ども一人ひとりに出来るようにする	要保護児童対策地域協議会構成期間支援者研修		
		要保護児童対策地域協議会構成期間支援者研修		
		1 / 29		
宮原 恵子	・子どもへの言葉かけやかかわり方を様々な場面から学ぶ	保育教育理念講座		
		横浜市こども青少年局		
		1 / 24		
勝谷 広志	・食材 コスト管理 バイキングの充実 安全な食事の提供 ・クラスごとの関わりの増加	給食施設栄養管理研修会		
		瀬谷福祉保健センター		
		2 / 5		
太田 かや	・食育計画の改定に伴い 食育とは 何かについて基礎から学び資格を取ってスキルアップを図る	保育士等 キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	中堅保育士研修	
		白峰学園保育センター	白峰学園保育センター	

		1/30・2/20	7/2・9/27	
渡邊 彩	・子どもたちが喜んで食べてくれるような給食づくり おやつ作りに努められるように 試行錯誤する・保育資格取得のため 現場から日々学んでいく	ワンダーサマースクール		
		世界文化社		
		8/7		
池部 桃子	・園の行っている保育業務の大 枠 を 頭 に 入 れ る ①一日の流れを把握する。②各勤務の出勤からの動きをスムーズに行う。③保育園のしおりの内容を頭に入れる。	食物アレルギー講習会		
		横浜市こども青少年局		
		2/26		

## ②園内研修

### A) 園内研修

実施年月日	テーマ (担当職員)
4月27日	リーダー研修より「自己成長エゴグラム」(副主任)
5月25日	「除去食・エピペン講習」マニュアル確認・グループディスカッション(栄養士・看護師・主任)
5月26日	グループディスカッション『子ども・保護者・環境・食育』(副主任)
6月29日	「プール(水遊び)」マニュアル確認(プール係)・外部研修発表(主任)
7月27日	外部研修発表(主任)・防災「職員の少ない時間帯の避難の仕方＝広域避難場所への避難＝(防災係)
8月31日	外部研修発表(主任)・「事故報告、ヒヤリハット」フィードバック(副主任)
9月28日	「自己評価」(主任)
10月26日	「事例検討」(副主任)
11月30日	「食育」(副主任)
1月25日	「事故報告、ヒヤリハット」フィードバック(副主任)・外部研修発表(主任)
2月22日	「自己評価」(主任)
3月10日	マニュアル確認「保育理念・保育園の役割・保育の計画・個人情報保護・健康管理・防災」(園長・主任・看護師・防災係)
3月22日	外部研修発表(主任)
年間を通して	「〇〇先生の良いところ」(副主任)

### B) 外部講師研修

実施年月日	テーマ
6月1日	「ワクチン古今東西」予防接種について
	なごみクリニック 武井先生
6月7.8日	救命救急講座
	横浜市瀬谷消防署 予防課